

# 資 料

## 細 目

### I 創設・開館関係

資料 1	内閣総理大臣あて日本学術会議の勧告	185
資料 2	設立推進連絡協議会の協力・支援要請文書	190
資料 3	「国文学研究資料センター(仮称)設立の基本構想について」(学術審議会報告)	192
資料 4	設置に関する法令等(抄)	196
4.1	国立学校設置法(抄)	196
4.2	昭和47年文部省令第23号(抄)・25号	196
4.3	昭和47年文部省訓令第19号	198
4.4	昭和47年5月31日付『官報』資料版「国文学研究資料館が発足」(文部省)	200
資料 5	『国文学研究資料館報』第1号寄稿「設立をよろこんで」(久松潜一)	201
資料 6	開館式典祝辞	202
6.1	文部大臣海部俊樹祝辞	202
6.2	国文学研究資料館評議員会議議長山岸徳平祝辞	203

### II 事業一覧

資料 7	調査・収集一覧	205
7.1	調査・収集結果文庫別年度別一覧	205
7.2	史料館収蔵史料一覧	229
資料 8	所蔵資料統計	237
8.1	所蔵資料数一覧(昭和57年3月31日現在)	237
8.2	所蔵マイクロ資料(ロールフィルム)点数の推移	238
8.3	所蔵図書冊数の推移	238
8.4	所蔵逐次刊行物誌数(目録収載誌数)の推移	238
8.5	マイクロ資料目録掲載点数の推移	238
8.6	所蔵図書の種別構成(昭和55年度末現在)	238
8.7	特別別置資料・寄託資料の概要	239
8.8	史料館の最近10年における図書・マイクロ史料の推移	239
資料 9	資料利用統計	240
9.1	資料利用状況(昭和56年度)	240
9.2	利用状況の推移	240
9.3	相互協力(複写受付)の推移(郵送分を含む)	241
9.4	利用登録者の構成	242
9.5	史料館の最近10年における史料利用状況の推移	243

資料10 出版物一覧	244
10.1 出版状況一覧	244
10.2 シリーズ出版物各号表題	248
10.3 紀要等内容一覧	250
資料11 研究集会・講演会・講習会・展示	254
11.1 国際日本文学研究集会	254
11.2 公開講演会	255
11.3 展 示	256
11.4 最近10年間の近世史料取扱講習会	258
資料12 共同研究等	265
12.1 共同研究	265
12.2 近世史料所在調査	266
12.3 史料館研究会 館外講師招聘一覧	267
12.4 科学研究費補助金による研究プロジェクト	267
資料13 研究者の受入れ・派遣，大学院教育協力	268
13.1 内地研究員・私学研修員の受入れ	268
13.2 国際交流基金フェローの受け入れ	268
13.3 大学院教育協力	269
13.4 在外研究員派遣等	269
資料14 組織定員の推移	271
14.1 組織機構の推移	271
14.2 定員の推移	271
資料15 施設の推移	272
資料16 予算の推移	273

### Ⅲ 名 簿

資料17 評議員・各委員会委員	274
17.1 評 議 員	274
17.2 各委員会委員	274
資料18 文献資料調査員・文献資料特別調査員・文献資料収集員	276
資料19 客員・外国人研究員(客員教授)	282
資料20 共同研究員	283
資料21 旧 職 員	283
資料22 現 職 員	285
資料23 現評議員・運営協議員	287

23.1 現 評 議 員	287
23.2 運 營 協 議 員	287

#### IV 参考法令(抄)

資料24 国立学校設置法(抄)	288
資料25 文部省令(抄)	289
25.1 国立学校設置施行規則(抄)	289
25.2 国立大学共同利用機関組織運営規則(抄)	289
資料26 文部省訓令(抄)	292

## 1. 内閣総理大臣あて日本学術会議の勧告

庶発第1794号

昭和41年12月15日

内閣総理大臣

佐藤栄作殿

日本学術会議会長

朝永振一郎

### 国語・国文学研究資料センター（仮称）の設置について（勧告）

標記のことについて、本会議第47回総会の議に基づき、別紙のとおり勧告します。

（別紙）

### 国語・国文学研究資料センター（仮称）の設置について

政府は、国語国文学の研究の重要性とその研究資料の調査収集保存の緊急性とにかんがみ、研究用資料の組織的な調査・収集・保存・整理を行ない、これを学界一般に公開すると共に、研究上の情報をも提供し、内外の研究者のための共同利用機関としての機能を有する国立の国語国文学研究資料センターを、すみやかに設置せられるよう勧告する。

なお、設置に当っては、上記の機能を達成する必要な物的施設と必要にして十分な職員数を確保するための適切な財政措置を講ぜられたい。

また、その設置並びに運営については、それぞれの専門家による運営協議会（仮称）を設置せられたい。

緊急設置の必要な理由とその説明

1. 国語・国文学の研究が、わが国固有の言語・文学の実態を歴史的系統的に調査し、かつその言語表現を通じて国民の思想感情を科学的に把握、民族性を明らかにするものとして、わが民族にとって重要不可欠のものであることは、今さういうまでもない。
2. わが国における関係文献・資料は、すでに関東大震災や先般の戦災によって多数失われている上に、近年は戦後の社会状況の激変によって、その所有関係の移動がはなはだしく、中にはその所在の不明になるものすら生じ、あまつさえ、貴重な文献・資料であって国外に流出するものもはなはだ多い。もっとも、その保存のためには、一部のものに対して法的、財政的措置が講ぜられているけれども、国語・国文学資料の全点に及ぶものではない。すなわちかかる現状から見ると、文献・資料の網羅的にして、かつ組織的な調査・収集・保存をはかることは、まさに急務といわなければならない。今にして、組織的に国語・国文学に関する各種文献資料を調査し、収集し、複写、複製等、然るべき保存方法を講じ、これを広く学界の利用に役立てるようにしなければ、悔いを千載に残すことになりかねないのである。

3. 今日まで、各研究機関または研究者個人が、幾多の困難を克服して個々に文献の調査収集に努力し、研究を推進して来たが、それらの収集、研究は、各研究機関、各研究者が個々別々に計画を進め、相互の組織的協同体制が不十分であったため、収集においては組織性と網羅性を欠き、研究においてもその成果を十分にあげ得ざるうらみがあった。従って、国語・国文学研究の一段の発展を期するためには、組織的収集と共同利用研究体制とを確立することが急務である。
4. また近時海外における日本語及び日本文学の研究は、画期的にめざましい進展を見せ、国際日本文学研究会議の日本における開催を要望する声すら国の内外から起っている。かかる情勢から見て、内外情報の相互提供が必要度を増して来たのであって、その見地からいっても国語・国文学研究資料センターの設置整備は、極めて必要である。
5. 以上の如き諸般の情勢に対処し、それらの緊急諸要件を迅速正確に満たすための機関として、十分な機構と組織とを持つ国語・国文学研究資料センターをすみやかに設置することが急務である。

### 国語・国文学研究資料センターの構想

諸要求を充足するために、国語・国文学研究資料センターの事業と機構と設備とを、次のような構想のものとする。

#### 1. 事業

- (1) 国語・国文学に関する文献、資料の所在の調査、確認、収集、整理、保存（録音、録画、マイクロフィルム等を含む）及び閲覧に供すること。
- (2) 内外の研究情報の収集、整理、公開、伝達（翻訳事業を含む）。
- (3) 国語・国文学の各種研究に資するための研究資料解題、研究論文の要約及び索引等の作成。
- (4) 以上の事業の成果を研究者のもとに応じて複写提供等のサービスをする。
- (5) 研究年鑑、文献目録、情報資料の編集刊行、研究資料の複製、複製等。

#### 2. 機構

本センターの事業を十分に遂行するために、次の3部12室を置く。

- |           |         |  |                          |   |
|-----------|---------|--|--------------------------|---|
| (1) 文献資料部 | 企画、収集室  | 国語・国文学に関する文献、資料の所在の調査、確認、収集についての企画と実施。 |                          |   |
|           | 整理、保管室  |  | 収集された文献、資料の整理、保管および閲覧業務。 |   |
|           | 録音録画資料室 |  |                          | 語学・文学・演劇等の研究資料として、たとえば、方言、民間芸能等の録音録画とその整理、保管。 |
|           | 索引室     |  |                          |   |

- (2) 研究情報部
- 収集整理室  
国内における研究情報を広く収集し、かつ整理する。
  - 編集室  
文献目録・研究年鑑・情報資料の編集刊行。  
研究資料の解題複製、複製研究論文の要約等。
  - 相談室  
研究者への情報提供その他のサービスへの窓口。
- (3) 国際情報部
- 研究情報室  
国外の研究情報を収集整理するとともに、国内の研究情報を国外研究者に提供し、また国外研究者の研究上の相談に応じる
  - 翻訳室  
日本文学作品または研究書等を外国語に翻訳紹介することは、年々盛んになり、最近ではユネスコでもこの種の企画があるといわれているが、かかる情勢の下にあって、できるだけ理想にちかい形でわが国の文学並びに研究文献が海外に紹介されることを期待するためにこの室を設け、翻訳及び翻訳についての企画協力者の斡旋等を管掌させる。
- (4) 機器室
- (5) 写真及び録音録画室
- (6) 事務室

### 3. 設 備

(1) 建物延坪	6,898m <sup>2</sup>	2,087坪	8,566m <sup>2</sup>
階段、廊下、便所等	1,668m <sup>2</sup>	505坪	2,592坪
平均坪単価	140,000円	建築費	37,288万円
(附帯設備を含む)			

#### 建物内訳

##### a 文献資料部：

部 長 室	33m <sup>2</sup>	10坪
事 務 室	396m <sup>2</sup>	120坪
目 録 室	132m <sup>2</sup>	40坪
閱 覧 室	198m <sup>2</sup>	60坪
マイクロリーダー室	33m <sup>2</sup>	10坪
録 音 録 画	400m <sup>2</sup>	120坪
資 料 室		
資 料 整 理 室		
索 引 資 料 室	759m <sup>2</sup>	230坪
同 事 務 室		
書 庫	2,000m <sup>2</sup>	606坪

(エレコンパック)

(20万冊収容)

## b 研究情報部:

部 長 室	33m <sup>2</sup>	10坪
情 報 整 理 室	132m <sup>2</sup>	40坪
編 集 室	100m <sup>2</sup>	30坪
資 料 室	198m <sup>2</sup>	60坪
相 談 室	66m <sup>2</sup>	20坪

## c 国際情報部:

部 長 室	33m <sup>2</sup>	10坪
研 究 情 報 室	132m <sup>2</sup>	40坪
情 報 資 料 室	165m <sup>2</sup>	50坪
応 接 室	33m <sup>2</sup>	10坪
翻 訳 室	100m <sup>2</sup>	30坪

## d 事務室:

セ ン タ ー 長 室	33m <sup>2</sup>	10坪
事 務 長 室	33m <sup>2</sup>	10坪
事 務 室	132m <sup>2</sup>	40坪
印 刷 室	50m <sup>2</sup>	15坪
守 衛 室	33m <sup>2</sup>	10坪
用 務 員 室	33m <sup>2</sup>	10坪
小 会 議 室	66m <sup>2</sup>	20坪
中 会 議 室	132m <sup>2</sup>	40坪
大 会 議 室	198m <sup>2</sup>	60坪
宿 直 室	20m <sup>2</sup>	6坪
倉 庫	198m <sup>2</sup>	60坪
車 庫	330m <sup>2</sup>	100坪

e 機 械 室 66m<sup>2</sup> 20坪f 写 真 室 66m<sup>2</sup> 20坪同 処 理 室 33m<sup>2</sup> 10坪g 計 算 機 室 400m<sup>2</sup> 120坪

(保守要員, パンチャー室)

h 映写等再生室 66m<sup>2</sup> 20坪i 録音録画スタジオ 66m<sup>2</sup> 20坪計 建坪 6,898m<sup>2</sup> 2,087坪

(2) 附帯設備費 194,113,000

a 書庫リフト }  
エレコンパック } 48,000,000

b 浄 化 槽 300,000



c	電子計算機一式	125,750,000 (NEAO2200モデル300)	
d	ドキュメンテーション施設	10,000,000	
e	マイクロ撮影機	リコーMOAD	1,570,000
	自動現像機	レコーダックプロスタープロセッサードVR型	
			1,250,000
	フィルム複製機	東京マイクロ写真PA3	
			240,000
			3,060,000
f	マイクロリーダー	450,000国産品(3ヶ)プリンター付	@¥ 150,000
g	ゼロックス	1,400,000借用	
h	除湿機	153,090 日立RD2005(3ヶ)	@¥ 51,000
i	その他		
	録音録画装置	5,000,000	
	移動撮影車, オフセット印刷器等		
	建物費	} 566,993,000円	
	設備費		

#### 4. 運営上の所要人員(概算)

センター長		1名		
文献資料部	長	1名		
企画収集室	室長	1名	専門員	15名
(36名)	係員	20名		
整理保管室	室長	1名	司書	5名
(14名)	係員	5名	タイピスト	3名
録音録画資料室	室長	1名	専門員	5名
(12名)	係員	5名	タイピスト	1名
索引室	室長	1名	専門員	10名
(21名)	係員	10名		
研究情報部	長	1名		
整理室	室長	1名	専門員	6名
(18名)	係員	10名	タイピスト	1名
編集室	室長	1名	専門員	5名
(11名)	係員	5名		
相談室	室長	1名	専門員	2名
(6名)	係員	3名		
国際情報部	長	1名		
研究情報室	室長	1名	専門員	10名
(18名)	係員	5名	欧文タイピスト	2名

翻 訳 室 (11名)	室長	1名	専門員	5名
	係員	5名		
事 務 室 (14名)	事務長	1名	事務官	2名
	係長	1名		
経 理 (5名)	タイピスト	1名	係員	1名
	作業員	3名	運転手	3名
	係長	1名	守衛	3名
			事務官	2名
機 械 室 (10名)			係員	2名
	技術員	8名	係員	2名
録 音 録 画 室 (5名)	技術員	3名	係長	2名
電子計算機要員 (パンチャーを含む)		8名		

計 193名

なお、一般の研究職員(部長、室長等を含む)、図書職員、技能職員、事務職員のほか、本センターは多くの機械類を設備し、貴重な資料を保管するから、とくに守衛、用務員の数を十分に確保する必要がある

建 築 設 備	} 3年計画	索 引 室	第3年次設置
		翻 訳 室	第2年次設置
		相 談 室	

## 2. 設立推進連絡協議会の 協力・支援要請文書

### 2.1 昭和44年3月配布文書(原文縦書き)

御協力を乞う

世界が近代日本の躍進に注目し、日本政府も近代日本の華たる近代日本文学のために近代日本文学館を開設することに力を惜しまなかった。さらに進めて、近代日本文学の背後に、古く久しい日本語のいのちと日本文学のながれとがゆたかにみなぎっていたことが忘れられてはならない。川端康成氏のノーベル文学賞受賞の前後に見られる通り、日本語の表現力・日本文学の伝統は再評価されつつあることは明らかである。ここに、国語・国文学の研究の重要性とその研究資料の調査収集保存の緊急を痛感し、日本学術会議はその第47回総会の議に基づき、昭和41年12月15日付佐藤内閣総理大臣あて、後記の如き勧告を行なった。御熟読の上、国語・国文学研究資料センターの設立を早急に実現すべく、精神的にも物質的にも力強い御支援をば賜わりたくお願いする次第である。

国語・国文学研究資料センター設立推進連絡協議会 代表 久松潜一  
事務局 國學院大學日本文学第二(臼田教授)研究室内(東京都渋谷区東4-10-28)  
電話409-0111

協力学会 全国大学国語国文学会・日本文学協会・国語学会・上代文学会・古代文学会・中古文学会・  
中世文学会・日本近世文学会・近代日本文学会・和歌文学会・俳文学会・日本歌謡学会・説  
話文学会・日本演劇学会・仏教文学会・日本文学風土学会・古事記学会・万葉学会・訓点語  
学会・文体論協会・表現学会・近代語学会

## 2.2 昭和45年8月配布文書（原文縦書き）

### 「国文学研究資料センター（仮称）」の設置促進について……

歴史的変遷ははげしく急速に行なわれる時代がある。また広い範囲にわたってなされる時期がある。1970年代ということばは、世界的な発展を予想させる内容をもっている。変遷といい、発展というのも過去からのそれを意味することはいうまでもない。伝統と創造とは常にわれわれに与えられた課題であり、われわれは祖先の遺産を基礎とし日本の文化的所産を継承し批判し発展させ現代社会の向うべき方途を見出さなければならない。今、国文学研究者が国民の中にあつて「国文学資料センター（仮称）」の設立を熱望し、早急に実現するよう努力しているのも、わが国において当然なされねばならない事業の使命と国民からの要請を痛感しているからにほかならない。

けれどもこの施設への念願はけつて今日はじめて発想されたものではなく、国文学研究者がひとしく長い間の宿志として心に描いていたものである。研究者個人が各地に散在する資料を、調査、閲覧、収集、保存するのに、どのような精神的物質的困難不便が横たわっていたかは、ひとたびこのことに携ったものひとりひとりが身をもって知らされた事実である。そればかりではなく貴重な資料が、震災戦災等によって多数失われ、あるいは社会的変動によって、その所在が不明に帰し、また管理が不十分のままにおかれたり散逸のおそれのある場合があり、時には海外に流出する例も見られたのである。国民の精神文化につちかう土壌として文学的資料のありかたや利用の方法を研究者はたえず憂慮しつづけていたのである。一方、国文学研究の発展はまことに日進月歩というべき状態である。大学、研究所、学会・協会の研究機関誌の発行、研究書の刊行、資料の複製等もおびただしい量にのぼる。情報化時代の様相はここにもあきらかに看取される。個人の努力と熱情とにかかっていた研究の推進に対して、今日新たな体制が要求される時期が到来している。資料の網羅的、組織的な調査、収集、整理、保存はただちに着手されなければならない急務であり、これを広く研究者並びに国民一般に公開し、総合的研究や文化的教育的啓蒙・普及活動に資する設備がすみやかにとのえられなければならない。

日本学術会議は昭和41年12月15日に佐藤内閣総理大臣にあてて国語・国文学研究資料センター（仮称）設置についての勧告を行なった。前述の諸般の事情を説明し設置の急を強調したものであり、資料の収集その他と内外研究者に対する研究情報の提供とをその任務としている。また同時に、国語国文学界の二十数学会はこの資料センター設立のために一致協力して「国語国文学研究資料センター設立推進連絡協議会」の成立を見、まず収集すべき文献資料として、第一次文献目録の作成に着手しすでにこの結果を文部省に提出した。国文学研究者各個人の悲願がようやく具体化に向かってきたといえよう。

文部省ではこの学界の動向と研究者の熱望に応じて「国文学研究資料センター（仮称）」実現の措置に踏み切り、具体的調査に着手したということである。資料センター設立の機運は熟した。われわれがあえて江湖に訴えることは、わが国の古典に関するこの国家的事業に対し、国文学研究への理解と協力を得た

いことである。そしてその成果がふたたび広く国民全般に還元されることを切望するものである。国文学は国民的遺産であるとともに国内ばかりでなく海外においても新たに評価されつつある。このセンターの設立がすみやかに実現するよう、わが国においてはじめて実現し得る国家的事業として国民各方面のご支援を賜わるようお願いする次第である。

昭和45年8月

国文学研究資料センター設立推進連絡協議会

事務局＝東京都渋谷区東4丁目10番28号

国学院大学文学第二（臼田教授）研究室内

代表者＝久松潜一

### 3. 学術審議会報告

「国文学研究資料センター（仮称）設立の基本構想について」

学術審議会

昭和45年9月17日

国文学研究資料センター（仮称）設立の基本構想について

1. 設立を緊急に必要とする理由
2. 目 的
3. 事 業
4. 設置の形想
5. 情報処理体制
6. 資料収集計画
7. 建設費概算（一例）
8. 人員（一例）
9. 年次計画

参 考

- I 国文学研究資料センター（仮称）の設立について（報告）
- II 国文学研究資料センター（仮称）の設立について（経緯）

国文学研究資料センター（仮称）設立の基本構想について

1. 設立を緊急に必要とする理由

国文学の古典は、わが日本民族の精神文化の世界に誇るべき一大所産であり、国文学の研究は、日本文化の継承と発展のために重要不可欠のものである。

国文学の研究には、書誌調査、校訂、註釈のような基礎的研究、解釈・鑑賞・批評、作品研究、作家研究、文学史研究などがあるが、いずれにしても研究の基礎として原本、異本、註釈本（これらのうち未発掘と推定されるものを含む。）、研究論文等多岐にわたる文献・資料が研究上きわめて重要である。従来、国文学に関する文献・資料の調査、収集は各研究機関または研究者個人が幾多の困難を克服して個々に行ない研究を推進してきたが、これらの調査、収集、利用は各研究機関、各研究者が個々別々に計画を進め

調査、収集において組織性ともうら性を欠き、研究においてもその成果を十分にあげ得ないうらみがあった。

こうした事情にかんがみ、国文学の古典に関する文献・資料の収集、受託、保存、利用等を総合的に行なう機関の設立は、国文学研究者の間でかねて要望されてきたところであるが、これまで実現されなかったのは、旧家等に所蔵される資料の借用はもちろん、閲覧すら容易でなかったことに見られる閉鎖性や関係学会の孤立性によることが多かったと考えられる。

ところが、戦後、社会状況の変化に伴ない、旧家等がその所蔵資料を積極的に研究者に提供する機運が高まるとともに、関係学会においても、その孤立性を払拭して、相互協力の体制を整えるようになり、ついに国文学関係者が本センター設立のために全面的に一致協力するに至ったのであるがこれは国文学研究史上画期的なことといわなければならない。

国文学関係の代表的な20余の学会は協力して、すでに設立の基礎資料としての「第1次文献目録一覧表」の作成を完了しており、本センター設立の機運は具体的に熟している。他面、国文学に関する貴重資料は関東大震災や戦災において経験したように、不慮の災厄による滅失や虫害の危険にさらされているのみならず現状のままでは亡失するおそれも多分にある。この点からいつでも本センターの設立は緊急を要する。

なお、本センターは国文学研究者のみならず関連分野の研究者さらには国民一般の利用にも供され日本文化の継承と発展に資すること多大であると思われるが、さらに、近来とみに増加しつつある海外における日本文学研究者および愛好者による活発な利用が期待され、文学を通じての国際文化の交流に貢献することが大であると考えられる。

本センターの設立はわが国でなければならない事業であり、しかも、わが国が緊急に行なわなければならない事業の一つであると考ええる。

## 2. 目 的

国文学に関する研究用資料の組織的な調査、収集、受託、保存および整理ならびに研究上の情報の収集を行ない、これらを当該研究者の利用に供することにより、内外の研究者のための共同利用機関としての役割を果たすとともに、あわせて当該研究用資料を国民一般の利用にも供することを目的とする。

## 3. 事 業

- (1) 国文学に関する文献・資料（主として江戸時代までのもの）の所在調査、探訪、収集、受託、整理、保存および利用（閲覧・公開、複写提供）
- (2) 内外における国文学関係研究情報の収集、整理、公開
- (3) 国文学の各種研究に資するための文献・資料の解題、研究論文の要約・索引の作成、文献・資料目録、研究年鑑、情報資料等の編集刊行ならびに文献・資料の複製・翻刻
- (4) 情報相談等サービス業務の実施
- (5) 研究会、講演会、展示会、談話会等の研究・普及活動の実施

## 4. 設置の形態

文部大臣所管の国立の機関とする。

## 5. 情報処理体制

国文学に関する研究用資料の収集、整理、保存、提供、文献検索システムの開発・利用等を電子計算機を中心とする情報処理システムを導入して行なうこととし、内外の研究者の需要に適切に応じうる高度な情報検索システムを確立する必要がある。

## 6. 資料収集計画

本センターは、古代より江戸時代に至る間におよそ日本人が著作し、編纂し、翻訳した国文学に関するもののうち書名、著者名等の判明しているもの約6万点（異本を含め50万点）について所在調査、採訪を行ない、その原本、異本または複製本の収集ならびにマイクロおよび写真本の作製を行なうものとするが、上記の6万点以外の未発見のものについてもその発掘に力を注ぐものとする。

## 7. 建設費概算（一例）

建物施設	8,600m <sup>2</sup> (2,600坪)	7億円
事務室、文献資料部、研究情報部、情報処理企画室、電子計算機室、書庫、閲覧室、目録室、索引室、展示室、講演・会議室等		
特殊設備	1.8（電子計算機借料0.5億円を含む）	
書架、エレコンパック、マイクロフィルム撮影機、自動現像機、リーダープリンター、マイクロフイツシュ撮影・現像機、除湿機等		
第1期（昭和46、47年度）資料収集費		1.5

---

計	10.3億円
---	--------

## 8. 人 員（一例）

庶務、会計関係	21人
文献資料部関係	27
研究情報部関係	22
情報処理関係	6

---

計	76人
---	-----

## 9. 年次計画

年 度	46	47	48	49
人 員				
建 物				
設 備				
資料収集	第 1 期	漸 次 整 備		

## 参 考

### I 国文学研究資料センター（仮称）の設立について（報告）

学術審議会第5号

昭和45年 9月17日

文部大臣

坂 田 道 太 殿

学術審議会会長

茅 誠 司

## 国文学研究資料センター（仮称）の設立について（報告）

本審議会は、さきに諮問のあった学術振興に関する当面の基本的な施策に関し、学術研究体制の整備について学術研究体制特別委員会を設け審議を重ね、さきに学術研究体制の整備についての基本的な考え方（中間報告）を同特別委員会の名で公表しました。

同特別委員会はその後、中間報告の肉づけ、改訂等のために審議をすすめておりますが、その審議においてあわせて日本学術会議から設立の勧告があった研究所についても慎重に検討を行ない、そのうち、「国語・国文学研究資料センター（仮称）」については、「国文学研究資料センター（仮称）」と改めて、これを緊急に設立することが適当であると考えるにいたりました。よって専門小委員会を設け、その基本構想について審議のうえ、このたび別紙のとおり結論に達しましたので総会の議を経てここに報告いたします。

## II 国文学研究資料センター（仮称）の設立について（経緯）

1. 「国語・国文学研究資料センター（仮称）の設置について」日本学術会議会長から内閣総理大臣に勧告があった。（昭和41年12月15日）
2. 本センターの設立を推進するため、全国大学国語国文学会、日本文学協会など国文学関係の代表的な20余の学会が「国語・国文学研究資料センター設立推進連絡協議会」を設置した。  
（昭和42年 5月設置、代表者 東京大学名誉教授 久松潜一）
3. 同協議会は、収集すべき文献・資料のサンプル調査（文献の書名、編著者・校註者、刊・写、大きさ、冊数・巻数、張数、筆写者、出版元、筆写・出版の年時、所在、複製発行所、公開・非公開、マイクロ許可見込等の確認調査）を行ない、「文献目録一覧表」4冊（㊶古代から中世までの散文・絵巻物1,185点、㊶古代から近世までの韻文（和歌、俳文学、歌謡）1,059点、㊶近世の散文、演劇479点、計2,723点、複製本1,396点、合計4,119点）を作成し、昭和45年 4月24日および同年 6月10日に文部省に提出した。
4. 学術審議会学術研究体制特別委員会においては、日本学術会議から設立を勧告された研究所で、未処理のもの25について審議を重ねてきたところ、本センターを最優先的に取り上げることが適当であるとの意見のもとに、専門小委員会を設けて、さらに具体的に検討をすすめることとなつた。その際、同特別委員会は、本センターの名称について、「国立国語研究所」との関係もあり、「国文学研究資料センター（仮称）」とするのが適当であるとの意見であった。（昭和45年 6月25日）
5. 同専門小委員会は 7月30日に第 1回、 8月11日に第 2回の会議を開催し、その基本構想について審議

を行なったが、一方、本センターが国文学関係の情報センターとしての役割りを果しうるように上記会議と並行して8月11日及び13日の両日、情報処理関係者を参考人として招き、本センターの電子計算機の導入等国文学情報の処理体制等について意見を聴取し、これらをまとめて基本構想について結論を得た。

6. 上記の基本構想についての結論は、8月26日開催された学術審議会総会に学術研究体制特別委員会から報告し了承されたが、学術審議会会長から文部大臣へ報告する報告文の作成については、茅会長および学術研究体制特別委員会に一任され、9月17日開催の同特別委員会に茅会長も出席の上正式に報告文が決定され、文部大臣に報告された。

#### 4. 設置に関する法令等 (抄)

##### 4.1 国立学校設置法 (抄)

昭和24年5月31日

法律第150号

(国文学研究資料館)

第9条の2 国文学研究資料館は、国立大学における学術研究の発展に資するための国立大学の共同利用の施設として、国文学に関する文献その他の資料の調査研究、収集、整理及び保存を行ない、かつ、国立大学の教員その他の者で国文学の研究に従事するものに利用させる機関とする。

2 国文学研究資料館は、東京都に置く。

3 前条第2項の規定は、国文学研究資料館について準用する。

##### 4.2 昭和47年文部省令第23号(抄)・25号

###### ○文部省令第23号

国立学校設置法(昭和24年法律第150号)第5条第1項及び第13条の規定に基づき、国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令を次のように定める。

昭和47年5月1日

文部大臣 高 見 三 郎

国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令

国立学校設置法施行規則(昭和39年文部省令第11号)の一部を次のように改正する。

目次中「高エネルギー物理学研究所(第46条)」を「高エネルギー物理学研究所及び国文学研究資料館(第46条・第47条)」に改める。

「第4章 高エネルギー物理学研究所」を「第4章 高エネルギー物理学研究所及び国文学研究資料館」に改める。

第46条の次に次の一条を加える。

(国文学研究資料館)



第47条 国文学研究資料館に置かれる職の種類並びに国文学研究資料館の組織及び運営の細目については、国文学研究資料館組織運営規則（昭和47年文部省令第25号）の定めるところによる。

附則第3項中「第6項」を「第5項」に改め、附則第3項以下を1項ずつ繰り下げ、第2項の次に次の1項を加える。

○文部省令第25号

国立学校設置法（昭和24年法律第150号）第10条及び第13条の規定に基づき、国文学研究資料館組織運営規則を次のように定める。

昭和47年5月1日

文部大臣 高 見 三 郎

国文学研究資料館組織運営規則

（職員の種類）

第1条 国文学研究資料館（以下「研究資料館」という。）に、次の職員を置く。

館長

教授

助教授

助手

事務職員

技術職員

2 館長は館務を掌理する。

3 教授は、研究に従事し、及び国立大学その他の大学の大学院における教育に協力するための学生の研究指導を行なう。

4 助教授は、教授の職務を助ける。

5 助手は、教授及び助教授の職務を助ける。

6 事務職員は、庶務、会計等の職務に従事する。

7 技術職員は、技術に関する職務に従事する。

（内部組織）

第2条 研究資料館に、次の3部を置く。

一 管理部

二 文献資料部

三 研究情報部

2 前項に掲げるもののほか、研究資料館に、史料館を置く。

（管理部）

第3条 管理部においては、庶務、会計及び施設等に関する事務を処理する。

2 管理部に、その所掌事務を分掌させるため、文部大臣が別に定めるところにより、課を置く。

3 管理部及び課に、それぞれ部長及び課長を置き、事務職員をもって充てる。

4 部長は、館長の命を受け、部の事務を掌理する。

5 課長は、上司の命令を受け、課の事務を処理する。

(文献資料部及び研究情報部)

- 第4条 文献資料部においては、国文学に関する文献その他の資料の調査研究及び収集を行なう（研究情報部及び史料館の所掌に属するものを除く。）。
- 2 研究情報部においては、国文学に関する研究文献及び研究に必要な情報の調査研究及び収集を行ない、並びに国文学に関する文献その他の資料の整理、保存及び閲覧を行なう（史料館の所掌に属するものを除く。）。
- 3 文献資料部及び研究情報部に、その所掌事務を分掌させるため、文部大臣が別に定めるところにより、室を置く。
- 4 文献資料部及び研究情報部並びに室に、それぞれ部長及び室長を置き、部長は教授をもって、室長は教授又は助教授をもって充てる。
- 5 部長は、館長の命を受け、部の事務を掌理する。
- 6 室長は、上司の命を受け、室の事務を処理する。

(史料館)

- 第5条 史料館においては、わが国の史料で主として近世のものの調査研究、収集、整理、保存及び閲覧を行なう。
- 2 史料館に、長を置き、教授をもって充てる。
- 3 前項の長は、史料館の事務を掌理する。
- 4 史料館に、その所掌事務を分掌させるため、文部大臣が別に定めるところにより、室を置く。
- 5 室に、室長を置き、教授又は助教授をもって充てる。
- 6 室長は、上司の命を受け、室の事務を処理する。

(各部及び史料館の連携)

- 第6条 各部及び史料館においては、研究資料館の目的を効果的に達成するため、相互に緊密に連携し、館務の一体的な処理にあたるものとする。

(評議員)

- 第7条 研究資料館に、評議員20人以内を置く。
- 2 評議員は、研究資料館の事業計画その他の管理運営に関する重要事項について、館長に助言する。
- 3 評議員は、国立大学の学長その他の学識経験のある者のうちから、文部大臣が任命する。
- 4 評議員は、非常勤とする。
- 5 評議員の任期その他評議員に関し必要な事項は、別に文部大臣が定める。

附 則

- 1 この省令は、公布の日から施行する。
- 2 研究資料館には、当分の間、第1条第1項に定めるもののほか、講師を置くことができる。
- 3 講師は、教授又は助教授に準ずる職務に従事する。

#### 4.3 昭和47年文部省訓令第19号

○文部省訓令第19号

国文学研究資料館組織運営規則（昭和47年文部省令第25号）第3条第2項、第4条第3項及び第5条第

4 項の規定に基づき、国文学研究資料館の内部組織に関する訓令を次のように定める。

昭和47年 5 月 1 日

文部大臣 高 見 三 郎

国文学研究資料館の内部組織に関する訓令

(管理部)

第1条 管理部に、次の2課を置く。

- 一 庶務課
- 二 会計課

2 庶務課においては、次の事務をつかさどる。

- 一 職員の人事に関する事務を処理すること。
- 二 職員の衛生、医療及び福利厚生に関する事務を処理すること。
- 三 公文書類を接受し、発送し、編集し、及び保存すること。
- 四 公印を管守すること。
- 五 国文学研究資料館の所掌事務に関し、連絡調整すること。
- 六 国文学研究資料館の評議員で構成する会議に関すること。
- 七 前各号に掲げるもののほか、他の所掌に属しない事務を処理すること。

3 会計課においては、次の事務をつかさどる。

- 一 予算に関する事務を処理すること。
- 二 経費及び収入の決算その他会計に関する事務を処理すること。
- 三 行政財産及び物品の管理に関する事務を処理すること。
- 四 施設の整備に関すること。
- 五 庁舎及び設備の維持管理に関する事務を処理すること。
- 六 庁内の取締りに関すること。

(文献資料部)

第2条 文献資料部に、次の3室を置く。

- 一 第1文献資料室
- 二 第2文献資料室
- 三 第3文献資料室

2 第1文献資料室においては、主として古代における国文学に関する文献その他の資料（国文学に関する研究文献及び研究に必要な情報を除く。以下第3項及び第4項において同じ。）の調査研究及び収集を行なう。

3 第2文献資料室においては、主として中世における国文学に関する文献その他の資料の調査研究及び収集を行なう。

4 第3文献資料室においては、主として近世における国文学に関する文献その他の資料の調査研究及び収集を行なう。

(研究情報部)

第3条 研究情報部に、次の2室を置く。

- 一 情報室

## 二 整理閲覧室

- 2 情報室においては、国文学に関する研究文献及び研究に必要な情報の調査研究及び収集を行なう。
- 3 整理閲覧室においては、国文学に関する文献その他の資料の整理、保存及び閲覧を行なう。

(史料館)

第4条 史料館に、次の4室を置く。

### 一 第1史料室

### 二 第2史料室

### 三 第3史料室

### 四 情報閲覧室

- 2 第1史料室においては、武家、公家及び寺社に関する史料の調査研究及び収集を行なう。
- 3 第2史料室においては、町方に関する史料の調査研究及び収集を行なう。
- 4 第3史料室においては、村方に関する史料の調査研究及び収集を行なう。
- 5 情報閲覧室においては、史料の整理、保存及び閲覧を行なう。

## 附 則

この訓令は、公布の日から実施する。

## 4.4 昭和47年5月13日官報資料版解説(原文縦書き)

### 国文学研究資料館が発足

文 部 省

第68回国会で成立した国立学校設置法の一部を改正する法律(昭和47年法律第26号)により、本年5月1日をもって、国文学研究資料館(東京都品川区豊町)が発足した。以下その概要を紹介しよう。

#### ◇発足までのいきさつ

国文学の古典は、わが日本民族の精神文化として世界に誇るべき一大所産であり、国文学の研究は、日本文化の継承と発展のためにきわめて重要なものであるが、これまで研究の基礎的資料である国文学に関する文献・資料を総合的に収集・保存し、利用に供する機関がなかったため、研究者は、国文学研究の遂行に不便をきたしていた。しかも、国文学に関する貴重な文献・資料は、過去において経験したように震災などの不慮の災厄によって滅失する危険性があり、したがって、国文学に関する文献・資料を系統的かつ網羅的に調査収集し、整理保存して研究者の利用に供する機関を緊急に設立する必要があったからである。

文部省では、関係学会からの要望や日本学術会議からの勧告(昭和41年)、学術審議会の報告(昭和45年)に基づき、昭和46年度において、学術経験者で構成する準備調査会を設けて検討を行なうなど必要な準備調査を進めた結果、国立大学の共同利用の施設として、国文学研究資料館の設置をみるにいたったのである。

#### ◇事業の内容

国文学研究資料館において収集するのは、いわゆる国文学の古典(主として江戸時代までのもの。)である。

現在、このような国文学に関する文献・資料は書名、著者名の判明しているものだけで6万点(同じ書物であるが文字や語句の点で多少相違のある異本を含めると少なくとも50万点はあると推定されている。)

あり、その他のものも入れるとおそらく数百万点になろうといわれている。

これらの文献・資料は、現在関係機関の図書館などにも多く所蔵されているが、そのほか、旧家や神社仏閣などに所蔵されているものも多い。

国文学研究資料館では、このような膨大な量の文献・資料の所在調査を行ない、これを収集・整理・保存して利用に供しようとするものであるが、とくに収集にあたっては、滅失などの可能性のあるものは、できるかぎり原本そのものを収集することとし、一般的には、マイクロフィルムによって収集することとしている。

国文学研究資料館は、当面、文献・資料の調査・収集に重点をおいて事業を進めることとし、閲覧等の利用に供する事業は、昭和49年度から行なう予定であるが、完成した後の国文学研究資料館の事業は、次のようになる予定である。

- (1) 国文学に関する文献・資料の調査、収集、整理、保存および提供(閲覧、複写提供等)
- (2) 内外における国文学に関する研究文献等の収集および提供
- (3) 国文学に関する文献・資料の目録、索引、解題、研究年鑑、複製、翻刻等の作成および刊行
- (4) 国文学の研究に関する相談または案内
- (5) 講演会、展示会その他の普及活動
- (6) 国立大学その他の大学の要請に応じ、当該大学の大学院における教育に協力すること

なお、国文学研究資料館は、さきに述べたように、国立大学の共同利用の施設として設置されたものであるが、国立大学の教官ばかりでなく広く公開し、利用に供することになっている。

さらに、将来は、利用者の需要に迅速かつ的確に応じることができるよう、電子計算機による文献検索システムの開発も行なうことになっている。

#### ◇今後の整備充実

国文学研究資料館は、本年5月1日に設置されたが、完成された形で設置されたものではなく、職員および施設整備は、一応3年計画で整備する予定である。

したがって、発足当時は、職員数を15人とし、約2,500平方メートルの建物を新築することになっているが、将来は、職員数も大幅に増加するとともに、建物についても7,000平方メートル程度のものを整備する予定にしている。

なお、今回、国文学研究資料館が東京都品川区豊町に整備されたことに伴い、従来からその地に設置されていた文部省史料館は、国文学研究資料館の組織に組み入れられた。

## 5. 『国文学研究資料館報』第1号寄稿

設立をよろこんで

久松 潜一

国文学研究資料館がいよいよ設立されたことはまことに喜ばしい。国語・国文学の廿余の学会の悲願であっただけにその設立は諸学会にとってその希望の達せられた思いで一杯である。長い間の各方面の協力の賜物であるが、同時にこのような施設の設けられることが必要であり、また当然あるべきである、ということが誰れにも考えられていたからであろう。日本の文化に関する諸方面を見ても国史や美術については幾多の施設がすでにあり、国語研究所も設立されたのに、国文学に於てはそういう施設がなかった。さ

きに文壇や学界の協力によって近代文学館が設立され、近代文学の資料が蒐集され保存や活用をされるようになったのは社会の要望にこたえたものであったが、それとならんで古典文学の資料館の設立が一層望まれるようになった。そういう要望があつてこそ今度の実現となったのである。

ここでは設立を機として国文学研究資料館のありたい点の一、二についてのべて見たい。

結論的に言えば国文学の作品や研究文献がすべて集められ整理され、たとえ集められないものもその所在がわかつていて、どんなテーマに対しても資料館へ行けば、その資料が見られ、もしくは所在がわかるというのが理想である。研究資料館は図書館でもなく、博物館でもなく、研究所でもないが、またそれぞれの性格を有している。いわばそれらの総合された性格がある。図書館のようにあらゆる図書を集める必要はないが、国文学に関する限り、あらゆる図書が備わってほしい。国文学の研究資料は文献だけでなく伝誦されたものもあるから将来は伝誦されたものも録音で集められることも考えられる。あらゆる文献と言っても研究文献は現物で集められるが、作品の古写本などになると現物では容易に集められないから、どうしても複製で集めたり、マイクロフィルムで集めたりすることになる。諸施設や諸家の蔵するものでマイクロ・フィルムによって集められないものは、その所在を明らかにしておいてそこへ行けば見られるようにする。そのためには、国文学の資料を蔵する諸施設や諸家と緊密な協力を得られるようにすべきであろう。また現物にしても出来るだけ集める必要はあろうし、近世文学の作品は多く版本であるからそれらを集めることは、時をかせば出来ないことではない。また個人の集書にしてもこれを寄託してもらったりすることも出来る。私の知っている、一、二の研究家は自分の着手している研究がまとまったら、その研究資料を資料館に寄贈したいと言っていられる。資料館が資料を保存する上に信頼がおけるになればそういう人々も続々出て来るに相違ない。また国内及び国外において国文学資料で未だ調査されていない埋もれている資料も、相当にあることと思われるので、そういう未調査の文献・資料も資料館が中心になって調査することが望まれる。最近は地下に埋蔵されている文化財の発掘調査も盛んであるが、地上にあつて知られざる資料も明らかにする必要がある。館長の市古貞次氏は「国書総目録」の編集にもたずさわってこの方面に明るい人であるから、この方面に関して資料館の今後の堅実な成果が期待される。

集められ整理された資料を今後永久に保存出来ることは重要な目的であるが、これを現在に於て、研究者や一般の愛好者に活用出来るようにすること、いわば情報処理も重要な目標である。これについてはコンピュータなどにも利用されるようになり、適切な処理が行われるであろう。

資料館は発足したばかりで完成するまでには相当の年月を要するであろうが、これが完成して、資料館へ行けばあらゆる資料が見られ、もしくはその所在がわかるようになる時、その基礎の上に国文学のすぐれた学術的研究が一層なされるようになることは明らかである。国文学研究資料館の設立という一つの夢が実現されたことは、国文学の研究の進展のために、更に日本の学問のために慶びに堪えないのである。

(評議員)

## 6. 開館式典祝辞

### 6.1 文部大臣海部俊樹祝辞

#### 祝 辞

本日ここに国文学研究資料館の開館式が挙行されるに当たり一言ごあいさつを申し述べます。

国文学研究資料館は国文学に関する文献資料を網羅的に収集し広く国公立大学等の研究者の利用に供することを主たる目的として設置された国立大学共同利用機関であります。

顧りみますと昭和47年5月に当資料館が創設されて以来50年が経過いたしましたがこの間関係者の方々には全国各地に所在する文献資料の収集に並々ならぬ御苦勞を重ねられたことと存じます。

もとより今後の収集にまつべく残されている文献資料はなお膨大なものでありますがこのたび御覧のように瀟洒な建物が新築され内部の設備等も整ったのを機会に本日ここに開館の日を迎えられることとなりましたことは誠に慶賀に堪えません。

これもひとえに関係者各位の御努力御協力の賜物でありこれまでの皆様方のお骨折りに対して心から敬意を表する次第であります。

申すまでもなく国文学の研究は日本文化の継承と発展のために重要不可欠なものであります。

しかも国文学の歴史は上代から現代まで約千三百年にわたっておりその間に作られた文学作品ないしはこれに関連する文献資料の数も膨大であります。

これらの文献資料を組織的に調査研究し当資料館が国文学に関する我が国唯一の書誌情報センターとしてその活動を開始されますことは国文学研究の一段の発展を期する上で極めて意義深いことと考えます。

また近年海外における日本文学日本文化の研究はめざましい進展を見せており研究者層も次第に厚くなり研究内容につきましても高度なものも見受けられるようになってまいりました。

この際当資料館がひとり我が国の研究者のみならず志を同じうする世界各国の研究者にも広く門戸を開く方向を目指しておられることは我が国文化の特質を広く世界に理解して貰うためにも真に意義深いものと考えます。

当初の整備が整い栄ある開館式を行われた当資料館が館長をはじめ館員各位の御努力により今後愈々その事業内容を充実発展されるよう希望いたしますとともに御列席の各位におかれましても当資料館の今後に一層の御支援を賜りますようお願いいたしましてごあいさついたします。

昭和52年6月24日

文部大臣 海 部 俊 樹

## 6.2 国文学研究資料館評議員会議議長山岸徳平祝辞

### 祝 辞

国文学研究資料館の開館には、かねてからそれぞれの関係ある諸学会からの熱心な要望があった。

同時に又、日本学術会議の勧告もあったので学術審議会の報告等に基づきその準備のための調査会も設けられた事から発足したのであった。

その結果、昭和47年5月1日を以て大学の共同利用の機関として始めて設置せられたのであった。

その後関係者各方面の御協力や御支援により種々の準備や内容の検討を経て完全を期しつつ、本年6月即ち今月今日ここに開館の運びとなったのである。

誠に国文学界発展のため慶賀に堪えないのである。

蓋し国文学の研究は時間的には頗る長くて其の資料は量的にも甚だ多い。

故にその調査なり研究なりに踏みこんでは、必ずしも亡羊の嘆なしとしない。

されば本館が開設せられた事によって国文学研究も調査も、今後は更に格段の速進を促がされてその発達進歩を大いに期待させられる事が明確となった。

これによって国文学研究の進展・開発普及に一時期を画する運が開かれたと言うも過言ではないと確信する。喜ばしい極みである。

ここに国文学に携わる人々は、研究家も愛好者も等しくこの設備を利用し活用して国文学の研究の進展と普及の上に大いに寄与せられる事を希求し期待しつつ、一言蕪辞を述べて祝辞とする次第である。

昭和52年 6 月24日

東京教育大学名誉教授 山 岸 徳 平



## 7. 調査・収集一覧

### 7.1 国文学文献資料調査・収集結果文庫別・年度別一覧

#### 凡 例

- 1) これは、昭和56年度までに当館で収集（原則としてマイクロフィルム撮影）した書目点数を年度別・文庫別に集計したものである。

なお、46年度に文部省内の当館設立準備調査会が行なった撮影でその後当館に収められたマイクロフィルムも、その旨注記して併載した。

- 2) 文庫の配列は、ほぼ日本列島の東北から西南への順によった。個人名の敬称は省略した。機関名も簡略化したものがある。なお、個人・機関の所在や名義・名称で調査・収集当時と現在と異なるものは、できるだけ現状に合わせるよう心がけたが、「備考」に注記したものもある。

- 3) 各欄の数字は書目の点数であるが、その際原則として各文庫で1部の図書としているものを1点として数えてある。その中で各欄の下に寄せて括弧で囲んだのは収集点数、その他は調査結果であるが、後者の記号は以下のとおりである。

\*……細目調査カード（54年度まではいわゆるA・Bカード）

M……ノート、書目台帳、図書カードの写し等、規定書式によらぬもの。

△……点数未詳のもの、表示点数以外に多数ある旨の報告のみを受けているもの。

無表示……書目カード（いわゆるCカード）

D……叢書カード（いわゆるDカード）

- 4) 備考欄に太い角括弧で示したのは、その文庫の収集分が、マイクロ資料目録のその年度版に収められているという意味である。

所 蔵 者 名 (特殊文庫名)(市区郡名)	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	調査計	収集計	備 考
北海道・東北地区													
北 海 道													
北海道教育大釧路分校 (釧 路 市)					*22						*22		
井 田 等 (北 見 市)	11			*13 (13)							*13 11	13	[78]
旭 川 神 社 (旭 川 市)									*27 15		*27 15		
旭川市立図書館 (旭 川 市)									*40	*105 35	*145 35	293	
家 郷 隆 文 (岩 見 沢 市)			*14 (14)								*14	14	[79]
伊 達 邦 泰 (石 狩 郡)			*6 28	(12)							*6 28	12	[78]
北海道大学附属図書館 (札 幌 市)			(154)									154	[76][78][79][80]

所 蔵 者 名 (特殊文庫名)(市区郡名)	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	調査計	収集計	備 考
北海学園大学図書館 (北潟文庫)(札幌市)			(252)									252	【76】【79】
高 橋 伸 幸 (うもれ本文庫)(札幌市)				* 1	*12		*42	*3 (58)			*58	58	
小樽市立図書館 (小 樽 市)				*5							*5		
小樽市立博物館 (小 樽 市)				*6							*6		
伊達開拓記念館 (有 珠 郡)	78	*45 40	33	(42)							*45 151	42	【78】
市立室蘭図書館 (室 蘭 市)				*11 25	*21 25						*32 50		
市立函館図書館 (函 館 市)			*43	*36 58	*34 305 (73)	94	*165	*61 10	*24 (278)	(201)	*363 467	552	【79】
大 橋 嘉 子 (函 館 市)				19							19		
江差文化センター (桧 山 郡)			M26								M26		
松前町史編修室 (松 前 郡)				M21							M21		
松前町公民館 (松 前 郡)				M32							M32		
鷹栖神社 (五十嵐千早) (旭 川 市)										*42 2	*42 2		
青 森 県													
青森県立図書館 (青 森 市)			126					*682	(300)	(197)	*682 126	497	
市立弘前図書館 (弘 前 市)			1					*178	*109	*138 49	*425 50		
東奥義塾図書館 (奥文庫)(弘 前 市)	47			(23)							47	23	【79】
斎 藤 弘 明 (弘 前 市)				5							5		
八戸市立図書館 (八 戸 市)	410	957	4			3720		(328)	*177 (225)		*177 5091	553	
石 橋 亮 吉 (八 戸 市)	7										7		
上 杉 修 (八 戸 市)	1										1		
岩 手 県													
呑香稲荷神社 (二戸市)	103									*212	*212 103		
岩手大学附属図書館 (盛 岡 市)			187								187		
盛岡市公民館 (盛 岡 市)				*9 50	*107 18					*271	*387 68		
江刺市立図書館 (江 刺 市)			22								22		
水沢市立図書館 (水 沢 市)			7								7		

所 蔵 者 名 (特殊文庫名)(市区郡名)	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	調査計	収集計	備 考
陸前高田市立図書館 (陸前高田市)	M7										M7		
秋 田 県													
綴 子 神 社 (北 秋 田 郡)	5										5		
秋 田 大 学 (秋 田 市)	15										15		
県立秋田図書館 (秋 田 市)								*68	*109	*138	*315		
内 藤 実 (秋 田 市)	17										17		
市立大曲図書館 (大曲市)			28								28		
横手市立図書館 (横 手 市)			53								53		
佐 藤 八十八 (本 荘 市)	1										1		
蛸 満 寺 (由 利 郡)	*2										*2		
宮 城 県													
石巻市立図書館 (石 巻 市)			54								54		
覚 照 寺 (黒 川 郡)	2										2		
塩 竈 神 社 (塩 釜 市)									*237	(234)	*237	234	
宮城県立図書館 (伊達文庫)(仙 台 市)		476			*274	*1008	(298)	(264)			*1282 476	562	
東北大学附属図書館 (狩野文庫)(仙 台 市)			97								97		
東北大学附属図書館 (三春秋田文庫)(仙台市)			71	(86)							71	86	[79]
斎 藤 報 恩 会 (仙 台 市)							320	(299)			320	299	
山 形 県													
鶴岡市立図書館 (鶴 岡 市)			206	*64							*64 206		
木 村 光 雄 (鶴 岡 市)	1										1		
児 玉 充 弘 (鶴 岡 市)	*1										*1		
平 田 賢 (鶴 岡 市)	*2										*2		
真 島 壮 助 (鶴 岡 市)	1										1		
斎 藤 寅之助 (東田川郡)				226							226		
佐 藤 東 蔵 (東田川郡)				*49							*49		

所蔵者名 (特殊文庫名)(市区郡名)	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	調査計	収集計	備 考
正 善 院 (東田川郡)	2										2		
清 野 久 雄 (東田川郡)				*1							*1		
出羽三山神社 (東田川郡)	*2 10										*2 10		
光 丘 文 庫 (酒 田 市)	M527	(114)	(81)	(153)			*348				*348 M527	348	【76】【78】【79】
本 間 美 術 館 (酒 田 市)	*5 8					(1)					*5 8	1	
伊 藤 こよし (酒 田 市)	1										1		
岩 崎 愛 子 (酒 田 市)				*1							*1		
斎 藤 二 郎 (酒 田 市)	1										1		
佐 藤 七 郎 (酒 田 市)	1										1		
佐 藤 正 治 (酒 田 市)	*1 5										*1 5		
佐 藤 英 明 (酒 田 市)	5										5		
和 島 茂兵衛 (酒 田 市)	2										2		
山形県立図書館 (山 形 市)		11									11		
市立米沢図書館 (米 沢 市)		23	*2 174 (171)								*2 197	171	【76】
米沢興譲館高校 (米 沢 市)		14									14		
福 島 県													
相馬家(早水恒久) (相 馬 市)		8									8		
会津若松市立図書館 (会津若松市)		36						51	*95	*102	*197 36 51		
須賀川市立図書館 (須 賀 川 市)			62								62		
白河市立図書館 (白 河 市)			64								64		
鷲 新 兵 衛 (いわき市)		33									33		
関 東 地 区													
栃 木 県													
黒羽小学校 (大関文庫)(那 須 郡)					*23	*38 24					*61 24		
小 賀 敏 尾 (芳 賀 郡)	104										104		
宇都宮大学教育学部国文学研究室(宇 都 宮 市)	57										57		

所蔵者名 (特殊文庫名)(市区郡名)	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	調査計	収集計	備考
大 中 寺 (下都賀郡)	*2 2										*2 2		
大 前 神 社 (真岡市)	*1										*1		
群馬県													
草津町教育委員会 (吾妻郡)	1										1		
中 沢 晃 三 (吾妻郡)	5										5		
柳沢寺(小川晃勝) (北群馬郡)	3										3		
水沢寺(山本徳晃) (北群馬郡)	1										1		
浅野記念図書館 (渋川市)	8										8		
大 島 史 郎 (渋川市)	1										1		
桐生市立図書館 (桐生市)	30						13				43		
吉 田 有 年 (桐生市)	17										17		
群馬大学附属図書館 (新田文庫)(前橋市)	10		M142			123 (140)					133 M142	140	[81]
前橋市立図書館 (前橋市)								133			133		
徳 田 進 (四孝文庫)(前橋市)					*81			(75)			*81	75	
伊勢崎市立図書館 (伊勢崎市)			50								50		
太田市立中島記念図書館 (太田市)			M35			370 (147)					M35 370	147	[81]
館林市立図書館 (秋元文庫)(館林市)			M52								M52		
磯 貝 みほ子 (富岡市)		1									1		
横 田 金 治 (富岡市)	14										14		
今 井 政 俊 (甘楽郡)	1										1		
小金沢 伝次郎 (甘楽郡)	4										4		
新 井 亦 夫 (多野郡)		1									1		
大 沢 契 獎 善 (多野郡)		1									1		
金 沢 寛 (多野郡)		1									1		
菊 地 春 道 (多野郡)		1									1		
光 心 寺 (多野郡)		1									1		

所蔵者名 《特殊文庫名》(市区部名)	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	調査計	収集計	備考
篠崎正一 (多野郡)		1									1		
神保幾一郎 (多野郡)		1									1		
布施川雄次 (多野郡)		1									1		
茂原一郎 (多野郡)		2									2		
茨城県													
水府明徳会影写館 (水戸市)		*145 260	*238 (323)	(95)	*210 (443)		*192	*457 (162)	*158 D291	*45 (274)	*1445 D291	1787	[76][78][79][80]
染法寺 (真壁郡)	9										9		
埼玉県													
須藤保平 (大里郡)	1										1		
慈光寺 (比企郡)	1										1		
遠山記念館 (比企郡)	9	*19 25									*19 34		
桃井雄三 (坂戸市)								*8 (22)			*8	22	
川越市立図書館 (川越市)					*21			*58 100			*79 100		
喜多院 (川越市)	1										1		
東照宮 (川越市)	1										1		
安倍貞 (浦和市)	1										1		
佐藤正 (浦和市)	1										1		
鈴木栄一 (与野市)	△1										1		
薄金年子 (川口市)	1										1		
長徳寺 (川口市)	1										1		
御巫清男 (川口市)	1										1		
山口文治 (所沢市)	△										△		
千葉県													
香川景次 (柏市)	M12										M12		
麗澤大学図書館 《田中文庫》(柏市)								*157 D2	*246	*25 172 (283)	*428 D2	283	
船橋市立図書館 (船橋市)								*94 D16	(56)	*128 D195	*222 D211	56	
成田図書館 (成田市)	19										19		

所蔵者名 《特殊文庫名》(市区郡名)	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	調査計	収集計	備 考
新勝寺史料館 (成田市)	2										2		
清澄寺 (安房郡)		*1									*1		
安房神社 (安房郡)		2									2		
千葉県立佐倉高校 《雁山文庫》(佐倉市)									*21	*65 81	*86 81		
杉原広義 (安房郡)							*1 (1)				*1	1	[81]
東京都													
増田昌三郎 (葛飾区)				107 (99)							107	99	[78]
東京芸術大学附属図書館 (台東区)						*352	189 (96)	*180 (326)	*385 (127)	*50 (200)	*1106	749	
某 所 (台東区)								(3)				3	
某 所 (台東区)								(3)				3	
東京大学附属図書館 《秋葉文庫他》(文京区)	(48)* (129)	233	1372 (5)	261 (411)							1866	593	*46年度準備調査会 [78] [79]
東京大学附属図書館 《西竹・竹治・如十文庫》(文京区)												3398	既成フィッシュ
東京大学文学部国語研究室 (文京区)	(18)*		*13 176 (217)	*221 (131)							*234 176	366	*46年度準備調査会 [76] [79]
東京大学文学部国文学研究室 (文京区)	(106)	(24)		(91)	*165					*56	*221	221	[76] [78] [79]
東京大学文学部国文学研究室 《本居文庫》(文京区)		(324)		(1044)	(582)							1950	[78] [79] [80]
東洋文庫 (文京区)	(228)	(182)	(661)		M (61)		*354 (126)		*75 (105)	*7 10 (60)	*436 10	1423	紙焼購入 [76] [79] [80] [81]
中田剛直 (文京区)								*79 (79)			*79	79	
東京教育大学附属図書館 (文京区)	(13)* (50)		(410)			96 (96)					96	569	*46年度準備調査会 [76] [80]
某 氏 (文京区)								(1)				1	
永青文庫 (文京区)									*40 18	*18	*58 18		
学習院大学図書館 《三条西家旧蔵本》(豊島区)						200					200		
学習院大学文学部国文学研究室 (豊島区)							100	202	(202)		302	202	
山岸徳平 (豊島区)			*139 (139)		*206 (114)						*345	253	[78] [80]
国会図書館 (千代田区)	(65)*			(93)				(776)				934	*46年度準備調査会 [80]
内閣文庫 (千代田区)		(98)	(542)		87 (17)		*716	*158			*874 87	657	[78] [79] [80]
宮内庁書陵部 (千代田区)		(409)	(593)	(3)	(6)	(9)	(92)	(168)	*68 (78)	*102 (158)	*170	1518	[76] [79] [80]
長谷章久 (新宿区)	34										34		

所 蔵 者 名 《特殊文庫名》(市区郡名)	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	現在計	収集計	備 考
静 嘉 堂 文 庫 (世 田 谷 区)		(464)		(876)	(257)					(109)		1706	既成マイクロフィルム購入
大東急記念文庫 (世 田 谷 区)	(835)	(123)										958	既成マイクロフィルム購入
野 坂 謙 二 (世 田 谷 区)				*4							*4		[78]
久 松 国 男 (練 馬 区)							(102)	*16	*54	172 (4)	*70 172	106	寄託本
福田秀一 (練 馬 区)			(5)									5	[79]
東京都立中央図書館 《加賀文庫他》(港 区)			*630 (361)						*496 (584)	*398 (428)	1524	1373	[78] [80]
高 松 宮 (港 区)	(979)	(237)										1216	[76] [79]
大久保 正 (港 区)			(3)			*1 (1)					*1	4	[79] [81]
青山学院大学文学部国文学研究室 (港 区)						(92)						92	
國 學 院 高 校 《新田文庫他》(渋谷区)						56 (282)			*63		*63 56	282	[81]
國 學 院 高 校 《杜之舎文庫》(渋谷区)						(55)						55	[81]
市 古 貞 次 (中 野 区)			*30	(32)							*30	32	[78]
望 月 健 夫 (杉 並 区)										1 (1)	1	1	
前進座 (新制作座) 《真山青果文庫》(武蔵野市)					*79 374 (148)						*79 347	148	[79]
故 西 下 程 一 《佐賀文庫》(武蔵野市)		(161)	*56			*2				(244)	*56	407	53年度当館購入 [78] [80]
白百合女子大学図書館 (国 布 市)						99 (24)	(75)				99	99	[81]
益 田 勝 実 (国 布 市)					*16 (15)	*14 (14)	(10)				*30	39	[79] [80]
中央大学文学部国文学研究室 (八 王 子 市)					*72 141 (212)						*72 141	212	他にD3(21) [81]
桃井久直 (町 田 市)								*8 (8)			*8	8	
神 奈 川 県													
鶴見大学附属図書館 (川 崎 市)			(49)		*26		*36				*62	49	[76]
矢 森 昌 男 (川 崎 市)					*1 (1)						*1	1	[79]
金 沢 文 庫 (横 浜 市)	127									*2	*2 127		
大倉精神文化研究所 (横 浜 市)										*4	*4		
清 浄 光 寺 (藤 沢 市)				*11							*11		



所蔵者名 (特殊文庫名)(市区郡名)	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	調査計	収集計	備考
中部地区													
新潟県													
新潟大学附属図書館 (佐野文庫)(新潟市)									*158	*204	*362		
上越市立高田図書館 (上越市)		*10									*10		
嘉代普一 (砺尾市)			1								1		
新発田市立図書館 (新発田市)			5								5		
渡辺綱也 (東蒲原郡)	15										15		
柏崎市立図書館 (柏崎市)	*20 28										*20 28		
大願寺 (佐渡郡)		2				(2)					2	2	[81]
山本修之介 (荏川文庫)(佐渡郡)					143	(72)					143	72	[81]
富山県													
魚津市立図書館 (魚津市)		M9									M9		
高岡市立図書館 (高岡市)			M732	*103 (219)							*103 M732	219	[78]
永見市立図書館 (中辻文庫)(永見市)		M5									M5		
富山県立図書館 (志田文庫)(富山市)								*299	*194 (235)	*276 (194)	*769	429	
石川県													
清水源左衛門 (珠洲市)		7									7		
山上嘉修 (輪島市)		18							(16)		18	16	
阿岸家 (鳳至郡)									(4)			4	
龍門寺 (七尾市)			*3								*3		
永光寺 (羽咋市)			*14								*14		
石川県立図書館 (李花亭文庫)(金沢市)					*27						*72		
金沢市立図書館 (稼堂文庫)(金沢市)					*37 84	*5 813		*2 313	149	*82	*126 1359		
山上嘉久 (金沢市)									(7)			7	
宮本長興 (能美郡)			*12 23 (12)								*12 23	12	[79]
桜井健太郎 (石川郡)									(11)			11	

所蔵者名 (特殊文庫名)(市区郡名)	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	調査計	収集計	備考
加賀市立図書館 (聖澤文庫)(加賀市)						*20 67					*20 67		
福 井 県													
金津中央公民館 (愛日文庫)(坂井郡)		6									6		
三国町立図書館 (坂井郡)		5									5		
永正寺 (坂井郡)		M△									M△		
小山一年 (坂井郡)		3									3		
浄応寺 (坂井郡)		2									2		
照厳寺 (坂井郡)	11										11		
瀧谷寺 (坂井郡)	1										1		
戸田徹 (坂井郡)		5									5		
吉川恒雄 (坂井郡)	7										7		
勝山公民館 (勝山市)			4								4		
福井県立図書館 (松平文庫)(福井市)				*60 (80)							*60	80	【79】
福井市立図書館 (福井市)		*12 304		*155 21							*167 325		
福井市立郷土歴史博物館 (福井市)	9										9		
岸水次助 (福井市)	M1	M1									M2		
大野市郷土歴史館 (大野市)			5								5		
大野高校 (大野市)			16					*16			*16 16		大野藩校旧蔵書
法雲寺 (丹生郡)		1									1		
桃井竜一 (丹生郡)								*23 (7)			*23	7	
辻嘉左衛門 (丹生郡)								*14 (9)			*14	9	
富田喜左衛門(茂之) (丹生郡)					*4 (5)						*4	5	【81】
武生市立図書館 (武生市)			46					*25		*23	*48 46		
越前の里郷土博物館 (武生市)			5								5		
引接寺 (武生市)		1									1		

所蔵者名 (特殊文庫名)(市区郡名)	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	調査計	収集計	備 考
伊 藤 博 (武 生 市)	3										3		
花 笹 図 書 館 (今立郡)		7									7		
後 藤 時次郎 (南 条 郡)	13										13		
敦賀市立図書館 (敦 賀 市)			M55								M55		
川 上 季 石 (敦 賀 市)	1										1		
氣 比 神 宮 (敦 賀 市)		1									1		
西 福 寺 (敦 賀 市)		11									11		
玉 井 昭 三 (敦 賀 市)	1		5								6		
常 宮 神 社 (敦 賀 市)	1										1		
西 村 弘 明 (敦 賀 市)	2										2		
八 幡 神 社 (敦 賀 市)		17						*19			*19 17		敦賀郷土博物館に 保管中
本 隆 寺 (敦 賀 市)	1										1		
岩 谷 末 雄 (敦 賀 市)								*4	(3)		*4	3	
岩 谷 泰 雄 (敦 賀 市)								*1			*1		
鹽 山 院 (敦 賀 市)								*5			*5		
小浜市立図書館 (小 浜 市)			15								15		酒井家旧蔵書
妙 玄 寺 (小 浜 市)		55									55		
明 通 寺 (小 浜 市)			2					*1			*1 2		
若狭彦神社 (若 狭 市)		2									2		
山 口 久 三 (大 飯 郡)		11									11		
山 梨 県													
小 俣 宗 則 (大 月 市)		*1									*1		
堀 内 昭 (富士吉田市)		*1									*1		
浅 間 神 社 (南 都 留 郡)		*1									*1		
三 浦 雄次郎 (南 都 留 郡)		1									1		
山梨県立図書館 (甲州文庫)(甲 府 市)	1									158	159		

所蔵者名 (特殊文庫名)(市区郡名)	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	調査計	収集計	備考
長谷川 篤 郎 (甲 府 市)		234									234		
庵 途 巖 府 市)						*2 (2)					*2	2	
保 阪 善 三 崎 市)			6								6		
内 藤 賢 (中巨摩郡)	12										12		
久 遠 寺 (南巨摩郡)	*3										*3		
長 野 県													
長野県立図書館 (関口文庫他)(長 野 市)	M145	*105	*47 (208)								*152 M145	208	[76][78]
真 田 宝 物 館 (長 野 市)	*1 57 M156	*18	(18)								*19 57 M156	18	Mは松代藩文庫 [76][78]
上田市立図書館 (花月文庫)(上 田 市)		446	541	*51 (377)						*268	*319 987	377	[81]
諏 訪 上 社 (諏 訪 市)		58									58		
飯田市立図書館 (堀家・市岡家本)(飯田市)		255			*326		(310)				*326 255	310	
静 岡 県													
横 山 重 (赤木文庫)(伊 東 市)						*704					*704		
鈴 木 勉 (賀 茂 郡)	5										5		
三 島 大 社 (三 島 市)				*2							*2		
富士市立中央図書館 (富 士 市)			*2 33								*2 33		
富 士 文 庫 士 市)			*34 26			54					*34 80		
常 葉 松 雄 (庵 原 郡)		1									1		
静岡県立中央図書館 (静 岡 市)	2		632	367	*2	807	46	(326)	(326)	(326)	*2 1854	978	
静岡女子大学附属図書館 (静 岡 市)			28								28		
藤枝市立図書館 (藤 枝 市)				*20 471	130						*20 601		
山 崎 常 磐 川 市)	1										1		
大久保 忠 昌 (磐 田 市)		3									3		
内 山 基 康 (磐 田 市)	1										1		
河 嶋 喜 隆 (磐 田 市)	1										1		
内 山 竹 蔵 (天 竜 市)	11										11		

所蔵者名 (特殊文庫名)(市区郡名)	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	調査計	収集計	備考
米山家 (天竜市)	1										1		
泉居神社 (浜松市)				*2							2		
岡部巖夫 (浜松市)				*1							*1		△蔵書メモ17点
高林慎吾 (浜松市)				*1							*1		
高林兵衛 (浜松市)	1										1		
袴田勘造 (浜松市)	1										1		
愛知県													
牧野文庫 (新城市)										*661	*529	*1190	
豊橋市民文化会館 (羽田八幡宮文庫)(豊橋市)					*410	*305					*715		
東漸寺 (宝飯郡)			*1								*1		
西尾市立図書館 (岩瀬文庫)(西尾市)			82			1794	562	*1 1022	(199)	(187)	*1 3460	386	
市立刈谷図書館 (村上文庫)(刈谷市)		*1293	*267 (495)	*922	(1099)	(824)	*609	*135 (301)	(43)	(300)	*3226	3062	[76][78][79][80] [81]
愛知教育大学附属図書館 (刈谷市)					*554		*370 (677)	*295	(204)	*133	*1352	881	[81]
豊田工業高等専門学校 (豊田市)					*37 (10)						*37	10	[81]
猿投神社 (豊田市)					*33 (33)						*33	33	[79]
細井平洲記念館 (東海市)					*45						*45		
半田市立図書館 (半田市)					*33						*33		
県立半田高校 (半田市)					0						0		資料なし
愛知県立図書館 (名古屋市)	75										75		
鶴舞中央図書館 (河村文庫)(名古屋市)					*147	438	*146 (96)	*25 (100)	*128		*446 438	196	
蓬左文庫 (名古屋市)			*438	*28 (114)	*32 D1 (134)	241	*20 (248)	*1			*519 D1 241	496	[78][79]
蓬左文庫 (尾崎コレクション)(名古屋市)									*216	*203 (216)	*419	416	
名古屋大学附属図書館 (神宮皇学館文庫他)(名古屋市)		(229)										229	[76]
名古屋大学文学部国文学研 究室(小林文庫他)(名古屋市)		(153)			*172						*172	153	収集の内小林文庫 は138点 [76]
徳川美術館 (名古屋市)							*15	*159	*86	*33	*293		
東海学園女子短期大学 (関山文庫)(名古屋市)				*97				(88)			*97	88	

所蔵者名 (特殊文庫名)(市区郡名)	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	調査計	収集計	備考
湯浅四郎 (名古屋市)	8										8		
松元院 (西春日井郡)				*8							8		
平田寺 (西春日井郡)				*1							1		
服部尚彦 (海部郡)	M112										M112		
樋口芳麻呂 (岡崎市)										*2 (2)	*2	2	
岐阜県													
国府町立郷土資料館 (岡村文庫)(吉城郡)		12									12		
円光寺 (吉城郡)		M5									M5		
岩村町公民館 (恵那郡)	30										30		
岩村郷土館(歴史民俗資料館) (恵那郡)	38										38		
岩村小学校郷土室 (恵那郡)	14										14		
高山郷土館 (高山市)	23				*355 (413)						*355 23	413	[81]
岡田賛三 (高山市)	18										18		
柿下保 (高山市)	11										11		
加藤専一 (高山市)	13 M24										13 M24		
長瀬茂八郎 (高山市)	24										24		
伯左門 (高山市)	38										38		
落合公民館 (中津川市)	27										27		
上田彰 (上田文庫)(中津川市)	M80										M80		
間孔太郎 (中津川市)		12									12		
渡辺てい子 (中津川市)	15										15		
岐阜大学附属図書館教育学部分室(岐阜市)	M102				*169		*423 (471)				*592 M102	471	
岐阜高校図書館 (岐阜市)		126									126		
大垣市立図書館 (大垣市)	M97										M97		
片野記念館 (安八郡)	M57										M57		
不破幹雄 (退照山文庫)(不破郡)	8										8		

所 蔵 者 名 (特殊文庫名)(市区郡名)	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	調査計	収集計	備 考
岐阜県立図書館 (岐阜市)										548 (303)	548	303	
三 重 県													
桑名市立図書館 (桑名市)			*7	*83	*18 (152)						*108	152	
桑名市立文化美術館 (桑名市)			*7		*20 (24)						*27	24	[79][80]
芭蕉記念館 (芭蕉文庫)(上野市)		*254	(118)								*254	118	[76][78]
沖 森 直三郎 (上野市)						(1)						1	
三重県立図書館 (有造館文庫)(津市)					*36						*36		
本居宣長記念館 (松阪市)	(87)	(54)	(162)	(158)	M158 (128)						M158	589	[76][78][79]
射和文庫(竹川欽也) (松阪市)	96 (153)			*111			*288	*105	*179	*686	*1369 96	153	[76]
神 宮 文 庫 (伊勢市)	*13	*47 110	*250 303 (109)	*698 (59)	M212 (545)	(321)	*139 (350)	*233 (100)	*204	*101 (199)	*1685 M212 413	1683	他に既成フィルム 92リール【76】 【78】【79】【80】【81】
神宮徴古館 (伊勢市)	M9			*50	*4 (63)						*54 M9	63	[79][80]
近 畿 地 区													
滋 賀 県													
野洲町立祇王小学校 (季吟文庫)(野洲郡)				*11							*11		
飯 山 文 庫 (大津市)				*12 526							*12 526		
彦根城博物館 (琴堂文庫)(彦根市)										*118	*118		
西 教 寺 (正教蔵)(大津市)										162	162		
京 都 府													
府立総合資料館 (京都市)	12										12		
京都大学附属図書館 (京都市)			681		*353	122					*353 803		
京都大学附属図書館 (中院文庫)(京都市)					344						344		
京都大学文学部 (額原文庫)(京都市)		(216)	*16 (259)	(338)	(268)		*200	*260	*276	*345	*1097	1081	[76][78][79]
賀 茂 別 雷 社 (三手文庫今井似岡本)(京都市)	18		(355)								18	355	[78]
賀 茂 別 雷 社 (三手文庫泉亭文庫本)(京都市)			(384)									384	[78][79]
北 野 天 満 宮 (京都市)	450										450		
本 派 本 願 寺 (京都市)					(1)							1	[79]

所蔵者名 (特殊文庫名)(市区郡名)	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	調査計	収集計	備考
陽明文庫 (京都市)				*164	*287 (141)	*330 (247)	(235)	*421 (134)	*360 (99)	*217 (200)	*1779	1056	[79][80][81]
京都女子大学附属図書館 (吉沢文庫)(京都市)							*53	*67	*167	*168	*455		
竜谷大学 (享字台文庫)(京都市)	*40										*40		
中野荘次 (友山文庫)(京都市)					*23 (23)						*23	23	[79]
某寺 (京都市)				(71)								71	
舞鶴西図書館 (糸井文庫)(舞鶴市)			303			(276)					303	276	[81]
智恩寺 (宮津市)	*2 7										*2 7		
宮津市立図書館 (宮津市)	39										39		
東一 (京都市)							*29 (29)				*29	29	[79]
奈良県													
奈良県立美術館 (奈良市)		*5 4									*5 4		
大和文華館 (奈良市)								*109 10	*140	*108	*357 10		
長谷寺 (登山文庫)(桜井市)			*14 199	*70 (81)							*84 199	81	[78]
高田郷土文庫 (大和高田市)	6							*6 (6)			*6 6	6	
吉水神社 (吉野郡)			*4 8								*4 8		
某所 (吉野郡)									(1)			1	
大阪府													
枚方市史綱纂室 (枚方市)						*3					*3		
一乗寺 (枚方市)				*1							*1		
森本 (豊能郡)		3									3		
鈴木弘道 (弘道文庫)(枚方市)				*16							*16		
大阪樟蔭女子大学 (東大阪市)				89							89		
中之島図書館 (大阪市)				*320 (221)						△89	*320 △89	221	[79][80]
大阪大学附属図書館 (忍頂寺文庫)(大阪市)							*463	*238		(711)	*701	711	
大阪市立大学図書館 (森文庫)(大阪市)			1903	(266)	(392)		(459)	(589)	(556)		1903	2262	[78][79][80]
逸翁美術館 (池田市)					*5	*107	39	(158)			*112 39	158	



所蔵者名 (特殊文庫名)(市区郡名)	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	調査計	収集計	備考
林田良平 (池田市)			142								142		
道明寺八幡宮 (藤井寺市)		*1 3									*1 3		
飯福寺 (南河内郡)		3									3		
地藏寺 (河内長野市)	68										68		
大阪女子大学図書館 (堺市)								*50	*50	*224	*324		
土橋家 (堺市)										*116	*116		
和歌山県													
和歌山大学附属図書館 (紀州藩文庫)(和歌山市)	(327)											327	[78]
和中文庫 (和歌山市)		(108)										108	[76]
高野山大学図書館 (伊都郡)		148									148		
桜地院 (伊都郡)			211								211		
竜光院 (伊都郡)			166								166		
兵庫県													
篠山鳳鳴高校 (青山文庫)(多紀郡)				*56	*41 (101)						*97	101	[79]
安井章吾 (伊丹市)							(30)					30	[81]
太山寺 (神戸市)			*8 (8)								*8	8	[78]
月照寺 (明石市)	7										7		
井上邦利 (佐用郡)	20										20		
中村幸彦 (洲本市)						795	696	(176)	(116)	(206)	1491	498	
清水彰 (神戸市)										*2 (2)	*2	2	
中国四国地区													
鳥取県													
県立鳥取図書館 (鳥取市)			170								170		
県立博物館 (鳥取市)			38								38		
ナカノマテリアルルーム (鳥取市)			110								110		
山本嘉将 (稲葉文庫)(鳥取市)			627	(632)							627	632	[79][80]

所蔵者名 (特殊文庫名)(市区郡名)	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	調査計	収集計	備考
飯田秀明 (気高郡)		*5 28									*5 28		
安富寛兵衛 (気高郡)		*3									*3		
県立図書館倉吉分館 (倉吉市)			9								9		
県立米子図書館 (米子市)			28								28		
島根県													
県立図書館 (松江市)	7										7		
島根大学附属図書館 (松江市)	60	68	*5 4				*90		(118)		*95 132	118	
島根大学附属図書館 (桑原文庫)(松江市)		73						*71			*71 73		
出雲大社 (簸川郡)	17	28									45		
某家 (簸川郡)		109	*50 117	(70)	*45	*47 11					*142 237	70	【78】
浜田市立図書館 (浜田市)	2										2		
柿本社 (益田市)			2								2		
津和野町郷土館 (鹿足郡)	29	*28 15									*28 44		
太鼓谷稻成神社 (鹿足郡)		24									24		
岡山県													
勝山町立図書館 (渡辺文庫)(真庭郡)	180										180		
三浦秀有 (真庭郡)	18										18		
津山郷土館 (道家大門文庫)(津山市)	227										227		
上原和子 (津山市)				90							90		
正宗文庫 (備前市)				*683							*683		
岡山市立図書館 (西村燕々文庫)(岡山市)			53			2187					2240		
岡山文化センター (岡山市)	431										431		
岡山大学附属図書館 (池田家文庫他)(岡山市)	(88)			*117 57	(1)						*117 57	89	【80】
ノートルダム清心女子大図書館 (黒川文庫)(岡山市)					M△						M△		
玉野市総合文化センター (玉野市)		10									10		
大森茂 (玉野市)		*4 19									*4 19		

所 蔵 者 名 (特殊文庫名)(市区郡名)	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	調査計	収集計	備 考
金光図書館 (浅口郡)	*8 7										*8 7		
広島県													
栃木一之 (比婆郡)	8										8		
専徳寺 (比婆郡)	11										11		
光藤葆光 (福山市)				*11							*11		
尾道市立図書館 (尾道市)			28								28		
三原市立図書館 (三原市)			47	*40						*88 (162)	*128 47	162	
市立竹原書院図書館 (竹原市)			10								10		
野坂家 (東広島市)				(4)				(1)				5	
広島市立浅野図書館 (広島市)	4										4		
広島大学文学部国文学研 究室 (広島市)			(177)		*45						*45	177	【79】
広島大学附属図書館東雲 分館 (広島市)		8									8		
広島文教女子大学 (広島市)				*79	*265	*131	(470)				*475	470	
山口県													
市立岩国徴古館 (吉川家寄託本)(岩国市)		182	347	(45)							529	45	【78】
徳山市立図書館 (徳山市)		59									59		
松村清路 (徳山市)		1									1		
県立山口図書館 (山口市)			*12	*179	*35 (159)						*226	159	今井似閉本【79】
山口県文書館 (毛利文庫)(山口市)			*2 68		*111					*17	*130 68		
山口女子大学図書館 (寺内文庫)(山口市)				*39							*39		
山口大学附属図書館 (若月文庫)(山口県)									*144		*144		
萩市立図書館 (萩市)				*18 125							*18 125		
萩高等学校 (萩市)	40										40		
毛利報公会博物館 (防府市)		33							*592	*662	*1254 33		
阿弥陀寺 (防府市)		35									35		
宇部市立図書館 (新井文庫)(宇部市)				58						*64	*64 58		

所 蔵 者 名 (特殊文庫名)(市区郡名)	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	調査計	収集計	備 考
八幡人丸神社 (大 津 郡)			2								2		
長 府 図 書 館 (下 関 市)		46									46		
梅光女学院大学図書館 (下 関 市)	21		34								55		
黒 木 正 一 (下 関 市)			25								25		
波多野 完 三 (下 関 市)				24							24		
藤 井 成 奇 (下 関 市)		1									1		
武 藤 隆 吉 (下 関 市)		1									1		
香 川 県													
虚空蔵与田寺 (大 川 郡)		25									25		
志 度 寺 (大 川 郡)		8									8		
多 和 文 庫 (大 川 郡)			*82	*220					*329	*428	*1059		
香川大学附属図書館 (神原文庫)(高 松 市)		34	(341)	*126							*126 34	341	[76]
松 平 公 益 会 (高 松 市)			*103 (94)								*103	94	[76][78]
山 本 吾 平 (高 松 市)		32									32		
横 井 金 男 (高 松 市)		13									13		
白 峰 寺 (坂 出 市)					*22						*22		
松 本 文 庫 (坂 出 市)								*1 142	*17		*18 142		
丸亀市立図書館 (望陰亭文庫)(丸 亀 市)		12									12		
金刀比羅宮図書館 (仲多度郡)			*63 117 (108)								*63 117	108	[76][78]
金刀比羅宮社務所 (仲多度郡)			(53)	*67 41 (68)							*67 41	121	
武 田 明 (仲多度郡)		2									2		
松 本 真 一 (仲多度郡)	*1										*1		
大喜多 勘 学 (三 豊 郡)			91				151		*1 (95)		*1 242	95	
片 岡 貞 良 (三 豊 郡)		61	*3								*3 61		
常 徳 寺 (三 豊 郡)			*1	(1)							*1	1	[78]
弥 谷 寺 (三 豊 郡)		38					47		(39)		85	39	

所蔵者名 (特殊文庫名)(市区郡名)	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	調査計	収集計	備考
高橋 巧 (観音寺市)		14									14		
愛媛県													
愛媛大学図書館 (鈴鹿本)(松山市)						*311	*323	*383			*1017		
黒河リツ (周桑郡)						(1)						1	【81】
河野但一記念文化館 (今治市)	38		*4		*370	*504 D6 (345)	*301	(101)	*320 (200)	*209 (205)	*1708 D6 38	851	【81】
大洲市立図書館 (大洲市)			*18								*18		
常磐井家 (大洲市)					618						618		
八幡浜市立図書館 (八幡浜市)	220										220		
徳島県													
徳島県立図書館 (阿波国文庫)(徳島市)			59		*203	(59)					*203 59	59	【80】
徳島県立図書館 (森文庫)(徳島市)				*173 127		(329)					*173 127	329	【81】
徳島県立図書館 (眉城文庫)(徳島市)				*88		(85)					*88	85	【80】
高知県													
安田八幡宮 (安芸郡)	1										1		
金剛頂寺 (室戸市)	35										35		
高知県立図書館 (山内文庫)(高知市)						766	*135	(100)	*102 (195)	*75 (146)	*312 766	441	
杉本頼昭 (南国市)			424								424		
佐川文庫 (高岡郡)		28									28		
金剛福寺(長崎勝恵) (土佐清水市)	238			*183	(251)						*183 238	251	【79】
九州地区													
福岡県													
北九州市立中央図書館 (北九州市)				126							126		
北九州市立若松図書館 (北九州市)			34								34		
直方市立図書館 (向野文庫)(直方市)			242								242		
仏山堂水哉園 (行橋市)			11								11		
九州大学附属図書館 (細川文庫他)(福岡市)			(206)									206	【76】

所 蔵 者 名 (特殊文庫名)(市区郡名)	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	調査計	収集計	備 考
九州大学附属図書館 (支子文庫)(福岡市)				M20					*71	*125	*196 M20		
九州大学文学部 (福岡市)				(629)								629	【78】【79】
英彦山神社 (田川郡)			20								20		
秋月郷土館 (黒田家秋月文庫)(甘木市)			*5	M447							*5 M447		
久留米市立図書館 (久留米市)					M1733						M1733		久留米藩校旧蔵書
高良神社 (久留米市)					*61						*61		
中村孫次郎 (屏山文庫)(久留米市)					*63 (63)						*63	63	【79】
佐 賀 県													
多久市立図書館 (多久市)		35									35		
佐賀県立図書館 (鍋島文庫)(佐賀市)						625	(250)			(360)	625	610	
武雄市教育委員会 (武雄市)	M985	842 M48 (121)									842 M1033	121	鍋島家旧蔵書 【76】
祐徳稲荷神社 (中川文庫)(鹿島市)	7		*1 7	*601 (218)							*602 14	218	【78】
佐賀大学附属図書館 (鍋島文庫)(佐賀市)										*87 140	*87 140		
長 崎 県													
森 虎 男 (大村市)	13										13		
県立長崎図書館 (芦塚文庫)(長崎市)				M85							M85		
県立長崎図書館 (諫早文庫)(長崎市)			6	M360			874				M360 880		
県立長崎図書館 (諏訪文庫)(長崎市)				M878							M878		
島原公民館 (松平文庫)(島原市)			*15	14	*306	*60					*381 14		
熊 本 県													
光 照 寺 (鹿本郡)		38									38		
伊倉北八幡宮 (玉名市)	15										15		
伊倉南八幡宮 (玉名市)	6										6		
菊地市役所 (菊地市)	48										48		
佐々浩一 (菊地市)	1										1		
原田 浩 (菊地市)	2										2		

所 蔵 者 名 (特殊文庫名)(市区郡名)	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	調査計	収集計	備 考
阿 蘇 神 社 (阿 蘇 郡)		49									49		
槌 田 英 明 (飽 託 郡)			25								25		
熊本大学附属図書館(寄託) (北岡文庫)(熊 本 市)									*127	*105	*232		
男成神社 (男成淳次郎) (上 益 城 郡)		51									51		
正 教 寺 (八 代 市)			30								30		
松 井 明 之 (八 代 市)	202		*20 (30)	3							*20 205	30	[78]
上 田 万寿夫 (天 草 市)		*1 472	112								*1 584		
人吉市立図書館 (人 吉 市)	40										40		相良家寄贈本
水俣市立図書館 (水 俣 市)		13									13		
源 光 寺 (水 俣 市)		*1									*1		
大 分 県													
小幡記念図書館 (中 津 市)	12										12		
宇 佐 神 宮 (宇 佐 市)	13										13		
大 塚 文 庫 (大 分 市)			51								51		
耶馬溪風物館 (耶馬溪文庫)(玖 珠 郡)		3		M2349							M2349 3		
大 原 神 社 (日 田 市)					0						0		資料なし
臼杵市立図書館 (臼 杵 市)	50	9								*210 16	*159	*369 75	
宮 崎 県													
押 方 重 信 (西臼杵郡)	1								*1 1	(2)	*1 2	2	
今山八幡神社 (延 岡 市)	1										1		
高鍋町立図書館 (児 湯 郡)					57						57		
黒 木 忍 (えびの市)	1								*1	*1 (1)	*2 1	1	
宮崎県立総合博物館 (宮 崎 市)	35								*10	(12)	*10 35	12	
泉 房 子 (宮 崎 市)	1										1		
杉 田 正 臣 (宮 崎 市)	1								*3	(20)	*3 1	20	
吉 野 武 樹 (宮 崎 市)	1										1		

所蔵者名 (特殊文庫名)(市区郡名)	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	調査計	収集計	備考
清武町教育委員会 (安井文庫)(宮崎郡)	27				*10						*10 27		
島津久厚 (都城市)	857										857		
都城市立図書館 (都城市)					*9 6			*6 10	(24)		*15 16	24	
諏訪神社 (都城市)	1										1		都城市立図書館に 保管中
水清谷神社 (南那珂郡)	1										1		
某氏 (日南市)					*9 6						*9 6		
鹿児島県													
出水市立図書館 (出水市)	1										1		
野田村立図書館 (出水郡)	1										1		
今村富士磨 (薩摩郡)			*1								*1		
東郷公夫 (薩摩郡)			*1								*1		
國田芳秋 (薩摩郡)						*2					*2		
平山和正 (薩摩郡)						*1					*1		
加治木郷土館 (始良郡)	8										8		
鹿児島大学附属図書館 (玉里文庫)(鹿児島市)						*83 475	*16 58 (476)				*99 533	476	
鹿児島大学教養部文学研 究室(鹿児島市)		143									143		
鹿児島大学教育学部国語 科研究室(鹿児島市)		57									57		
尚古集成館 (鹿児島市)	19										19		
五味三代子 (鹿児島市)	1										1		
枕崎市立図書館 (枕崎市)	5										5		
関琢磨 (枕崎市)	2 (2)										2	2	
市立種子ヶ島博物館 (西之表市)		19									19		
沖縄県													
所在地未詳													
飯塚伝太郎												1	



所蔵者名 (特殊文庫名)(市区郡名)	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	調査計	収集計	備考
海外													
ハーバード大学エンチン図書館								*12			*12		
エール大学東アジア図書館								*1			*1		
米国議会図書館												10	
ケンブリッジ大学図書館									*24	(101)	*24	101	
大英図書館									(5)	(9)		14	【80】【81】
チェスタビーティ図書館										(24)		24	【81】

## 7.2 史料館収蔵史料一覧

所蔵史料 338件 約50万点      マイクロフィルム 79件 1238リール  
 収集史料  
 受託史料 12件 約8千点      民俗資料 1件 約5千点

### 1. 所蔵史料府県別一覧

- ・文書名の次の( )の中は内容を示す
- ・○内の数字は既刊の目録集数
- ・㊦はマイクロフィルム収集史料

#### 北海道

利尻戸長役場書類

開拓使函館支庁書類

㊦松前松前家文書(大名)

#### 青森県〔陸奥国〕

㊦弘前津軽家文書(大名)

#### 岩手県〔陸奥国〕

下閉伊郡鉄ヶ崎村佐々木家文書(宮古給人・地主)

#### 宮城県〔陸奥国〕

㊦仙台小野家文書(伊達家藩士・ギリシャ正教司祭)

#### 秋田県〔出羽国〕

㊦秋田郡久保田小賀家文書(藩士)

㊦秋田郡久保田上肴町記録

秋田郡大館栗森家文書(商家・地主)

秋田郡大館中田家文書(地主)

㊦秋田郡大館武茂家文書(藩士)

㊦秋田郡十二所岡本家文書(藩士)

秋田郡北比内片山村谷地田家文書(肝煎)

㊦秋田郡南比内二井田村一閑家文書(肝煎)

㊦㊦同 一閑家文書

㊦秋田郡大葛金山荒谷家文書(金山支配人)

㊦秋田郡阿仁鉾山記録

武藤鉄城蒐集史料(角館周辺)

平鹿郡角間川村本郷家文書(地主・商人)

平鹿郡沼館村土地租税史料

雄勝郡湯沢佐竹南家文書(大名一門・所預)

雄勝郡湯沢町小川家文書(久保田藩蔵元)

雄勝郡岩崎村肝煎記録

#### 山形県〔出羽国〕

山形県六郡土地関係書類

田川郡大山村大滝家文書（年寄）  
⑤田川郡鶴岡字治家文書（大庄屋）  
置場・村山郡諸家文書  
⑨⑩村山郡山形宝幢寺文書（新義真言宗寺院）  
⑦村山郡山家村山口家文書（名主）  
⑨村山郡小関村宗門帳  
村山郡観音寺村岡田家文書（名主）  
村山郡大町村文書  
村山郡宮宿村今井家文書（地主）

福島県〔陸奥国〕

金沢春友蒐集史料  
白川郡棚倉馬場不動院文書（近津明神別当）  
白川郡川上川下村文書（庄屋）  
白川郡中石井村鈴木家文書（名主）  
白川郡栃本村根本家文書（大庄屋）  
⑤会津若松築田家文書

茨城県

〔常陸国〕

⑮土浦土屋家文書（大名）  
⑤同 土屋家文書  
⑮土浦大久保家文書（藩士）  
⑩行方郡牛堀村須田家文書（庄屋）  
⑤同 須田家文書  
〔下総国〕  
②⑦相馬郡藤代村飯田家文書（名主・本陣）  
③②相馬郡川原代村木村家文書（旗本庄屋氏賄名主）  
⑤同 木村家文書  
⑤相馬郡川原代村池端木村家文書（名主）

栃木県〔下野国〕

⑤那須郡黒羽大関家文書（大名）  
都賀郡吹上有馬家文書（大名）  
足利郡岩井村貢租史料

群馬県〔上野国〕

⑪群馬県庁文書  
勢多・群馬・甘楽郡戸長役場書類  
⑤利根郡沼田土岐氏家中由緒書  
碓氷郡原市村文書（庄屋）  
②④佐位郡東小保方村萩原家文書（旗本陣屋元）

⑤同 萩原家文書  
⑤邑楽郡館林秋元家文書（大名）  
⑮邑楽郡館林福井家文書（秋元家藩士）  
⑤同 福井家文書  
⑤館林市立図書館所蔵史料

埼玉県〔武蔵国〕

⑩幡羅郡永井太田村掛川家文書（旗本松崎氏賄名主）  
⑩幡羅郡下奈良村吉田家文書（江戸地主）  
大里郡大麻生村古沢家文書（名主・戸長）  
埼玉郡袋山村文書  
埼玉郡酒巻村文書  
足立郡桶川町府川家文書（宿問屋・名主）  
比企郡高野倉村山崎家文書（名主）  
③入間郡川越横田家文書（町年寄・商人）

千葉県

〔下総国〕

相馬郡塚崎村守家文書（神官）  
〔上総国〕  
天羽郡萩生村斉藤家文書（浜方名主）  
山辺郡清名幸谷村飯高家文書（名主）  
⑤山武郡柴山太田家文書（大名）  
長柄郡栗生野村秋葉家文書（名主）  
夷隅郡押日村小高家文書（医家）  
⑤君津郡佐貫阿部家文書（大名）  
⑤君津郡飯野保科家文書（大名）  
⑤久留里黒田家文書（大名）  
⑤埴生郡立木村高橋家文書（地主）  
〔安房国〕  
⑤花房西尾家文書（大名）

東京都〔武蔵国〕

九店仲間差配廻船史料  
江戸神田（奈良茂）家文書  
③江戸金吹町播磨屋中井家文書（両替商）  
⑤同 中井家文書  
細川家家政所書類  
⑤白木屋大村家文書（呉服・太物問屋）  
豊島郡三河島村松本家文書（名主）

荏原郡品川町文書

多摩郡後ヶ谷村杉本家文書（名主）

多摩郡蔵敷村鈴木家文書（地主・戸長）

⑥多摩郡連光寺村富沢家文書（名主）

⑥多摩郡連光寺村富沢分家文書（旗本天野氏賄名主）

多摩郡中和田村石坂家文書（名主）

多摩郡寺方村佐伯家文書（名主）

多摩郡八王子河野家文書（旗本・千人頭）

## 神奈川県

〔相模国〕

大住郡土屋村原家文書（旗本窪田氏賄名主）

大住郡名古木村小泉家文書

## 新潟県

県下不動産船舶公証書類

〔越後国〕

蒲原郡石塚村他四ヶ村文書

蒲原郡下新村本間家文書（地主）

三島郡深沢村高頭家文書（庄屋）

魚沼郡浦佐村関家文書（庄屋）

魚沼郡木落村田口家文書（庄屋・大肝煎）

魚沼郡下条上組村文書（庄屋）

魚沼郡下船渡村村山家文書（庄屋）

刈羽・頸城郡下諸村及諸家史料

頸城郡行野村横尾家文書（地主・庄屋）

頸城郡川上村松岡家文書（庄屋）

頸城郡荒屋村相沢家文書（庄屋・地主）

頸城郡岩手村佐藤家文書（大肝煎・庄屋）

頸城郡町田村文書

中頸城郡諸村役場書類

中頸城郡大鹿村役場書類

中頸城郡田村宮崎家文書（大肝煎・地主）

〔佐渡国〕

⑤雑太郡相川町川上家文書（鉱山史料）

⑤舟崎文庫史料

⑤雑太郡新町村山本家文書（町年寄・問屋）

## 富山県 〔越中国〕

新川郡吉島村神保家文書（十村並）

新川郡萩原村黒田家文書（肝煎）

## 石川県

〔能登国〕

鳳至郡中居村国田家文書（鋳物師）

## 福井県

〔越前国〕

越前史料（春嶽公記念文庫旧蔵家史編纂史料）

丹生郡上糸生村松田家文書（庄屋）

⑤丹生郡上糸生村千穂家文書（大庄屋）

丹生郡新保浦両林家文書（浦庄屋）

⑤丹生郡東鯖江村窪田家文書（庄屋）

〔若狭国〕

敦賀郡敦賀平山家文書（商家）

上中郡新道村藤井家文書（庄屋・戸長）

上中郡安賀里村岡本家文書（地主）

⑤遠敷郡小浜古河家文書（廻船問屋）

## 長野県 〔信濃国〕

筑摩県・長野県布達書類

水内郡五箇村水野家文書（庄屋）

水内郡水沢村文書

高井郡東江部村山田家文書（名主）

②松代真田家文書（大名）

⑤同 真田家文書（大名）

埴科郡松代依田家文書（藩士）

埴科郡松代竹内家文書（藩士）

松代藩家臣書状

⑤真田家家中石坂家文書（藩庁史料）

⑤飯島文庫史料（真田家御事蹟稿）

埴科郡松代八田家文書（商家）

埴科郡東条村相沢家文書（名主・御城番組）

更級郡田野口村小林家文書（地主・地頭）

安曇郡大町柳沢家文書（大町木場）

安曇郡波田見村師岡家文書（庄屋）

安曇郡保高町村小川家文書（庄屋）

北安曇郡諸村役場書類

⑤祢津久松家文書（旗本）

小県郡祢津西町高橋家文書（商家）

小県郡東上田村田中家文書（名主）

小県郡東内村役場書類

⑤小県郡上田原町問屋日記

⑤小県郡旧殿城村宝蔵庫文書（旗本陣屋）

⑤小県郡旧殿城村会所文書（割番庄屋）

佐久郡御馬寄村町田家文書（名主）

佐久郡御影新田柏木家文書（新田開発人）

佐久郡芦田宿今井家文書（神官）

佐久郡内山村文書（名主）

②④佐久郡下海瀬村土屋家文書（名主）

⑤佐久郡旧海瀬村引継文書

佐久郡海尻村文書

北佐久郡小諸町・大里村戸長役場書類

北佐久郡協和村役場書類

高嶋藩領村々宗門改帳

諏訪郡下諏訪村役場書類

筑摩郡桐原村文書

筑摩郡下今井村文書

筑摩郡下今井村桃井家文書（名主）

筑摩郡神戸村丸山家文書（名主）

上伊那郡諸村役場書類

伊那郡葛島村下平家文書（庄屋）

下伊那郡諸村役場書類

伊那郡福島村片桐家文書（庄屋）

伊那郡加々須村勝家文書（名主）

伊那郡柿野沢村文書

伊那郡島田村松村家文書（庄屋）

伊那郡島田村森本家文書（庄屋）

山梨県〔甲斐国〕

北都留郡諸村役場書類

南都留郡大富村役場書類

⑤甲府坂田家文書（町年寄）

⑤頼生文庫史料（町年寄用留）

⑤甲州文庫史料（甲府町方史料）

⑤⑬山梨郡下井尻村依田家文書（地主）

⑬山梨郡下井尻村井尻家文書（名主）

東山梨郡平等村役場書類

東八代郡一之宮村役場書類

西八代郡古閑村役場書類

北巨摩郡増富村役場書類

巨摩郡穴山村生山家文書（神官）

巨摩郡河原部村文書

中巨摩郡諸村役場書類

巨摩郡今福村文書（名主）

巨摩郡西条村野呂瀬家文書

南巨摩郡諸村役場書類

⑬巨摩郡青柳村秋山家文書（名主）

静岡県

〔伊豆国〕

⑤田方郡丹那村川口家文書（名主）

⑤田方郡韭山川江家文書（幕府代官）

②④君沢郡長浜村大川家文書（名主・津元）

④君沢郡内浦史料

〔駿河国〕

②富士郡岩本村文書（富士川渡船場）

庵原郡今宿村池田家文書（名主）

有渡郡聖一色村寺尾家文書（名主）

〔遠江国〕

榛原郡村々持高書上帳

榛原郡村々免状

①榛原郡嶋村山田家文書（庄屋）

周知郡森町村山田家文書（鋳物師）

⑤同 山田家文書

①佐野郡桑地村加茂家文書（庄屋）

山名郡久津部村文書（庄屋）

豊田郡久保村秋鹿家文書（社家）

②引佐郡氣賀宿中村家文書（本陣・庄屋）

敷知郡吉津村他四ヶ村戸長役場書類

愛知県

⑪愛知県庁文書

〔三河国〕

八名郡乗本村菅沼家文書（名主）

額田郡東阿知和村内田家文書（大庄屋）

額田郡長嶺村文書（名主）

②額田郡深溝村八田家文書（旗本板倉氏代官）

額田・碧海郡村々免状

幡豆郡楠村文書（庄屋）

- 碧海郡刈谷太田家文書（新田地主）  
 碧海郡小垣江村文書（庄屋）  
 ⑥渥美郡小塩津村文書  
 〔尾張国〕  
 名古屋知多屋青木家文書（商家）  
 名古屋井桁屋三輪家文書（商家）  
 名古屋渡辺家文書（商家）  
 愛知郡熱田岡本家文書（地主）  
 知多郡半田村中埜家文書（地主）  
 丹羽郡犬山鈴木家文書（医家）  
 海東郡甚目寺村吉川家文書（割元）  
 海西郡大宝前新田神戸家文書（新田地主）  
 海西郡葛木村渡辺家文書（庄屋）  
 海西郡森津新田武田家文書（地主・庄屋）  
 海西郡鯛浦村木下家文書（地主）  
 海西郡村々免状
- 岐阜県  
 〔飛驒国〕  
 大野郡清見村戸長役場書類  
 大野郡丹生川村戸長役場書類  
 〔美濃国〕  
 郡上郡高砂村小酒井家文書（地主）  
 加茂郡八百津町役場書類  
 加茂郡和知村役場書類  
 恵那郡三郷村役場書類  
 武儀郡山田村長田家文書（庄屋）  
 山県郡三輪村後藤家文書（庄屋）  
 ⑮山県郡東深瀬村林家文書（庄屋）  
 本巢郡文殊村文書  
 本巢郡曾井中島村青木家文書（庄屋）  
 大野郡鹿野村栗野家文書（庄屋）  
 厚見郡日野新田村村瀬家文書（庄屋）  
 厚見郡加納宿汲田家文書（宿年寄）  
 羽栗郡下印食村渡辺家文書（庄屋）  
 中島郡大須村戸長役場書類  
 安八郡青木村小宅家文書（名主）  
 安八郡更屋敷村早崎家文書（名主）  
 安八郡平村文書
- 不破郡荒尾村土屋家文書（戸長）  
 不破郡府中村貢租史料  
 不破郡岩手村竹中家文書（旗本）  
 不破郡表佐村飯沼家文書（医家）  
 不破郡表佐村役場書類  
 不破郡垂井村役場書類
- ②⑤多芸郡島田村千秋家文書（地主）  
 多芸郡大場村松永家文書（庄屋）  
 多芸郡下笠村諸家文書  
 多芸郡根古地新田村文書（庄屋）  
 多芸郡志津村高木家文書（名主）  
 石津郡内記村伊藤家文書（庄屋）  
 石津郡市之瀬村三宅・桑原家文書（庄屋）  
 ⑥石津郡市之瀬村桑原家文書（石河氏陣屋）
- 滋賀県〔近江国〕  
 坂田郡醒ヶ井村文書（宿史料を含む）  
 坂田郡東黒田村役場書類  
 坂田郡高橋村野本家文書  
 犬上郡彦根前川家文書  
 愛智郡中一色村嶋村家文書（庄屋）  
 愛智郡南清水村大橋家文書（庄屋）  
 神崎郡川並村川島・塚本家文書
- ⑩蒲生郡八幡町山形屋西川家文書（蚊帳・畳表商）  
 ⑩⑪同 西川家文書  
 蒲生郡南津田村文書
- ⑫蒲生郡鏡村玉尾家文書（庄屋）  
 ⑫⑬蒲生郡竜王町鏡区有文書（庄屋）  
 蒲生郡古川村中島家文書（庄屋）  
 甲賀郡田堵野村大原家文書（甲賀古土）  
 甲賀郡妙感寺村奥村家文書（庄屋）  
 甲賀郡信楽代官勘定目録  
 野洲郡中里村田中家文書  
 野洲郡開発村木屋高谷家文書（材木商）  
 栗太郡駒井沢村木戸家文書（庄屋）  
 高島郡マキノ町役場引継書類
- 三重県  
 〔伊賀国〕  
 名張郡夏見村深山家文書（庄屋）

〔伊勢国〕

伊勢国国絵図文書（元禄度）

桑名郡木曾岬村文書

一志郡松崎浦松嶋家文書（浦庄屋）

比佐古文庫旧蔵松阪商業資料

松阪雜纂（三井高遂蒐集史料）

飯高郡松阪山城屋水谷家文書（飛脚問屋）

飯野郡清水村飯田家文書（庄屋）

③飯野郡射和村大黒屋富山家文書（呉服・両替商）

飯野郡阿波曾村文書

多気郡斎宮村乾家文書（庄屋）

度会郡八日市場町橘屋麻谷家文書（町年寄）

〔志摩国〕

志摩郡烏羽須藤家文書（藩士）

志摩郡烏羽鈴木家文書（稻垣家蔵方）

志摩郡烏羽高砂屋文書

志摩郡名田村文書

京都府

〔山城国〕

三条西家文書（公家）

清水谷家文書（公家）

駕輿丁史料

飛鳥井雅豊日記

袖岡玄蕃助家記（蔵人所衆）

徳大寺家文書（公家）

⑪久世家文書（公家）

⑮同 久世家文書

京都万屋小堀家文書（両替商）

三条家文書（公家）

二条家文書（公家）

⑭平松家文書（公家）

⑮京都最上屋喜八家文書（紅花荷宿）

⑮京都蟻川家文書（東寺公人）

⑮京都柏原家文書（呉服・太物問屋）

⑮京都古久保家文書（町代）

⑮京都那波家文書（大名貸史料）

⑮京都新町通六角町文書

⑮京都錦小路通占出山町文書

葛野郡嵯峨臨川寺文書（天竜寺塔頭）

乙訓郡諸村文書

乙訓郡長野新田村三宅家文書（庄屋）

⑮久世郡淀稻葉家中文書（大名・家臣）

⑮久世郡淀田辺家文書（藩士）

〔丹後国〕

加佐郡田辺三宅家文書（藩士）

熊野郡久美浜町引継書類

中郡五箇村他五ヶ村戸長役場書類

〔丹波国〕

天田郡菟原中村他四ヶ村戸長役場書類

大阪府

〔摂津国〕

⑮三島郡高槻永井家文書（大名）

島上郡水室村吉田家文書（庄屋）

⑭大阪加嶋屋長田家文書（入替両替商）

③大阪小橋屋平井家文書（呉服・両替商）

大阪泉屋住友家大名貸証文

東成郡天王寺村宗門人別帳及名寄帳

〔河内国〕

⑮交野郡甲斐田村竹内家文書（庄屋）

⑮交野郡野村小原家文書（庄屋）

⑮若江郡長田村中家文書（庄屋）

⑮若江郡近江堂村木田家文書（庄屋）

⑮若江郡下小坂村山沢家文書（大庄屋）

〔和泉国〕

⑮大鳥郡上神谷豊田村小谷家文書（割元庄屋）

⑮⑮同 小谷家文書

日根郡佐野村食野家文書

兵庫県

〔摂津国〕

川辺郡上之島村岡村家文書（庄屋・戸長）

兵庫北風家記録（諸問屋年寄）

〔播磨国〕

加古郡下西条村大西家文書（庄屋）

加古郡八幡村戸長役場書類

加古郡荒井村戸長役場書類

印南郡米田村他七ヶ村戸長役場書類

印南郡曾根村戸長役場書類  
②神東郡屋形池田家文書（旗本）  
飾磨県第三大区村々学校関係書類  
⑦姫路酒井家文書（大名）  
⑧赤穂郡新浜村田淵家毎日記  
〔淡路国〕  
津名・三原両郡下村々戸長役場書類

奈良県 〔大和国〕

添上郡樺本村文書（庄屋）  
②旗本船越氏和州御用場記録  
吉野郡中増村文書（庄屋・戸長）

和歌山県 〔紀伊国〕

紀伊国古文書（本居旧蔵本）  
名草郡園部村園部家文書（庄屋）  
伊都郡慈尊院村慈尊院中橋家文書（高野政所）  
伊都郡向副村平野家文書（戸長）  
牟婁郡新宮水野家文書（藩士）

中国地方

鳥取・岡山・広島県下戸長役場書類

島根県

〔出雲国〕  
④松江松平家文書（大名）  
島根郡北講武村文書  
意宇郡大谷村戸谷家文書（庄屋）  
大原郡大東村木村家文書（地主）  
仁多郡下布施村橋詰屋文書  
仁多郡稲田村安部家文書  
簸川郡神門村役場書類  
〔石見国〕  
安濃郡大田町中村家文書（商家）  
⑥益田家文書（毛利家永代家老）

岡山県

〔美作国〕  
勝北郡勝田村役場引継書類  
勝南郡第二十区戸長役場書類  
西北条郡西一宮村中島家文書（庄屋）  
和田村小林家文書  
〔備前国〕

津高郡福山村役場引継書類  
〔備中国〕  
上房郡上竹荘村役場引継書類

広島県

〔備後国〕  
沼隈郡百島村戸長役場書類  
沼隈郡浦崎村戸長役場書類  
〔安芸国〕  
沼田郡小河内村戸長役場書類  
高宮郡鈴張村戸長役場書類

山口県

⑥毛利家文庫史料（大名）  
〔周防国〕  
吉敷郡仁保上郷・中郷村絵図  
〔長門国〕  
厚狭郡際波村三隅家文書（庄屋）  
豊浦郡清末毛利家文書（大名）

徳島県 〔阿波国〕

④徳島蜂須賀家文書（大名）  
愛媛県 〔伊予国〕  
⑤宇摩郡川之江村大庄屋文書  
⑤宇摩郡川之江村長野家文書（郷士格）  
②伊予郡上野村玉井家文書（庄屋）

佐賀県 〔肥前国〕

肥前国略絵図  
⑤佐賀鍋島家文書（大名）  
小城鍋島家文書（大名）  
⑤同 鍋島家文書

熊本県 〔肥後国〕

肥後藩南関番所通行手形  
⑤熊本市原屋岡崎家文書（町別当役・商家）  
⑤天草郡本戸馬場村木山家文書（大庄屋）

全国及蒐集史料

諸国郷帳  
諸国地誌  
寛文度領知御朱印目録留  
日本総図  
武鑑類（聴永閣旧蔵本など）

諸礼書（有職故実写本）

定所雜録

⑧祭魚洞文庫旧蔵水産史料

⑨祭魚洞文庫旧蔵史料

⑩三井高維蒐集史料（商業関係）

浜村栄三郎蒐集史料

聴水閣蒐集古文書

小杉楳邨蒐集史料

⑪日本実業史博物館旧蔵資料（絵画・地図・番付・

竹森文庫・文書・書籍・広告・写真）

薄井福治旧蔵記録

⑫岡谷繁実文書

⑬蟻川家文書（幕府右筆）

⑭山岡家文書（旗本）

水野成夫収集記録（山鹿語類）

## 2. 受託史料

松浦武四郎稿本類（北方探検）

白木屋大村家文書（材木・呉服商）

常陸国筑波郡沼田村飯村家文書（名主）

三河国西大平大岡家文書（大名）

陸奥国福島板倉家文書（大名）

三河国吉田大河内家文書（大名）

山梨県山梨市下井尻区有文書

山城国淀稻葉家文書（大名）

備中国松山板倉家文書（大名）

信濃国祢津久松家文書（旗本）

岡谷繁実文書（秋元家藩士・日本史家）

信濃国佐久郡下海瀬村相馬家文書（名主）

## 3. 民俗資料

日本実業史博物館旧蔵資料 商工用具の部

昭和7年から約10年間に蒐集された江戸～明治期の商工業用具で、約5千点。看板類200点、矢立500点、銅印600点、鑑札500点（何れも概数）などのほか、各種の升や秤などの度量衡具、銭箱、算盤、提灯などの生活用具がある。



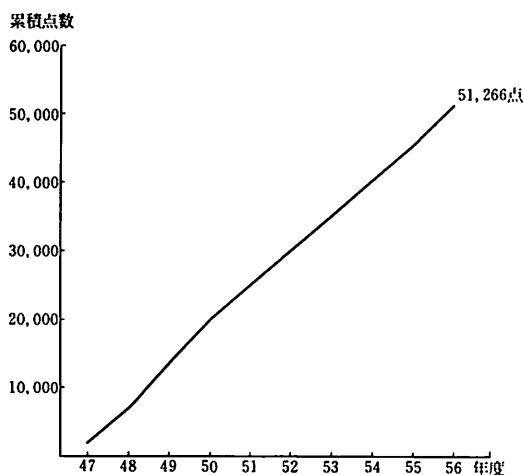
## 8. 所蔵資料統計

### 8.1 所蔵資料数一覧

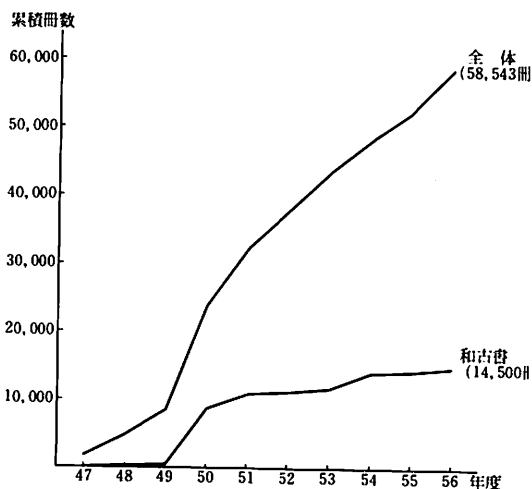
資 料		点 数 等	冊 数 等
収集マイクロ資料	収集所蔵者数	—	160
	収集コレクション数	—	181
	マイクロフィルム	51,266 点	10,974 リール
	マイクロフィッシュ	3,397 点	10,008 枚
	紙焼写真 (収集)	・1) 352 点	・1) 113,129 枚
	作業用ネガフィルム	—	9,166 リール
	閲覧用ポジフィルム	—	7,945 リール
	閲覧用紙焼写真本	27,712 点	22,373 冊
図書資料	原本	2,903 点	14,500 冊
	活字本	和 8,745 点	34,130 冊
		洋 941 点	1,328 冊
		計 9,686 点	35,458 冊
	マイクロ資料	14 点	(560)枚/リール
	A V資料	3 点	55 本
	逐次刊行物	和 2,321 点	50,041 巻号数
		洋 138 点	2,519 巻号数
		計 2,459 点	52,560 巻号数
	製本雑誌		3,407 冊
版木		12 点	12 枚
寄託資料		108 点	144 冊

\* 1 東洋文庫のみの数字  
昭和57年3月31日現在

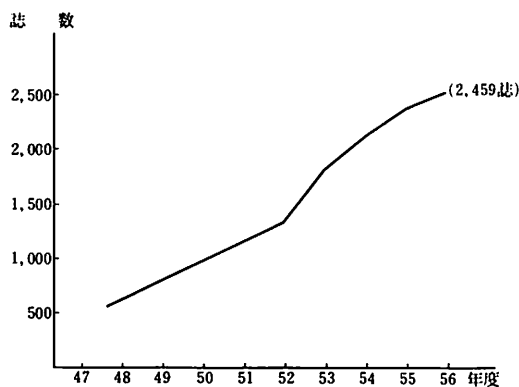
## 8.2 所蔵マイクロ資料（ロールフィルム）の推移



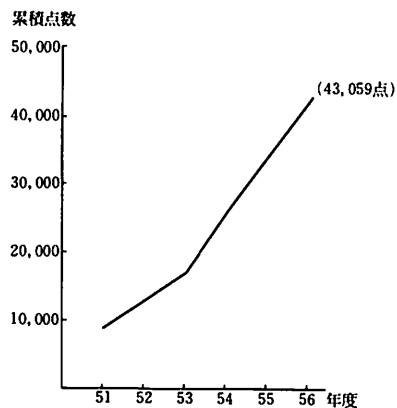
## 8.3 所蔵図書冊数の推移



## 8.4 所蔵逐次刊行物誌数（目録収載誌数）の推移



## 8.5 マイクロ資料目録掲載点数の推移



## 8.6 所蔵図書の種別構成（昭和55年度末現在）

写本・版本		活字本・影印本				
23.1%	別置*	日本文学	日本史	文学周辺	総記	その他
2,513点	9.2%	32.3%	5.5%	8.7%	13.6%	4.5%
	996点	3,511点	599点	944点	1,478点	493点

\*特別別置資料

## 8.7 特別別置資料・寄託資料の概要

区別	種 類	内 容	点数
特別別置資料	貴重書	慶長以前の写本・刊本及び元和以後の写本・刊本・図画のうち、伝本の稀少、名家の自筆、書入れ、手写等により、特に資料的・芸術的価値の認められるもの（当館貴重書指定基準） 天和2年荒砥屋版『好色一代男』、組合せ絵入古活字版『曽我物語』はじめ、和歌・連歌、物語・物語註釈、寺社縁起、幸若、有職故実、日記・随筆・書簡等多岐のジャンルにわたる。	57
	特別コレクション 国学者自筆稿本等	富士谷成章・御杖、橘守部等の国学者の自筆になる国語学書、和歌、詠藻、随筆類。大部分は「国民精神文化研究所」に所蔵されていたもの。	63
	初雁文庫	平安時代和歌、物語関係の資料を主とした、故西下経一氏旧蔵本。特に古今集関係の伝本・注釈書・伝授類が約200点を占める。	746
	諸大名著作	福井久蔵氏旧蔵の、近世大名の著述（写本）を集成したもの。新庄侯戸沢正令、富山侯前田利保ほか諸大名の文学関係の資料を中心とする。	137
寄託資料	久松潜一氏蔵書	故久松潜一博士蔵の歌論書のコレクションで大半が写本である。定家『詠歌大概』、『毎月抄』為頭『竹園抄』、正徹『徹書記物語』等。	102
	金子元臣氏蔵書	『夜半の寝覚』（改作本）、『我身にたとる姫君』（室町末写）、『恋路ゆかしき大将』（室町末写）及び『物語書目備考』（伴直方自筆稿本）、他に寄託者の稿本二点。	6
	武者小路実光氏資料	武者小路家伝来の『柿本人麿像』二幅（伝藤原信実筆・円山応挙筆）、『新六歌仙図』（宗永筆）及び『実陰懷紙』三点。	6

## 8.8 史料館の最近10年間における図書・マイクロ史料の推移

年度(昭和)	46以前	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	計
図書受入数(冊)	25,862	1,105	1,089	1,456	1,367	996	1,369	1,704	2,058	2,205	1,747	40,958
マイクロ収集受入数(リール)	334	137	144	125	112	359	70	73	256	172	203	1,985

マイクロリール数は、閲覧利用に供していないものも含む。

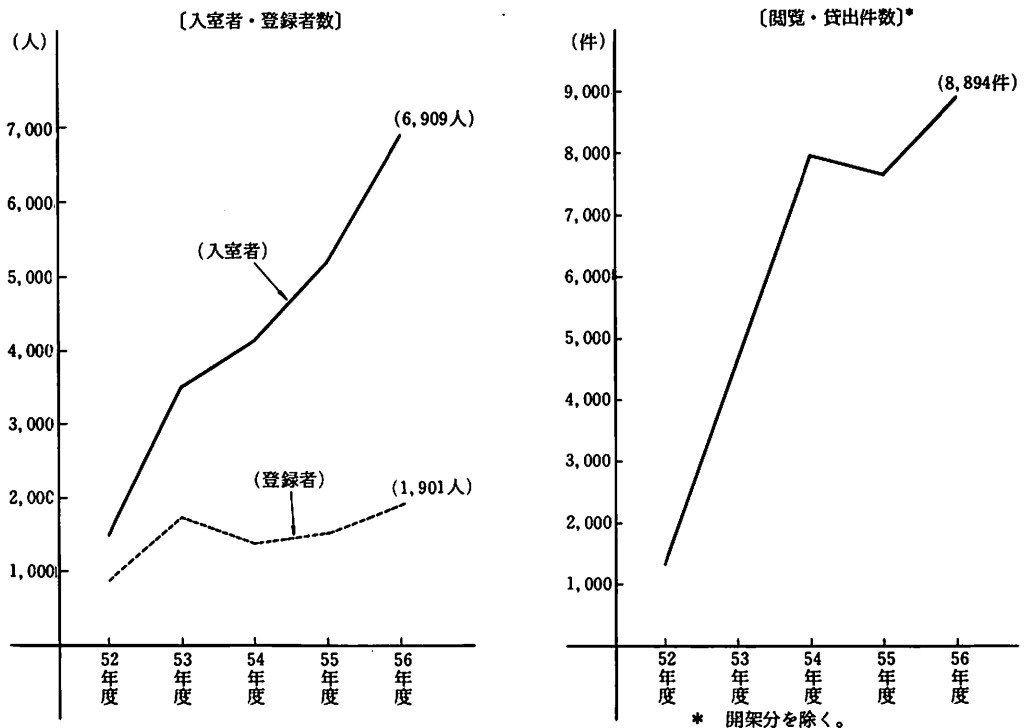
## 9. 資料利用統計

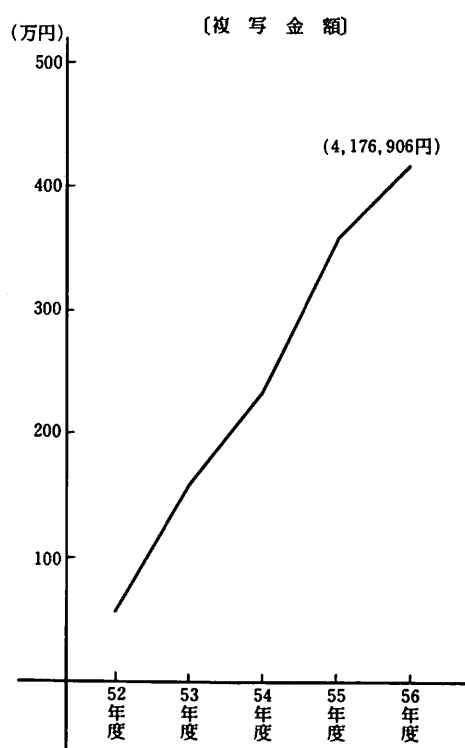
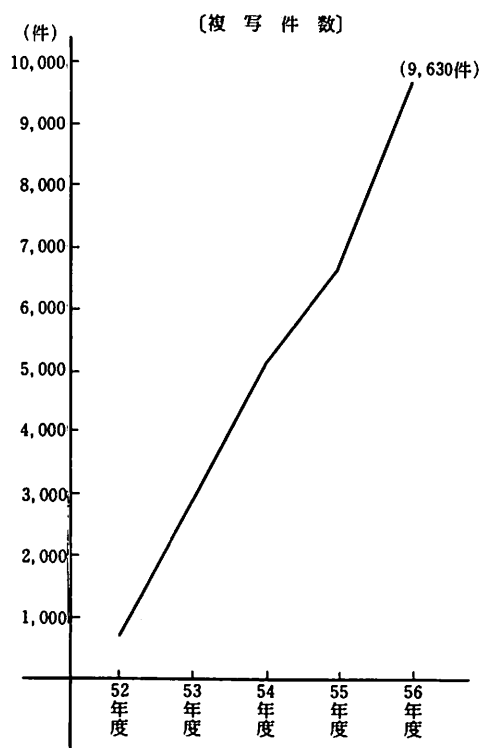
### 9.1 資料利用状況（昭和56年度）

項 目		人(件)数	項 目		人(件)数
入 室 者		6,909人		電 子 複 写	9,053件
登 録 者		1,901人	複 写	リーダープリンタ	322件
閲 覧*	単 行 書	1,581件		フ ィ ル ム 複 製	37件
	逐 次 刊 行 物	4,364件		紙 焼 作 成	218件
	ボジフィルム	550件	参 考 質 問		601件
紙 焼 写 真 本 一 夜 貸		186件	開 館 日 数		277日
予 約		23件			

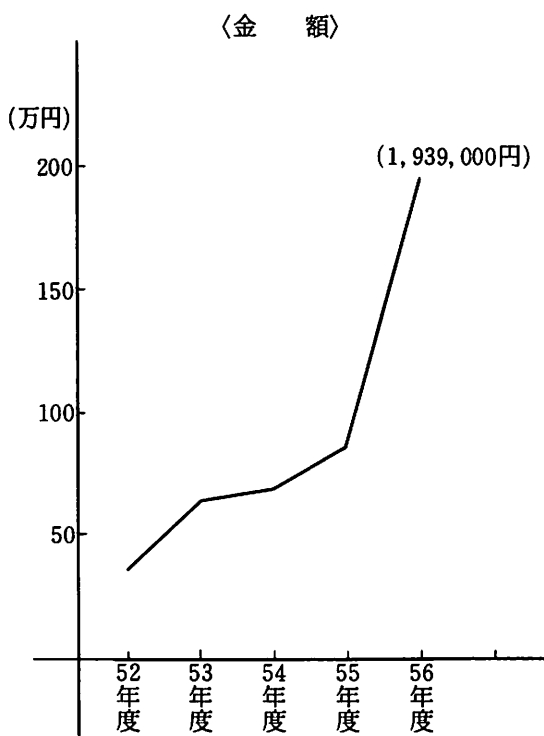
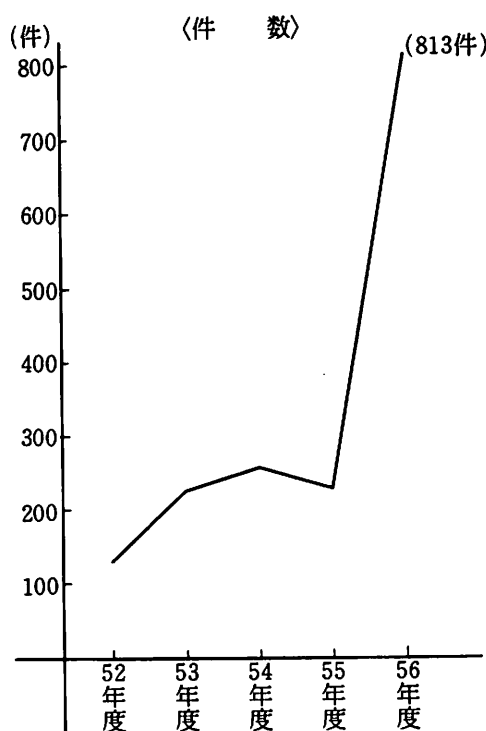
\*開架分を除く。

### 9.2 資料利用状況の推移



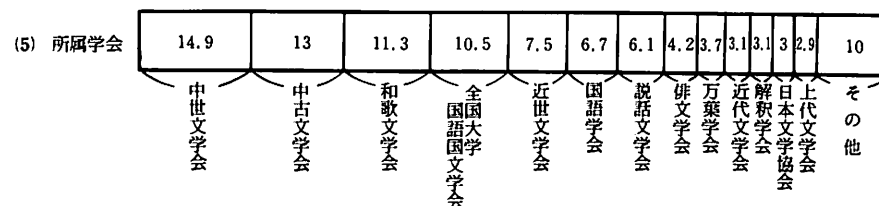
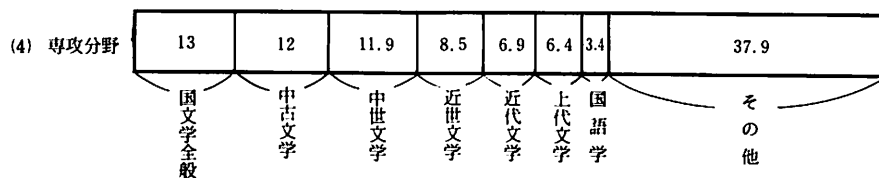
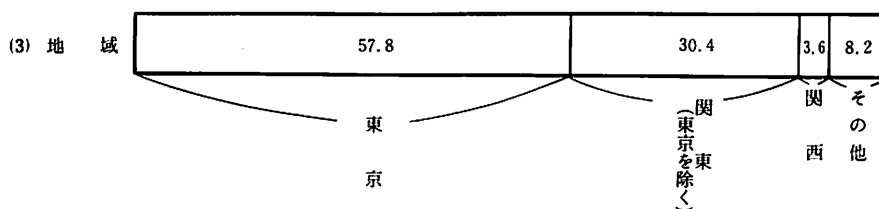
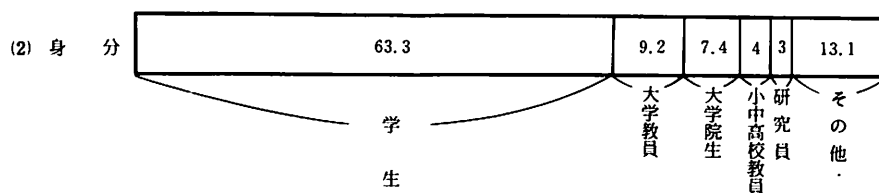
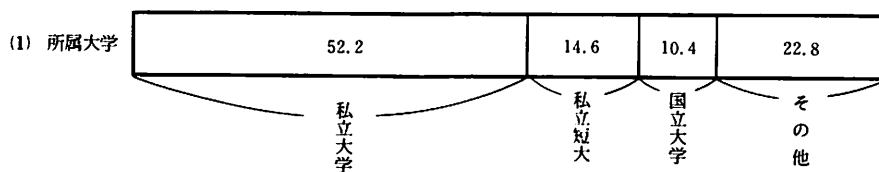


### 9.3 相互協力（複写受付）年度別の推移（郵送分を含む）



#### 9.4 利用登録者の構成

(昭和57年3月31日現在, 数字は全利用登録者数に対する百分率, 但し(4)(5)は回答延べ数に対する百分率)



### 9.5 史料館の最近10年間における史料利用状況の推移

年度(昭和)	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	計
利 用 者 数 (人)	448	780	1,007	878	711	1,156	1,258	1,326	914	1,117	9,585
特 別 撮 影 件 数 (件)	32	37	44	53	29	46	65	75	59	66	506

\* 昭和51年8月1日～9月13日，昭和52年1月6日～6月27日書庫移転に伴う閲覧業務停止期間

## 10. 出版物一覧

### 10.1 出版状況一覧

出 版 物 題 名	47年 (1972)	48年 (1973)	49年 (1974)	50年 (1975)
(所蔵目録)				
1. 国文学研究資料館蔵マイクロ資料目録				
同簡略版				
2. 国文学研究資料館蔵逐次刊行物目録				
3. 国文学研究資料館蔵和古書目録				
(文献目録・年鑑)				
4. 国文学研究文献目録			3月 昭和46年	3月 昭和47年
5. 国文学年鑑				
(事業に関連する出版物)				
6. 国文学研究資料館報	12月 1号	8月 2号	9月 3号	3月 4号 9月 5号
7. 国文学研究資料館報告				
8. 調査研究報告				
9. 国文学研究資料館講演集				
10. 国文学研究資料館特別展示目録				



51年 (1976)	52年 (1977)	53年 (1978)	54年 (1979)	55年 (1980)	56年 (1981)	57年 (1982)
	4月 1976年		3月 1978年	1月 1979年	1月 1980年	1月 1981年
		3月 1976年				
	4月 1977年	3月 1978年	3月 1979年	3月 1980年	3月 1981年	3月 1982年
						3月 1972-1981
3月 昭和48年	3月 昭和49年 12月 昭和50年	12月 昭和51年				
			3月 昭和52年	4月 昭和53年	3月 昭和54年	3月 昭和55年
3月 6号 9月 7号	3月 8号 9月 9号 12月 別冊1号	3月 10号 9月 11号	3月 12号 9月 13号	3月 14号 9月 15号	3月 16号 9月 17号	3月 18号
		3月 1号	3月 2号 3月 3号 3月 4号	2月 5号 3月 6号	3月 7号 3月 8号	3月 9号
				3月 第1号	3月 第2号	3月 第3号
				3月 1	3月 2	2月 3
	7月 —	3月 二 6月 三	8月 四		3月 五 11月 六	

出 版 物 題 名	47年 (1972)	48年 (1973)	49年 (1974)	50年 (1975)
11. 国文学研究資料館参考書誌叢刊				
12. 国文学研究資料館共同研究報告				
13. 国際日本文学研究集會會議録				
(紀 要)				
14. 国文学研究資料館紀要				3 月 第 1 号
(史料館関係)				
15. 史料館所蔵史料目録	3 月 第十九集 第二十集	3 月 第二十一集 第二十二集	3 月 第二十三集	
16. 史料館所蔵目録一覧				
17. 史料館報	3 月 第16号 11月 第17号	3 月 第18号 10月 第19号	3 月 第20号 10月 第21号	3 月 第22号 9 月 第23号
18. 史料館叢書				
19. 史料館研究紀要	3 月 (第 5 号)	3 月 第 6 号	3 月 第 7 号	3 月 第 8 号
(その他)				
20. 国文学研究資料館要覧				

51年 (1976)	52年 (1977)	53年 (1978)	54年 (1979)	55年 (1980)	56年 (1981)	57年 (1982)
			7月 1	3月 2		2月 3
					3月 1	
		2月 第1回	2月 第2回	2月 第3回	2月 第4回	2月 第5回
3月 第2号	3月 第3号	3月 第4号	3月 第5号	3月 第6号	3月 第7号	3月 第8号
3月 第二十四集 第二十五集 第二十六集	3月 第二十七集	3月 第二十八集 9月 第二十九集	3月 第三十集	3月 第三十一集 第三十二集	3月 第三十三集 第三十四集	3月 第三十五集
				3月		
3月 第24号 10月 第25号	3月 第26号 9月 第27号	3月 第28号 9月 第29号	3月 第30号 9月 第31号	3月 第32号 9月 第33号	3月 第34号 9月 第35号	3月 第36号
				3月 1, 2	2月 3	2月 4
	3月 第9号	3月 10号	3月 第11号	3月 第12号	9月 第13号	
		3月 昭和52年	7月 昭和54年	4月 昭和55年	4月 昭和56年	

## 10.2 シリーズ出版物表題

### 国文学研究資料館報告

第 1 号 国文学研究資料館におけるコンピュータ及び漢字システム	昭和52年度
第 2 号 『国文学研究資料館蔵マイクロ資料目録』作成システム	53
第 3 号 漢字データ処理用ソフトウェア	〃
第 4 号 図書資料管理システム	〃
第 5 号 逐次刊行物目録作成システム	54
第 6 号 データ処理用漢字辞書	〃
第 7 号 著者名典拠ファイルのデータ構造	55
第 8 号 データ処理システムにおける漢字字種：1981	〃
第 9 号 目録編集用ソフトウェア	56

### 国文学研究資料館講演集

1 日本の説話—ハナシの世界—	昭和54年度
2 和歌の流れ	55
3 近世の小説	56

### 国文学研究資料館特別展示目録

一 国学者自筆稿本と奈良絵本を中心として	昭和52年度
二 久松博士蔵歌論書及び本館蔵国学関係書を中心として	〃
三 「古今集」初雁文庫を中心として	53
四 日本の絵本ならびに版本の挿絵	54
五 館蔵貴重書展	55
六 国学者自筆本と新収資料を中心として	56

### 国文学研究資料館参考書誌叢刊

1 参考開架室配架活字本—謡曲曲名索引	昭和54年度
2 館蔵を中心とした一索引書類リスト	〃
3 日本文学史参考書目リスト	56

### 国文学研究資料館共同研究報告

1 初雁文庫主要書目解題付初雁文庫目録	明治書院 昭和55年度
---------------------	-------------

### 史料館所蔵史料目録（便宜1集から掲げる）

第1集 遠州嶋村山田家文書	昭和26年度
遠州桑地村加茂家文書	
2 駿州岩本村文書	27
遠州気賀宿文書	
3 伊勢国射和村富山家文書	28
武蔵国川越町横田家文書	
小橋屋平井店文書	
播磨屋中井両替店記録	

4	阿波蜂須賀家文書 雲州松平家文書	昭和29年度
5	甲斐国山梨郡下井尻村依田家文書	30
6	武州多摩郡連光寺村富沢家文書 武州多摩郡連光寺村富沢分家文書	31
7	出羽国村山郡山家村山口家文書	33
8	祭魚洞文庫旧蔵水産史料	34
9	出羽国村山郡山形宝幢寺文書	36
10	武蔵国幡羅郡永井太田村掛川家文書 武蔵国幡羅郡下奈良村吉田家文書 祭魚洞文庫旧蔵史料	38
11	日本実業史博物館旧蔵資料（一）	39
12	陸奥国弘前津軽家文書	40
13	甲斐国山梨郡下井尻村井尻家文書 甲斐国山梨郡下井尻村依田家文書追補 甲斐国巨摩郡青柳村秋山家文書	41
14	摂津国大阪加嶋屋長田家文書	42
15	常陸国土浦土屋家文書 土屋家家中大久保家文書 秋元家家中福井家文書	43
16	出羽国村山郡山形宝幢寺文書追加	44
17	愛知県庁文書 群馬県庁文書	45
18	出羽国秋田郡南比内大葛金山荒谷家文書	〃
19	常陸国行方郡牛堀村須田家文書	46
20	伊予国伊予郡上野村玉井家文書	〃
21	播磨国屋形旗本池田家文書 三河国深溝村八田家文書 旗本船越氏和州御用場文書 上野国東小保方村萩原家文書	47
22	伊豆国君沢都内浦長浜村大川家文書	〃
23	近江国蒲生郡鏡村玉尾家文書	48
24	信濃国佐久郡下海瀬村土屋家文書	50
25	美濃国多芸郡島田村千秋家文書	〃
26	下総国相馬郡藤代村飯田家文書（その一）	〃
27	下総国相馬郡藤代村飯田家文書（その二）	51
28	信濃国松代真田家文書（その一）	53
29	伊豆国君沢都内浦史料	〃

30	近江国蒲生郡八幡町山形西川家文書 三井高維蒐集史料	昭和53年度
31	山城国京都久世家文書 山城国京都平松家文書	54
32	下総国相馬郡川原代村木村家文書	〃
33	出羽国久保田佐竹家中小賀家文書 出羽国秋田郡大館佐竹家家中武茂家文書 出羽国秋田郡十二所佐竹家家中岡本家文書	55
34	出羽国秋田郡南比内二井田村一関家文書	〃
35	美濃国山県郡東深瀬村林家文書	56

備考 第20集までは文部省史料館当時のもの。

#### 史料館叢書

1	寛文朱印留・上	東京大学出版会	昭和54年度
2	寛文朱印留・下	東京大学出版会	〃
3	津軽家御定書	東京大学出版会	55
4	播磨屋中井家永代帳	東京大学出版会	56

### 10.3 紀要等内容一覧

#### 国文学研究資料館紀要

##### 第1号（昭50.3）

兼良の源氏学の形成	伊 井 春 樹
神道集の序章試論	村 上 學
『嘉吉物語』の形成	和 田 英 道
「天狗の内裏」攷一義経伝説と諸本と一	徳 田 和 夫
式亭三馬の合巻と読本	本 田 康 雄
白子屋一件	内 田 保 廣
本居宣長書簡二通一翻刻と考証一	大久保 正

##### 第2号（昭51.3）

萬葉集における助詞「を」の用法と表記一人麻呂歌集へのアプローチ	岩 下 武 彦
説経説きと初期説経節の構造	徳 田 和 夫
大伴大江丸の研究	加 藤 定 彦
祐徳稻荷神社寄託 中 川 文 庫 本「東撰和歌六帖」（解説と翻訳）	福 田 秀 一
翻刻『捨小舟』	松 田 修

##### 第3号（昭52.3）

近江荒都歌異伝考	岩 下 武 彦
伊予宇和島金葉和歌集について 伊達家所蔵	杉 山 重 行
仮名本曾我物語本文系統化試論(四)	村 上 學

『草山和歌集』の配例と成立について	島 原 泰 雄
服部南郭年譜考証	日 野 龍 夫
早稲田大学図書館蔵 教 林 文 庫『猿鹿懺悔物語』（翻刻）	田 嶋 一 夫
大英博物館蔵 古活字十行本『昨日は今日の物語』（翻刻）	岡 雅 彦
第4号（昭和53.3）	
浜松中納言物語の方法——唐后から吉野の姫君へ——	伊 井 春 樹
勧進聖と社寺縁起——室町期を中心として——	徳 田 和 夫
一休俗伝考——江戸時代の一休説話——	岡 雅 彦
仮名草子における典拠の問題——『悔草』を中心に——	渡 邊 守 邦
松花和歌集巻四（紹介と翻刻）	福 田 秀 一
国文学研究 資料館所蔵『しずか』（翻刻）	村 上 學
文献データベースその作成及び保守における問題点	石 塚 英 弘
第5号（昭和54.3）	
短編物語の時間・序説——『このついで』をめぐる——	阿 部 好 臣
室町期物語の絵詞資料——お伽草子性・座頭の語り・狂言と室町小歌——	徳 田 和 夫
幸若弥次郎家本舞曲に関する一推論——慶応義塾図書館蔵伝小八郎本・京都大学一本をめぐる——	村 上 學
可笑記と講釈	渡 邊 守 邦
増補幸若舞・曲舞年表稿	市 古 貞 次
栗栖野物語（仮称）——解説と翻刻——	伊 井 春 樹
鼠の草子 翻刻	ダグラス・ミルズ
MARC——内部フォーマット008欄——	内 藤 衛 亮
第6号（昭和55.3）	
源氏物語を訳して——文体の問題——	E.G.サイデンステッカー
抄出本「現存和歌六帖」（校文と索引）	福 田 秀 一
佐藤春夫の昭和十年代前期——「アジアの子」の周辺・付著作目録補遺——	奥 山 健
MARCフォーマットと書誌データ表現	宮 澤 彰
UNIMARCの持つ意味	内 藤 衛 亮
漢字情報処理システムの課題——漢字セットの設計と運用システムについて——	田 嶋 一 夫
明治期における文学基盤の変化の指標について	山 中 光 一
第7号（昭和56.3）	
謡曲「昭君」攷—その成立と展開	小 林 健 二
大政翼賛会と文壇——岸田国土の翼賛会文化部長の就任をめぐる——	奥 出 健
飯田武郷とその周辺	古 川 清 彦
人家和歌集（翻刻・索引・錯簡考）	福 田 秀 一
法華直談私類聚抄	渡 邊 守 邦
飛鳥井雅章自筆「吉野雲」	島 原 泰 雄

福聚談	岡 雅 彦
情報検索のツール：物理的並びに論理的観点からの考察	石 塚 英 弘
第8号 (昭57.3)	
古今歌風の成立	平 沢 竜 介
異本三十六人歌仙伝——翻刻ならびに解説——	新 藤 協 三
うたたねの草紙論——付・校本並びに注解稿	阿 部 好 臣
名取老女熊野勸請説話考一名取熊野縁起をめぐって—	小 林 健 二
「高館」の三人舞から一舞の芸態への模索——「内閣文庫本『舞の本』のことなど」補遺——	村 上 学
江戸時代一休関係著作年表	岡 雅 彦
20世紀前半における文学基盤の変化の指標について	山 中 光 一
日本文学の独訳について	B.レーヴィン
史料館研究紀要	
第1号 (昭43.3)	
近世前期における領国貨幣について	榎 本 宗 次
近世後期における一万石大名領陣屋町の経済的機能——越後国糸魚川町の場合——	鶴 岡 実枝子
十九世紀初頭の町と村——糸魚川黒白騒動の分析を中心に——	鎌 田 永 吉
藩士知行所の構造	鈴 木 寿
上州における飛脚問屋——京屋藤岡店富田永世との関連において——	藤 村 潤一郎
近世史料分類の現状と基礎的課題	大 野 瑞 男
第2号 (昭44.3)	
旗本家法について	鈴 木 寿
「榎本弥左衛門覚書」について——その紹介と彼の商業活動よりみた近世前期の市場構造の検討——	大 野 瑞 男
一八世紀以降の大名金融市場としての堂島——借銀担保の米切手をめぐって——	鶴 岡 実枝子
天保甲州郡内騒動の諸断面	藤 村 潤一郎
文部省史料館所蔵生活用具の研究(一)	中 村 俊亀智
第3号 (昭45.3)	
目 付 考	鈴 木 寿
近世における貨幣統一の一側面——豆州内浦銭貨史料を中心に——	榎 本 宗 次
幕府御林山における林業生産——伊豆天城炭年季請負製炭について——	浅 井 潤 子
甲州における飛脚問屋	藤 村 潤一郎
近世近江地方の魚肥流入事情——湖東農村商人の相場帳の紹介(一)——	鶴 岡 実枝子
文部省史料館所蔵生活用具の研究(二)	中 村 俊亀智
第4号 (昭46.3)	
天白祠と甲州依田家	藤 村 潤一郎
元禄末期における幕府財政の一端——「大坂御金蔵金銀納方御勘定帳」の紹介を兼ねて——	大 野 瑞 男
河原田盛美・史料ノート——大久保政権の「社会的支柱」に寄せて——	鎌 田 永 吉
文部省史料館所蔵生活用具の研究(三)	中 村 俊亀智



第5号(昭47.3)

近世初期銀貨考——リチャード・コックス日記を中心に——

近世米穀取引市場としての大津 付, 湖東農村商人の相場帳の紹介(二)

江戸六組飛脚屋仲間について

幕末期の質屋史料——出雲国大原郡大東町大坂屋「質留牒」——

幕府勘定所勝手方記録の体系——幕府財政史料の類型論序説(その一)——

鋤の諸形態——やゝ用具論的に——

榎 本 宗 次  
鶴 岡 実枝子  
藤 村 潤一郎  
原 島 陽 一  
大 野 瑞 男  
中 村 俊亀智

第6号(昭48.3)

会津藩前期の財政構造——半石半永制の再検討——

幕府勘定所勝手方記録の体系——幕府財政史料の類型論序説(その二)——

江戸六組飛脚屋仲間について(続稿)

濱百姓について

踏み鋤の二系列——やゝ用具論的に——

鶴 岡 実枝子  
大 野 瑞 男  
藤 村 潤一郎  
鈴 木 寿  
中 村 俊亀智

第7号(昭49.3)

通日雇について

幕府勘定所勝手方記録の体系——幕府財政史料の類型論序説(その三)——

編み袋の諸形態, 用具論的に

藤 村 潤一郎  
大 野 瑞 男  
中 村 俊亀智

第8号(昭50.3)

「奈良茂家」考

福岡日雇支配・大坂通日雇萬屋喜平次について

背負梯子の諸形態

鶴 岡 実枝子  
藤 村 潤一郎  
中 村 俊亀智

第9号(昭52.3)

近世史料の分類(遺稿)——第十八回近世史料取扱講習会講義草稿——

金沢藩の通日用について

浅草米蔵について——「浅草米蔵旧例」の紹介——

鯖江領における村落行政の一斑——大庄屋勤役形態をめぐって——

明治十年代における米沢の貸座敷営業史料

近世中期～幕末維新时期における農民層の政治・社会・経済認識の展開に関する一考察(一)——羽州村山郡谷地の場合——

鎌 田 永 吉  
藤 村 潤一郎  
大 野 瑞 男  
浅 井 潤 子  
原 島 陽 一  
大 藤 修

第10号(昭53.3)

甲州道中における商品流通の展開と運輸機構——甲州郡内地方を中心に——

常陸国における太閤検地の実態

享保改革期の米価政策からみた江戸の位置——米会所存廃の顛末——

翻刻, 寛政三年五月序 安井宗二(大伴大江丸)「きのふの我」

近世史料の体系化に関する基礎的研究 昭和五一・五二年度科学研究費補助金一般研究(B)研究成果報告書

安 藤 正 人  
山 田 哲 好  
鶴 岡 実枝子  
藤 村 潤一郎  
榎 本 宗 次ほか

第11号(昭54.3)

徳島藩裁許所公事落着帳・裁許御目付扣帳の基礎的研究

近世中期～幕末維新时期の農民層の政治・社会・経済認識(二)——羽州村山郡谷地の場合——

安 澤 秀 一  
大 藤 修

京飛脚仲間について——附、京飛脚関係史料——	藤 村 潤一郎
第12号 (昭55. 9)	
宇和島藩切支丹類族改・宗門人別改・公儀え指上人改の基礎的研究	安 澤 秀 一
近世武家屋敷駈込慣行	笠 谷 和比古
近世中期～幕末維新期の農民層の政治・社会・経済認識(三)——羽州村山郡谷地の場合——	大 藤 修
京魚荷飛脚について	藤 村 潤一郎
第13号 (昭56. 9)	
領知判物・朱印状の古文書学的研究——寛文印知の政治史的意義(一)——	大 野 瑞 男
筑後蔵空米切手考——西国大名経済と堂島——	鶴 岡 実枝子
近世甲府の都市構造と役負担	安 藤 正 人
信州上田原町問屋日記にみえる定飛脚について	藤 村 潤一郎

## 11 研究集会・講演会・講習会・展示

### 11. 1 国際日本文学研究集会

回	年 月 日	主 な 内 容	参加者数(国外)
第 1 回	昭和52年(1977年) 11月10日 —11月11日	特別講演 (リチャード・マッキノン「狂言と現代の接点」, ドナルド・キーン「日本におけるモダニズム作家について」) 研究発表 5 件 宮内庁書陵部見学, 裏千家家元東京出張所「茶の湯」, 国立劇場演劇「海援隊」観賞	85人 (49人)
第 2 回	昭和53年(1978年) 11月16日 —11月17日	研究発表 7 件 シンポジウム「19世紀における日本文学——近世から近代へ——」(前田愛, ドナルド・キーン, アンドレ・デルティユ, 司会: 長谷川泉)	109人 (45人)
第 3 回	昭和54年(1979年) 11月15日 —11月16日	研究発表 6 件 シンポジウム「民間伝承(フォークロア)と文学」(リチャード・マッキノン, 三隅治雄, 司会: 臼田基五郎)	93人 (28人)
第 4 回	昭和55年(1980年) 11月13日 —11月14日	研究発表 8 件 講演 (ベルナル・フランク「平安朝の「風流」の一先駆者としてみた源融」)	116人 (36人)
第 5 回	昭和56年(1981年) 11月13日 —11月14日	研究発表 8 件 講演 (ブルーノ・レヴィン「明治初期における歌論の独訳」)	84人 (28人)

## 11.2 公開講演会

### 公開講演会

回	年 月 日	講 師 と 演 題	会 場	備 考
第1回	昭和47年11月9日	主題 古典と現代 永井 路子 平家物語の女性 五味 智英 万葉の歌人たち	朝日講堂	協賛 国語国文学会 連絡協議会 後援 朝日新聞
第2回	昭和48年6月21日	主題 芭蕉と蕨村 井本 農一 芭蕉と奥の細道 伊藤 信吉 朔太郎と蕨村	朝日講堂	協賛 国語国文学会 連絡協議会 後援 朝日新聞社
第3回	昭和49年11月7日	主題 源氏物語 秋山 虔 源氏物語をどう見るか 木俣 修 源氏物語と和歌	朝日講堂	協賛 国語国文学会 連絡協議会 後援 朝日新聞社
第4回	昭和50年11月8日	橋本不美男 古典本文と定家 松田 修 読みと目録 久松 潜一 国文学の資料的研究の意義	主婦の友ビルホール	
第5回	昭和51年10月30日	浜田義一郎 宵本・黄表紙の絵題箋 梅津 次郎 仏教説話画について	お茶の水女子大学 一般教育1号館	
第6回	昭和52年10月1日	吉田 精一 東西の日記文学 ドナルド・キーン 日本文学史について	当館大会議室	
第7回	昭和53年3月4日	主題 国文学と久松潜一博士 大久保 正 昭和期の万葉集研究 山岸 徳平 久松博士の思い出 講演録音テープ(第4回公開講演会の久松潜一博士講演)	当館大会議室	
第8回	昭和53年6月24日	主題 古今集前後 福田 秀一 古今集の伝統 佐伯 梅友 古今集の歌の疑問語について	当館大会議室	
第9回	昭和53年11月18日	高田 瑞穂 近代文学における妻の投影 ダグラス・ミルズ 日本文学の魅力 ——中世文学を中心として——	当館大会議室	
第10回	昭和54年6月30日	山下 宏明 平家物語の語り エドワード・サイデンスティッカー 源氏物語と私	当館大会議室	
第11回	昭和54年11月17日	主題 歌舞伎 服部 幸雄 歌舞伎の世界と趣向 松崎 仁 男の世界・女の世界 ——近世戯曲の構造をめぐって——	当館大会議室	
第12回	昭和55年6月14日	浜田 啓介 脱本では何が面白いのか 嵯峨 康隆 日本の幽霊	当館大会議室	
第13回	昭和55年11月15日	竹盛 天雄 日本近代文学における“あそび”と 余裕 三好 行雄 「私小説」の本質	当館大会議室	
第14回	昭和56年6月13日	小野 寛 大伴家持の歌 山崎 馨 万葉の河蝦	当館大会議室	
第15回	昭和56年10月31日	佐竹 昭広 北野天神の歌 秋山 虔 源氏物語の世界	京都会館会議場	

# 夏期公開講演会

回	年 月 日	講 師 と 演 題	会 場	備 考
第1回	昭和53年8月24日 ～26日	主題 日本の小説 伊井 春樹 源氏物語の成立と説者たち 片桐 洋一 伊勢物語の虚構の方法 本田 康雄 一九・三馬の滑稽本 ——俗談平話文芸の成立—— 松田 修 西鶴・やさしさの美学 岡 保生 尾崎紅葉 古川 清彦 森鷗外	当館大会議室	
第2回	昭和54年9月6日 ～8日	主題 日本の説話——ハナシの世界—— 今野 達 湘南の海竜女 西尾 光一 説話文学研究の問題点 村上 學 入間川の男と長明 宗政五十緒 西鶴と近世説話 大島 建彦 狂歌咄の伝承 神田 秀夫 古代の羽衣	当館大会議室	『国文学研究資料館 講演集 一』として 刊行
第3回	昭和55年9月4日 ～6日	主題 和歌の流れ 鈴木日出男 「万葉」の集団性と「古今」の集団性 森 淳司 東歌を考える 久保木哲夫 「折り」の文学としての平安和歌 久保田 淳 新古今以後の和歌と歌人 正徹と心敬 佐佐木幸綱 和歌革新運動の問題二、三	当館大会議室	『国文学研究資料館 講演集 二』として 刊行
第4回	昭和56年9月3日 ～5日	主題 近世の小説 渡邊 守邦 仮名草子の人物造型 浅野 晃 西鶴が描いた人間たち 中野 三敏 近世中期小説の世界 長谷川 強 浮世草子の西鶴離れ 佃多 純一 近世小説と挿絵——一代男の場合—— 神保 五彌 江戸の小説	当館大会議室	『国文学研究資料館 講演集 三』として 刊行

## 11.3 展 示

### 特別展示

回	年 月 日	内 容	備 考
第1回	昭和52年7月25日 ～30日	開館特別展示 国学者自筆稿本と奈良絵本を中心として	『国文学研究資料館開館 特別展示目録』を刊行
第2回	昭和52年11月10日 ～11日	国学者自筆稿本と奈良絵本を中心として	
第3回	昭和53年3月4日 ～10日	久松博士蔵歌論書及び本館蔵国学関係書を中心として	『国文学研究資料館特別 展示目録 二』を刊行
第4回	昭和53年6月1日 ～7月7日	「古今集」初雁文庫を中心として	『国文学研究資料館特別 展示目録 三』を刊行
第5回	昭和54年8月20日 ～25日	日本の絵本ならびに版本の挿絵	『国文学研究資料館特別 展示目録 四』を刊行

第6回	昭和54年11月26日 ～12月1日	和歌と歌論——初雁文庫・久松博士本を中心として——	
第7回	昭和55年9月4日 ～10日	歌書展	
第8回	昭和55年11月10日 ～15日	館蔵貴重書展	『国文学研究資料館特別 展示目録 五』を刊行
第9回	昭和56年9月3日 ～9日	館蔵貴重書展	
第10回	昭和56年11月12日 ～18日	国学者自筆本と新収資料を中心として	『国文学研究資料館特別 展示目録 六』を刊行

常設展示

回	年 月 日	内 容
第1回	昭和52年12月6日 ～昭和53年2月27日	日本文学史
第2回	昭和53年4月1日 ～9月22日	八犬伝とその周辺
第3回	昭和53年10月2日12月26日	幕末維新の文学
第4回	昭和54年3月5日8月11日	名所と文学
第5回	昭和54年8月28日 ～11月17日	日本の絵本並びに版本の挿絵
第6回	昭和55年1月10日 ～4月12日	古典文学その流れ——源氏物語・百人一首・水滸伝など——
第7回	昭和55年4月23日 ～6月28日	徒然草
第8回	昭和55年7月10日8月27日	中世文学——そのいくつかの糸筋——
第9回	昭和55年10月1日 ～10月15日	江戸から明治へ——戯作と近代文学——
第10回	昭和55年11月25日 ～昭和56年2月14日	中世文学——そのいくつかの糸筋——
第11回	昭和56年2月23日 ～4月21日	江戸から明治へ——戯作と近代文学——
第12回	昭和56年5月7日 ～7月7日	平安時代の文学
第13回	昭和56年7月15日 ～11月7日	日本文学の空間
第14回	昭和56年11月27日 ～昭和57年1月28日	平安時代の文学
第15回	昭和57年2月8日 ～4月17日	狂歌展

臨時開催の展示

年 月 日	内 容
昭和54和 6 月22日～23日	近世文学小展示
昭和55年 5 月26日	中世文学小展示

(当館における学会開催に協力して臨時に行なったもの)

11.4 最近十年間の近世史料取扱講習会

回	年 月 日	主 な 内 容	場 所	参加者数
18	47.10.2 ～10.7	(1) 近世史料概論 (I) 九州大学附属九州文化史研究施設教授 藤野 保 (2) 近世史料概論 (II) 九州大学経済学部教授 秀村 選三 (3) 九州地方村方史料読解 九州大学経済学部教授 秀村 選三 (4) 中世史料概論 九州大学文学部助教授 川添 昭二 (5) 近代史料概論 佐賀大学教育学部助教授 杉谷 昭 (6) 法制史料について 専修大学法学部教授 石井 良助 (7) 史料の補修 宮内庁書陵部専門官 遠藤諦之輔	福岡県文化会館図書館	40
	47.10.16 ～10.21	(1) 近世史料概論 (I) (II) 学習院女子短期大学長 児玉 幸多 (2) 中世史料概論 東洋大学文学部教授 宝月 圭吾 (3) 近世史料概論 東京大学農学部教授 古島 敏雄 (4) 封建都市について 東北大学文学部教授 豊田 武 (5) 史料の保存科学 東京国立文化財研究所修理技術研究室長 岩崎 友吉 (6) 史料の補修 宮内庁書陵部専門官 遠藤諦之輔	東京都職員研修所	42
19	48.9.17 ～9.22	(1) 古代中世史料概論 名古屋大学文学部教授 佐藤 進一 (2) 近世史料概論 (I) 東京都立大学人文学部教授 北島 正元	国立教育会館	40

回	年 月 日	主 な 内 容	場 所	参加者数
		(3) 近世史料概論 (Ⅱ) 福島大学教育学部教授 小林 清治 (4) 近世史料概論 (Ⅲ) 東北大学文学部助教授 渡辺 信夫 (5) 近世史料概論 東京大学社会科学研究所教授 大石嘉一郎 (6) 史料の補修 宮内庁書陵部専門官 遠藤諦之輔 (7) 史料の保存科学 東京国立文化財研究所第一修復技術研究室長 岩崎 友吉		
	48.10.15 ～10.20	(1) 古代中世史料概論 名古屋大学文学部教授 佐藤 進一 (2) 近世史料概論 (Ⅰ) 京都女子大学文学部教授 小葉田 淳 (3) 近世史料概論 (Ⅱ) 京都大学文学部助教授 朝尾 直弘 (4) 近世史料概論 (Ⅲ) 大阪府立大学教養学部教授 森 杉夫 (5) 近代史料概論 東京大学名誉教授 古島 敏雄 (6) 近世の民俗 大阪市立博物館長 大阪市立大学文学部教授 平山敏治郎 (7) 史料の補修 宮内庁書陵部専門官 遠藤諦之輔	京都府立総合資料館	40
20	49.9.9 ～9.14	(1) 古代中世史料概論 法政大学文学部教授 豊田 武 (2) 近世史料概論 (Ⅰ) 福島大学教育学部教授 小林 清治 (3) 近世史料概論 (Ⅱ) 東北大学文学部助教授 渡辺 信夫 (4) 近代史料概論 神奈川大学経済学部教授 丹羽 邦男 (5) 史料の補修 宮内庁書陵部専門官 遠藤諦之輔 (6) 史料の保存科学 高松塚保存対策調査会委員 岩崎 友吉	宮城県図書館	33
	49.9.30 ～10.5	(1) 古代中世史料概論 東洋大学文学部教授 宝月 圭吾 (2) 近世史料概論 (Ⅰ) (Ⅱ) 東京都立大学人文学部教授 北島 正元 (3) 近代史料概論 宮城教育大学教授 安孫子 麟	国立教育会館	45

回	年 月 日	主 な 内 容	場 所	参加者数
		(4) 史料の補修 宮内庁書陵部専門官 遠藤諦之輔 (5) 史料の保存科学 高松塚保存対策調査会委員 岩崎 友吉		
21	50. 9 .30 ～10. 4	(1) 古代中世史料概論 専修大学法学部教授 石井 良助 (2) 近世史料概論 (Ⅰ) 竜谷大学文学部教授 若林喜三郎 (3) 近世史料概論 (Ⅱ) 金沢大学法文学部助教授 高沢 裕一 (4) 近代史料概論 (Ⅰ) (Ⅱ) 神奈川大学経済学部教授 丹羽 邦男 (5) 史料の補修 宮内庁書陵部専門官 遠藤諦之輔 (6) 史料の保存科学 高松塚保存対策調査会委員 岩崎 友吉	石川県立郷土資料館	44
	50.10.20 ～10.24	(1) 古代中世史料概論 法政大学文学部教授 豊田 武 (2) 近世史料概論 (Ⅰ) 東京大学史料編さん所教授 山口 啓二 (3) 近世史料概論 (Ⅱ) 東北大学文学部助教授 渡辺 信夫 (4) 近代史料概論 (Ⅰ) 東京大学社会科学研究所教授 大石嘉一郎 (5) 近代史料概論 (Ⅱ) 埼玉県立文書館行政文書課長 大村 進 (6) 個別研究と史料の取扱い方法 専修大学経済学部教授 古島 敏雄 (7) 史料の補修 宮内庁書陵部専門官 遠藤諦之輔 (8) 近世の遺物と遺習 国立民族学博物館助教授 中村俊亀智	国立教育会館	50
22	51. 9 .27 ～10. 1	(1) 古代中世史料概論 専修大学法学部教授 石井 良助 (2) 近世史料概論 (Ⅰ) 岡山大学名誉教授 藤井 駿 (3) 近世史料概論 (Ⅱ) 神戸大学文学部教授 高尾 一彦 (4) 近代史料概論 (Ⅰ) 広島大学文学部助教授 有元 正雄 (5) 近代史料概論 (Ⅱ) 山口県文書館専門研究員 広田 暢久	岡山県総合文化センター	42



回	年 月 日	主 な 内 容	場 所	参加者数
		(6) 史料の補修 宮内庁書陵部専門官 遠藤諦之輔 (7) 史料の保存料学 高松塚保存対策調査会委員 岩崎 友吉 (8) 近世の民俗資料 東京教育大学文学部教授 桜井徳太郎		
	51.10.25 ～10.29	(1) 古代中世史料概論 東洋大学文学部教授 宝月 圭吾 (2) 近世史料概論 (Ⅰ) 京都大学文学部助教授 朝尾 直弘 (3) 近世史料概論 (Ⅱ) 立正大学文学部教授 北島 正元 (4) 近代史料概論 (Ⅰ) 京都大学経済学部助教授 中村 哲 (5) 近代史料概論 (Ⅱ) 茨城県歴史館史料課長 佐久間好雄 (6) 史料の補修 宮内庁書陵部専門官 遠藤諦之輔 (7) 史料取扱いの科学 東京国立文化財研究所修復技術部長 西川杏太郎 (8) 近世の民俗資料 東京教育大学部教授 桜井徳太郎	国立教育会館	45
23	52. 9 .26 ～ 9 .30	(1) 古代中世史料概論 京都府立総合資料館歴史資料課主査 上島 有 (2) 近世史料概論 (Ⅰ) 京都大学文学部助教授 朝尾 直弘 (3) 近世史料概論 (Ⅱ) 立正大学文学部教授 北島 正元 (4) 近代史料概論 (Ⅰ) 京都大学経済学部教授 中村 哲 (5) 近代史料概論 (Ⅱ) 立命館大学経済学部教授 後藤 靖 (6) 史料の補修 元宮内庁書陵部専門官 遠藤諦之輔 (7) 史料取扱いの科学 東京国立文化財研究所修復技術部長 西川杏太郎 (8) 近世の民俗資料 駒沢大学文学部教授 桜井徳太郎	京都府立総合資料館	37
	52.10.17 ～10.21	(1) 古代中世史料概論 法政大学文学部教授 豊田 武 (2) 近世史料概論 (Ⅰ) 東京大学史料編さん所教授 山口 啓二	国文学研究資料館	42

回	年 月 日	主 な 内 容	場 所	参加者数
		(3) 近世史料概論 (II) 東北大学文学部教授 渡辺 信夫 (4) 近代史料概論 (I) (II) 神奈川大学経済学部教授 丹羽 邦男 (5) 史料の補修 元宮内庁書陵部専門官 遠藤諦之輔 (6) 史料の保存科学 高松塚保存対策調査会委員 岩崎 友吉 (7) 近世の民俗資料 駒沢大学文学部教授 桜井徳太郎		
24	53.10.23 ～10.27	(1) 古代中世史料概論 東京大学名誉教授 宝月 圭吾 (2) 近世史料概論 (I) 東京大学史料編さん所教授 山口 啓二 (3) 近世史料概論 (II) 愛知教育大学教育学部教授 吉永 昭 (4) 近代史料概論 立命館大学経済学部教授 後藤 靖 (5) 近世の民俗資料 国立民族学博物館教授 中村俊亀智 (6) 史料の保存科学 文化庁文化財保護部美術工芸課長 西川杏太郎 (7) 史料の補修 宇佐美国宝修理所長 宇佐美直行	京都府立総合資料館	38
	53.11.6 ～11.10	(1) 古代中世史料概論 中央大学文学部教授 佐藤 進一 (2) 近世史料概論 (I) 東京大学史料編さん所教授 山口 啓二 (3) 近世史料概論 (II) 慶応義塾大学文学部教授 中井 信彦 (4) 近代史料概論 専修大学経済学部教授 古島 敏雄 (5) 近世の民俗資料 群馬大学教育学部助教授 西垣 晴次 (6) 史料の保存科学 全日本博物館学会代表委員 岩崎 友吉 (7) 史料の補修 元宮内庁書陵部専門官 遠藤諦之輔	国文学研究資料館	45
25	54.10.15 ～10.19	(1) 古代中世史料概論 中央大学文学部教授 佐藤 進一 (2) 近世史料特講 国立史料館長 榎本 宗次	岐阜県歴史資料館	40

回	年 月 日	主 な 内 容	場 所	参加者数
		(3) 近世史料概論 名古屋大学法学部教授 平松 義郎 (4) 近代史料概論 大阪大学法学部教授 山中永之佑 (5) 近世の民俗資料 大谷大学名誉教授 五来 重 (6) 史料の保存科学 全日本博物館学会代表委員 岩崎 友吉 (7) 史料の補修 宮内庁書陵部専門官 古関 豊		
	54.11.5 ～11.9	(1) 古代中世史料概論 東京大学文学部教授 石井 進 (2) 近世史料特講 京都大学名誉教授 小葉田 淳 (3) 近世史料概論 慶応義塾大学文学部教授 中井 信彦 (4) 近代史料概論 専修大学経済学部教授 古島 敏雄 (5) 近世の民俗資料 群馬大学教育学部助教授 西垣 晴次 (6) 史料の保存科学 全日本博物館学会代表委員 岩崎 友吉 (7) 史料の補修 宇佐美国宝修理所長 宇佐美直行	国文学研究資料館	40
26	55.10.13 ～10.17	(1) 古代中世史料概論 大阪電気通信大学工学部教授 上島 有 (2) 近世史料特講 国立史料館長 榎本 宗次 (3) 近世史料概論 名古屋大学法学部教授 平松 義郎 (4) 史料の保存科学 全日本博物館学会会長 岩崎 友吉 (5) 近世の民俗資料 筑波大学歴史・人類学系助教授 宮田 登 (6) 近代史料概論 大阪大学法学部教授 山中永之佑 (7) 史料の補修 宇佐美国宝修理所長 宇佐美直行	京都府立総合資料館	37
	55.10.27 ～10.31	(1) 古代中世史料概論 東京大学文学部教授 石井 進 (2) 近世史料特講 創価大学法学部教授 石井 良助	国文学研究資料館	41

回	年 月 日	主 な 内 容	場 所	参加者数
		(3) 近世史料概論 立正大学文学部教授 北島 正元 (4) 近代史料概論 専修大学経済学部教授 古島 敏雄 (5) 近世の民俗資料 筑波大学歴史・人類学系助教授 宮田 登 (6) 史料の保存科学 全日本博物館学会会長 岩崎 友吉 (7) 史料の補修 宮内庁書陵部専門官 古関 豊		
27	56.10.12 ～10.16	(1) 古代中世史料概論 神奈川大学短期大学部教授 網野 善彦 (2) 近世史料特講 学習院大学名誉教授 児玉 幸多 (3) 近世史料概論 国立史料館長 榎本 宗次 (4) 近代史料概論 大阪大学法学部教授 山中永之佑 (5) 近世の民俗資料 筑波大学歴史・人類学系助教授 宮田 登 (6) 史料の保存科学 全日本博物館学会会長 岩崎 友吉 (7) 史料の補修 宇佐美国宝修理所長 宇佐美直行	国文学研究資料館	59

## 12 共同研究等

### 12.1 共同研究

(五十音順)

#### 1. 解題基本問題の検討 (昭和52年度)

(共同研究員)

井 上 宗 雄 (立教大学文学部教授)  
片 桐 洋 一 (大阪女子大学学芸学部教授)  
加 藤 定 彦 (立教大学一般教育部専任講師)  
川 村 晃 生 (慶応義塾大学非常勤講師)  
小町谷 照 彦 (東京学芸大学教育学部教授)  
鈴 木 淳 (国学院大学日本文化研究所助手)  
瀧 澤 貞 夫 (信州大学教育学部助教授)  
荻 原 千 鶴 (お茶の水女子大学文教育学部助手)

(館内参加者)

伊 井 春 樹  
内 田 保 廣  
島 原 泰 雄  
杉 山 重 行  
福 田 秀 一  
本 田 康 雄  
渡 邊 守 邦

#### 2. 初雁文庫解題研究 (昭和52～54年度)

(共同研究員)

井 上 宗 雄 (立教大学文学部教授) (54年度)  
片 桐 洋 一 (大阪女子大学学芸学部教授) (52～53年度)  
川 村 晃 生 (慶応義塾大学非常勤講師) (52～53年度)  
小町谷 照 彦 (東京学芸大学教育学部教授) (52～53年度)  
瀧 澤 貞 夫 (信州大学教育学部助教授) (52～53年度)  
原 岡 文 子 (共立女子短期大学専任講師) (52～53年度)  
三 輪 正 胤 (大阪府立大学総合科学部助教授) (54年度)

(館内参加者)

伊 井 春 樹 (52～54年度)  
高 田 信 敬 (52～54年度)  
福 田 秀 一 (52～54年度)

成果の刊行については資料10.2 参照

#### 3. 俳書解題研究 (昭和53～56年度)

(共同研究員)

池 田 俊 朗 (京北高等学校教諭) (54～56年度)  
尾 形 侑 (成城大学文芸学部教授) (53～56年度)  
加 藤 定 彦 (立教大学一般教育部専任講師) (53～56年度)  
雲 英 未 雄 (早稲田大学文学部助教授) (53～56年度)  
谷 地 快 一 (東洋大学附属牛久高等学校教諭) (54～56年度)  
中 野 沙 恵 (東京女子医科大学講師) (54～56年度)  
森 川 昭 (東京大学文学部助教授) (53～56年度)

(館内参加者)

岡 雅 彦 (53～56年度)  
島 原 泰 雄 (55～56年度)  
棚 町 知 弥 (56年度)  
松 田 修 (53～55年度)  
渡 邊 守 邦 (53～56年度)  
和 田 博 通 (54年度)  
内 田 保 廣 (53年度)

#### 4. 久松本解題研究（昭和54～56年度）

（共同研究員）

（館内参加者）

井 上 宗 雄（立教大学文学部教授）（54年度） 阿 部 好 臣（55年度）  
 久 保 田 淳（東京大学文学部助教授）（55～56年度） 大 久 保 正（54～55年度）  
 三 輪 正 胤（大阪府立大学総合科学部助教授）（54～56年度） 新 藤 協 三（56年度）  
 福 田 秀 一（54～56年度）

### 12.2 近世史料所在調査

年度	調 査 史 料	所 在 地	協 力 調 査 員	館内調査員	期 間
49	三河国設楽郡出沢村 滝川家文書	愛知県新城市出沢	吉永 昭（愛知教育大学 教授）	藤村潤一郎 鶴岡実枝子	49.10.11 ～10.14
	丹後国与謝郡算所村 西原家文書ほか	京都府与謝郡加悦町	増田信武（京都府立丹 後郷土資料館） 百田昌夫（京都府立丹 後郷土資料館）	鎌田 永吉 井上 勝生	50.2.18 ～2.21
50	信濃国松代 真田家文書	長野市松代	塚田正朋（長野県史編 纂委員）	原島 陽一 井上 勝生	50.8.5 ～8.11
	出羽国平鹿郡角間川村 本郷家文書	秋田県大曲市角間川	高橋秀夫（秋田工業高 等専門学校教授） 田口勝一郎（雄和町大 正寺小学校長）	大野 瑞男	50.8.16 ～8.18
51	出羽国村山郡大石田村 高桑家文書ほか	山形県北村山郡大石田 町	梅津保一（山形県総務 部県史編纂主査）	榎本 宗次	51.8.26 ～8.28
	安房国平郡荒川村 高梨家文書	千葉県安房郡富山町	山本光正（千葉県史編 纂室）	浅井 潤子	52.2.3 ～2.5
52	常陸国那珂郡小野村 四倉家文書ほか	茨城県那珂郡大宮町	瀬谷義彦（茨城大学教 授）	藤村潤一郎 大藤 修 山田 哲好	52.8.22 ～8.24
	静岡県浜名郡新居町 戸長役場文書	静岡県浜名郡新居町	丹羽邦男（神奈川大学 教授）	浅井 潤子	53.1.13 ～1.15
53	播磨国姫路 酒井家文書	兵庫県姫路市	酒井 一（竜谷大学教 授）	大野 瑞男 笠谷和比古	53.10.11 ～10.14
	甲斐国巨摩郡鯉沢村 原田家文書・同八代郡 米倉村武川家文書	山梨県南巨摩郡鯉沢町 山梨県東八代郡八代町	吉田伸之（東京大学助 手） 杉山長太郎（鯉沢町文 化財審議委員）	安藤 正人 浅井 潤子 藤村潤一郎	53.10.28 ～10.31
54	下野国河内郡町谷町 渡辺家文書	栃木県今市市町谷	河内八郎（茨城大学教 授）	鶴岡実枝子 大藤 修	54.8.21 ～8.24

54	美濃国方県郡古市場村 国島家文書 美濃国石津郡帆引新田村 内田家文書	岐阜市古市場  岐阜県海津郡海津町	松田之利（岐阜大学助 教授）	大野 瑞男 安藤 正人 山田 哲好	54.10.16 ～10.18
55	上野国利根郡門前村 門前区有文書ほか  上総国山辺郡道庭村 石橋家文書 上総国山辺郡下布田村 並木家文書	群馬県利根郡川場村  千葉県東金市道場 同山武郡山武町下布田	井上定幸（群馬県史編 纂室主幹）  奥田包介（東金市史編 纂委員） 吉田伸之（千葉大学講 師）	原島 陽一 笠谷和比古  藤村潤一郎 安藤 正人 山田 哲好	55.9.3 ～9.5  55.11.4 ～11.7
56	陸奥国閉伊郡穴沢村 工藤家文書  陸奥国白川郡田代村 鈴木家文書ほか	岩手県下閉伊郡岩泉町 穴沢  福島県東白川郡塙町	渡辺信夫（東北大学教 授）  替田 宏（福島県歴史 資料館歴史資料課長）	大藤 修 安藤 正人  大野 瑞男 原島 陽一	56.8.18 ～8.21  56.9.7 ～9.9

### 12.3 史料館研究会招聘講師

年度	氏 名	課 題	期 日
49	佐藤 進一（名古屋大学文学部教授）	日本古文書学	49.2.26
53	吉永 昭（愛知教育大学教授）	三河国設楽郡出沢村滝川家文書他調査報 告	54.2.6
54	上島 有（大阪電気通信大学教授）	中世古文書学の課題	55.3.6
54	岩橋 勝（松山商科大学教授）	近世米価時系列作成上の問題	55.3.13
55	替田 宏（福島県歴史資料館歴史資料課長）	福島県内の近世文書 —陸奥代官領文書を中心に—	56.1.29
56	松本 四郎（都留文科大学教授）	近世都市・城下町の史料について	57.2.25

### 12.4 科学研究費補助金による研究プロジェクト

（各個研究的なものは除く）

種 目	研 究 課 題	研究代表者	47～49 年度	50年度	51年度	52年度	53年度	54年度	55年度	56年度
試験研究 (2)	国文学情報検索システム開 発のための基礎的研究	古川 清彦	千円	千円 3,000	千円	千円	千円	千円	千円	千円
特定研究 (2)	国文学文献資料情報の蓄積 検索システムに関する研究	古川 清彦			1,000	2,000	2,000			
一般研究 (B)	近世史料の体系化に関する 基礎的研究	鈴木 寿 榎本 宗次			4,400	500				
試験研究 (2)	文献資料マイクロフィルムの撮 影・保存等の標準化に関する研究	山中 光一			1,950	200				

特定研究 (2)	日本語の文字システムにおける実 用的言語処理の基礎的研究 計算機による日本語文字シ ステムの実用的処理	市古 貞次 山中 光一				2,000				
総合研究 (A)	江戸幕府直轄領支配機構の 総合的研究	大野 瑞男					4,500	500		
試験研究 (2)	国文学語彙検索システム及び 索引誌の作成に関する研究	市古 貞次							4,900	
一般研究 (B)	逸翁美術館蔵国文学関係資 料の総合調査と解題研究	大久保 正 伊井 春樹							2,600	
試験研究 (1)	国文学情報検索システムの 共同利用に関する研究	小山 弘志								3,500
特定研究 (2)	日本語処理システムの為の 漢字シンソーラス研究開発	田嶋 一夫								2,900

### 13 研究者の受入れ、派遣大学院教育協力

#### 13.1 内地研究員・私学研修員の受入れ

年度	氏 名	研 究 題 目	期 間	指 導 教 官	区分
51	藤本 一恵(京都女子大学教授)	王朝文学の資料的研究	51.4.1～ 9.30	大久保 正	私
54	川上 富吉(大妻女子大学助教授)	万葉集人物伝	54.4.1～55.3.31	大久保 正	私
	上杉 省和(静岡大学助教授)	白樺派文学の研究	54.9.1～55.2.29	古川 清彦	内
	稲葉 二柄(香川大学助教授)	中世軍記ならびに説話の研究	54.9.1～55.2.29	福田 秀一	内
55	両角 倉一(山梨県立女子短大助教授)	連歌師の創作と古典学の研究	55.10.1～56.3.31	福田 秀一	内
56	徳満 澄雄(高知女子大学教授)	源氏物語受容史の研究	56.5.1～10.31	伊井 春樹	内

(注) 区分欄の内は内地研究員、私は私学研修員

#### 13.2 国際交流基金フェローの受入れ

年度	氏 名	研 究 題 目	期 間
54	Ichiko Morita (オハイオ州立大学助教授)	日本に関する文献処理のコンピューター化	54.8.10 ～54.9.10
56	Vladislav N. Goregliad (ソ連科学アカデミー東洋研究所 レニングラード支部 日本部長)	8世紀～12世紀の日本文学史の研究	56.1.7 ～56.7.6
56	Thomas J. Harpar (オーストラリア国立大学アジア研究部 日本語科シニア・レクチャラー)	源氏物語注釈集の研究	56.4.1 ～56.11.30



Adriana Delprat	(プリンストン大学博士課程)	江戸時代末期の戯作文学の研究	56.6.1 ～57.6.30
Robert Brower	(ミシガン大学極東言語文学部教授)	藤原定家と「新古今集」の時代	56.9.1 ～57.4.30

### 13.3 大学院教育協力

年度	氏 名	所 属	研 究 題 目	期 間	指導教官
54	氏家 幹人	筑波大学大学院	近世芸能史	54.4.1～55.3.31	松田 修
55	武井 和人	東京都立大学大学院	中世文学の研究	55.4.1～56.3.31	福田 秀一
56	武井 和人	東京都立大学大学院	中世文学の研究	56.4.1～57.3.31	福田 秀一

### 13.4 在外研究員の派遣等

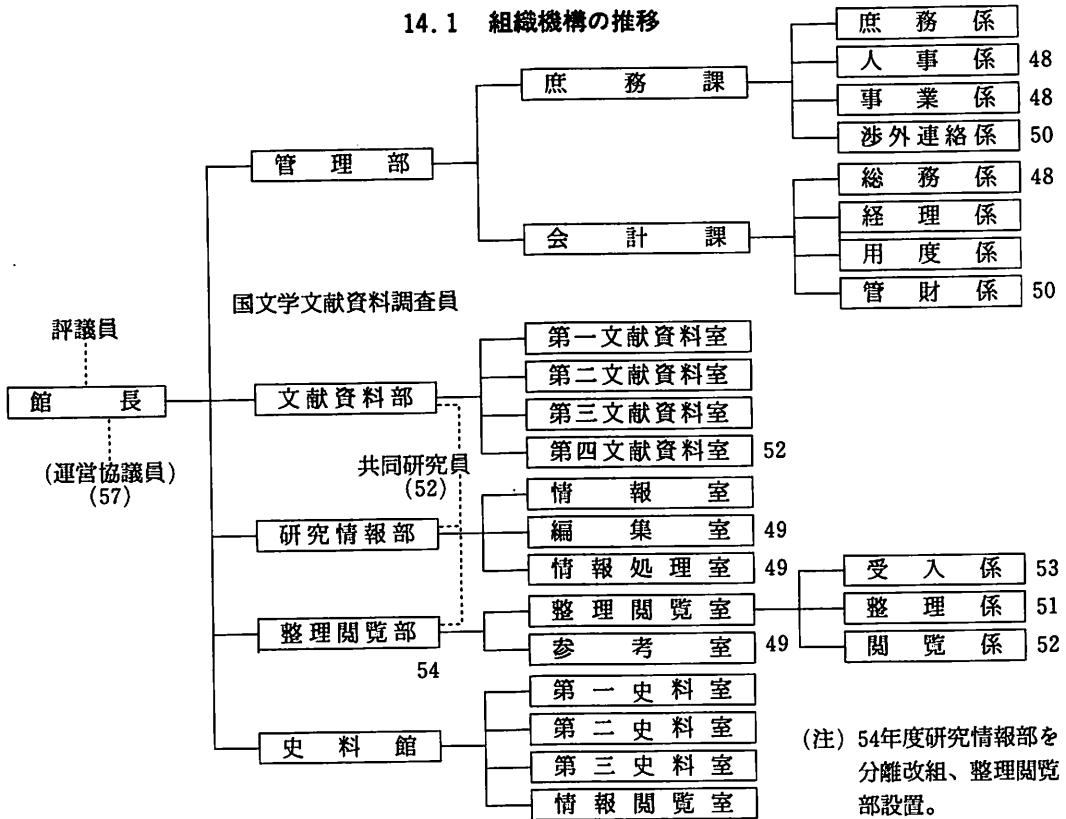
年度	氏 名	目 的	期 間	区 分
48	古川 清彦	海外における日本文学に関する研究情報の調査収集	48.9.18 ～ 11.17	文部省在外研究員
49	松田 修	在外国文学研究資料調査	49.9.25 ～ 11.24	文部省在外研究員
50	福田 秀一	在外国文学研究資料調査	50.10.25 ～ 12.24	文部省在外研究員
51	内藤 衛亮	I S O / T C 46 (国際標準化機構46分科会)に出席のため	51.5.1 ～ 5.12	国際研究集会
	石塚 英弘	計算機利用による化学研究設計に関するセミナー本会議出席のため	51.8.10 ～ 8.25	外国出張
	田嶋 一夫	欧米における情報検索システムに関する調査研究	51.12.30～52.2.28	文部省在外研究員
52	山中 光一	「第一回ユニシスト東南アジア地域情報政策計画専門家会議」及び「東南アジア科学・技術・工業情報ワークショップ」出席のため	52.7.7 ～ 7.17	外国出張
	永田 治樹	書誌情報の制御(目録法機械化, 情報システム)の調査研究	52.7.10～53.5.9	文部省在外研究員
53	大野 瑞男	外国文書館においての日本関係史料の調査	53.8.3 ～ 10.2	文部省在外研究員
	安澤 秀一	第7回国際経済史会議出席のため	53.8.5 ～ 8.25	海外研修
	石塚 英弘	国際共同研究「化学における情報科学の研究」実施のため	53.9.17 ～ 10.6	外国出張
	市古 貞次	中世日本文学「奈良絵本」に関する国際会議に出席のため	53.8.15 ～ 9.4	外国出張

54	石塚 英弘	日・米化学会合同コンgres出席及び講演発表	54.4.1 ~ 4.7	海外研修
	石塚 英弘	文献資料の入力・処理ならびに流通システムに関する調査・研究	54.9.14 ~ 11.13	文部省在外研究員
	福田 秀一	ヨーロッパ日本研究国際学会への参加ならびにヨーロッパにおける日本文学の資料と研究状況の調査	54.9.18 ~ 9.30	外国出張・海外研修
	古川 清彦	韓国日本学会主催共同シンポジウムにおける講演	54.9.28 ~ 10.3	外国出張
55	福田 秀一	ケンブリッジ大学図書館蔵アストン・コレクションの整理・調査研究	55.7.14 ~ 8.20	外国出張
	大野 瑞男	第15回国際歴史学会参加及び東欧歴史学研究状況調査	55.8.8 ~ 8.25	海外研修
	安澤 秀一	国際文書館会議及び文書の保存科学ケンブリッジ国際会議並びに史料保存状況調査	55.9.8 ~ 9.29	海外研修
	石塚 英弘	第8回世界コンピュータ会議出席	55.10.11 ~ 10.21	海外研修
	田嶋 一夫	中国科学院計算センターにおいてコンピュータによる漢字データ処理の指導	55.10.14 ~ 10.25	外国出張
56	小山 弘志	国際作家会議日・フィン文化シンポジウム出席及びスウェーデン国立図書館フランス国立図書館においての日本文学に関する文献の調査	56.6.12 ~ 7.1	外国出張
57	伊井 春樹	オーストラリア国立大学での日本文学教育	57.3.1 ~ 4.30	外国出張
	宮澤 彰	学術情報処理システムの調査研究	57.3.29 ~ 9.28	文部省在外研究員

## 14 組織・定員の推移

### 14.1 組織機構の推移

(数字は増設年度)



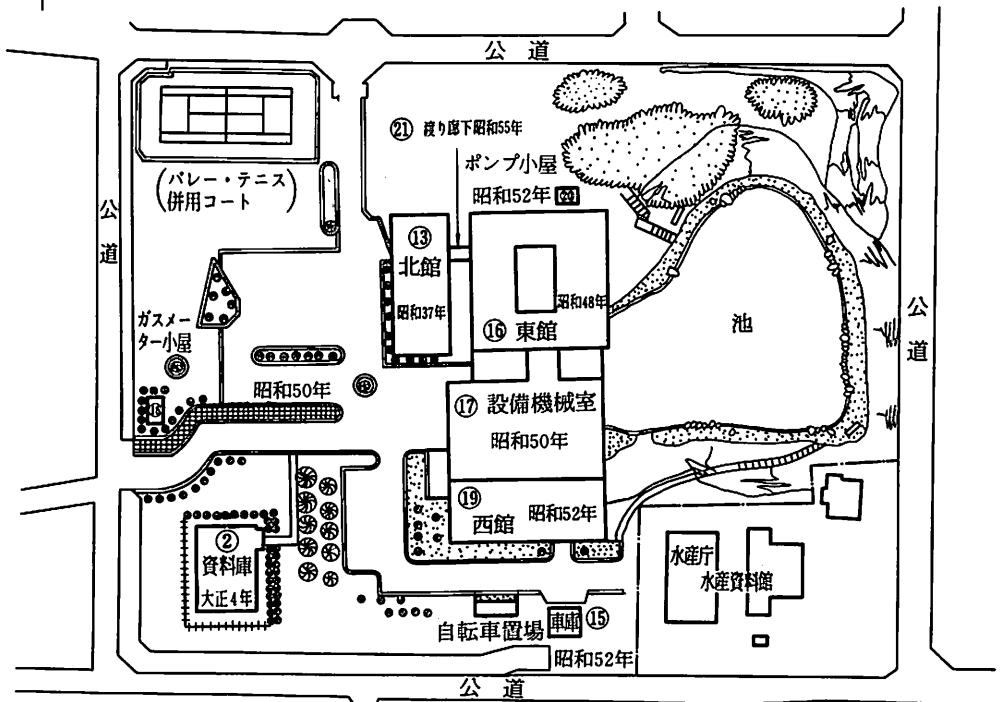
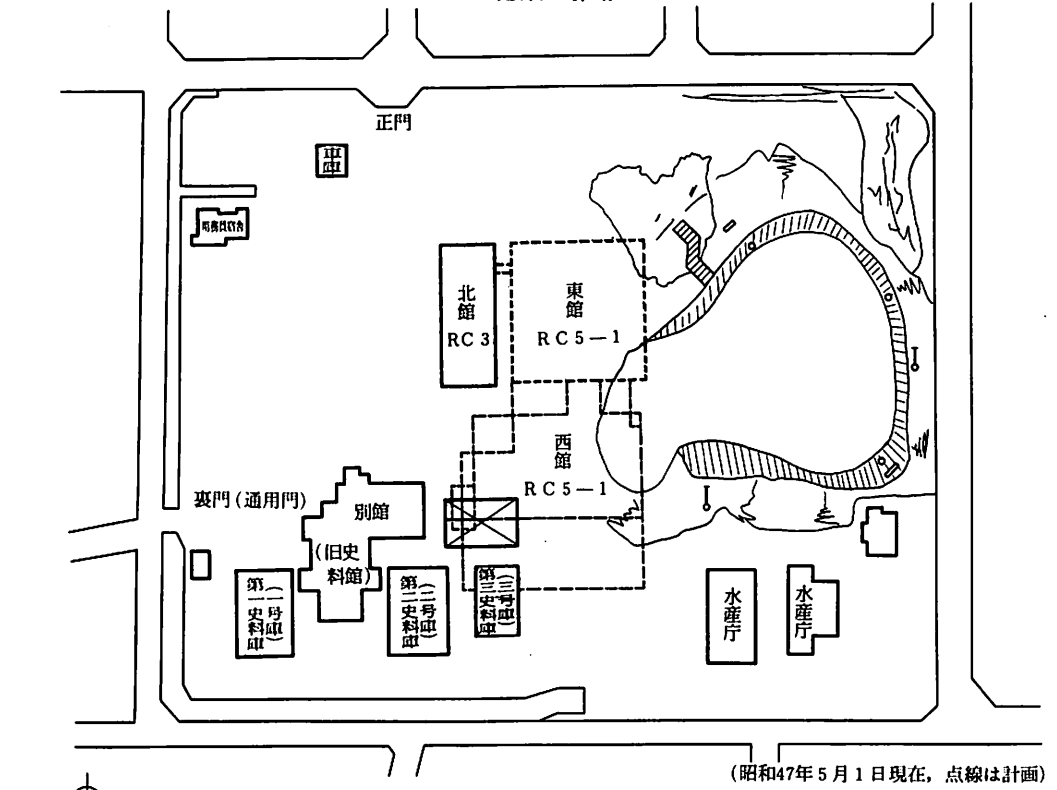
(注) 54年度研究情報部を  
分離改組、整理閲覧  
部設置。

### 14.2 定員の推移

(注)教授欄には館長を含む。

年 度	教 授	助教授	助 手	小 計	事務官	技 官	小 計	合 計
47	9	4	4	17	12	1	13	30
48	9	8	5	22	20	2	22	44
49	9	10	10	29	26	3	29	58
50	9	12	11	32	30	4	34	66
51	9	12	11	32	33	6	39	71
52	10	12	12	34	34	6	40	74
53	10	12	12	34	36	6	42	76
54	10	12	12	34	36	6	42	76
55	10	13	12	35	36	6	42	77
56	10	13	12	35	36	6	42	77

## 15 施設の推移



## 16 予算の推移

単位：千円

年 度	人 件 費	運 営 費	施 設 費	計
47	57,036	60,145	200	117,381
48	113,959	153,640	1,400	268,999
49	169,037	157,498	1,432	327,967
50	196,967	135,667	182,788	515,422
51	231,424	187,848	16,896	436,168
52	285,066	240,332	11,235	536,633
53	278,710	347,295	4,264	630,269
54	297,259	359,513	4,669	661,441
55	346,455	375,677	1,677	723,809
56	391,881	395,547	4,714	792,142

## 17 評議員・各委員会委員

### 17.1 評 議 員

	五十音順	( ) 内は在任年
麻 生 磯 次	(47 ~ 53)	
阿 部 秋 生	(53 ~ )	
石 井 良 助	(47 ~ )	
伊地知 鐵 男	(55 ~ )	
臼 田 甚五郎	(47 ~ )	
大久保 利 謙	(47 ~ 53)	
小田切 進	(53 ~ )	
木 村 礎	(47 ~ 51)	
久曾神 昇	(53 ~ )	
児 玉 幸 多	(47 ~ )	
小葉田 淳	(47 ~ )	
小 林 清 治	(51 ~ 57)	
斎 藤 正	(51 ~ )	
佐々木 八 郎	(47 ~ 55)	
佐 藤 喜代治	(47 ~ )	
杉 本 勲	(47 ~ 51)	
鈴 木 忠 直	(47 ~ 53)	
谷 山 茂	(53 ~ )	
手 塚 富 雄	(47 ~ 57)	
豊 田 武	(47 ~ 55. 3. 29)	
中 村 幸 彦	(47 ~ 53)	
野 間 光 辰	(47 ~ )	
久 松 潜 一	(49 ~ 51. 3. 2)	
秀 村 選 三	(51 ~ 57)	
古 島 敏 雄	(47 ~ 53, 55 ~ )	
宝 月 圭 吾	(47 ~ )	
松 尾 聰	(47 ~ )	
松 田 智 雄	(53 ~ )	
山 岸 徳 平	(47 ~ 53)	
山 本 達 郎	(53 ~ )	

### 17.2 各委員会委員 (委員会の順序は不同, 館内者は省略)

五十音順 ( ) 内は年度

#### 国文学文献資料収集計画委員会委員

秋 山 虔	(51~52)	岸 上 慎 二	(47~49)
伊地知 鐵 男	(47~49)	木 藤 才 蔵	(55~56)
井 上 宗 雄	(47~49, 55~56)	木 村 三四吾	(47~50)
今 井 源 衛	(51~52, 57~ )	久曾神 昇	(47~50)
今 枝 愛 眞	(55~56)	後 藤 重 郎	(52~53)
井 本 農 一	(47~50)	小 松 茂 美	(51~52)
大曾根 章 介	(56~ )	五 味 智 英	(47~50)
尾 形 仂	(52~53, 57~ )	阪 倉 篤 義	(52~53)
尾 上 兼 英	(54~55)	佐 竹 昭 広	(50~51)
梶 原 正 昭	(57~ )	信 多 純 一	(55~56)
片 野 達 郎	(56, 57~ )	神 保 五 彌	(50~51)
金 井 寅之助	(56~ )	鈴 木 勝 忠	(56~ )
金 子 金治郎	(52~53)	鈴 木 棠 三	(51~52)
菊 地 勇次郎	(53~54)	田 中 稔	(57~ )

谷 山 茂 (50~51)  
 築 島 裕 (53~54)  
 角 田 一 郎 (54~55)  
 中 田 剛 直 (53~54)  
 永 積 安 明 (54~55)  
 西 尾 光 雄 (47~49)  
 野 田 寿 雄 (54~55)  
 橋 本 不美男 (47~50, 53~54)  
 浜 田 義一郎 (52~53)

樋 口 芳麻呂 (54~55)  
 益 田 勝 実 (51~52)  
 松 尾 靖 秋 (56~ )  
 松 本 隆 信 (47~49)  
 水 野 稔 (53~54)  
 宮 次 男 (55~56)  
 山 中 裕 (50~51)  
 山 本 信 吉 (57~ )  
 吉 田 幸 一 (50~51)

#### 情報検索委員会委員

石 綿 敏 雄 (47, 49~56)  
 稲 岡 耕 二 (52~ )  
 国 井 利 泰 (47~48)  
 桜 井 宣 隆 (49~55)  
 杉 田 繁 治 (56~ )  
 照 井 武 彦 (56~ )  
 西 村 恕 彦 (48~ )  
 林 四 郎 (48~ )

堀 内 秀 晃 (50~ )  
 水 谷 静 夫 (47~ )  
 山 本 毅 雄 (52~ )  
 オブザーバー  
 小 田 泰 正 (52)  
 石 山 洋 (53~54)  
 金 中 利 和 (55~ )

#### 漢字字種選定委員会委員

稲 岡 耕 二 (50~51)  
 岡 保 生 (50~51)  
 諏 訪 春 雄 (50~51)

徳 川 宗 賢 (50~51)  
 西 尾 光 一 (50~51)

#### 文献目録委員会委員

浅 井 清 (47~ )  
 大 矢 武 師 (48~ )  
 久保田 淳 (47~53, 55~ )  
 小 島 孝 之 (56)  
 篠 原 昭 二 (47~56)  
 杉 本 邦 子 (51~ )  
 瀬 戸 仁 (48~55)

曾 倉 岑 (47~ )  
 浜 野 卓 也 (48~56)  
 原 道 生 (57~ )  
 古 田 東 朔 (57~ )  
 三 木 紀 人 (54)  
 山 口 明 穂 (47~56)

#### 国際日本文学研究集会委員会委員 (昭和52年度は同集会組織委員会)

池 田 重 (52~ )  
 井 本 農 一 (52~ )  
 白 井 甚五郎 (52~ )

ドナルド・キーン (52~ )  
 長谷川 泉 (53~ )

#### 共同研究委員会委員

秋 山 虔 (53～ )  
稻 賀 敬 二 (53～ )  
佐 竹 昭 広 (53～54)  
島 津 忠 夫 (57～ )

神 保 五 彌 (53～ )  
田 中 裕 (55～56)  
松 崎 仁 (53～ )

#### 古典籍総合目録委員会委員

乙 骨 達 夫 (56～ )  
菊 地 勇次郎 (55～ )  
黒 住 武 (56～ )

堤 精 二 (55～ )  
森 川 彰 (56～ )

### 18 調査員・収集員・特別調査員

#### 昭和47年度

##### 調 査 員

##### 北海道東北地区

野田寿雄 福井貞助 原田貞義 片野達郎 橋健二 藤田寛海 鈴木久

##### 関 東 地 区

市村正二 奥田勲 有川美亀男 長谷章久 荻原浅男 桜井祐三

##### 中 部 地 区

渡辺綱也 手崎政男 室木弥太郎 青木紀元 清水茂夫 東明雅 鈴木勝忠 岡部政裕 後藤重郎  
奥村恒哉

##### 近 畿 地 区

宮田正信 浜田啓介 田中裕 金井寅之助 植谷元 田林義信

##### 中国四国地区

金井清光 小原幹雄 赤羽学 稻賀敬二 田中常正 丸山嘉信 松原秀明 土田衛 小関清明

##### 九 州 地 区

今井源衛 米倉利昭 西島宏 迫徹朗 田井庄之助 永井哲雄 大内初夫 仲曾根政善

##### 収 集 員

阿蘇瑞枝 池田利夫 遠藤宏 加美宏 神作光一 久保木哲夫 桑原博史 小町谷照彦 杉谷寿郎  
杉本圭三郎 白石悌三 諏訪春雄 高橋貢 谷脇理史 徳江元正 栃木孝惟 外村南都子 中野幸一  
野村純一 松野陽一 三木紀人 森川昭 山田昭全 水島義治 山下一海 佐々木忠慧 前田富祺  
瀧澤貞夫 島津忠夫 樋口芳麻呂 山下宏明 岡本勝 北岡四良 伊藤正義 榎坂浩尚 片桐洋一  
北川忠彦 岸得蔵 多治比都夫 笹川祥生 日野龍夫 山内潤三 三輪正胤 稲田利徳 佐藤恒雄  
荒木尚 金原理 河野頼人 中野三敏 伊藤敬 前田愛

#### 昭和48年度



## 調 査 員

### 北海道東北地区

野田寿雄 福井貞助 原田貞義 片野達郎 橘健二 藤田寛海 鈴木久

### 関 東 地 区

白藤礼幸 奥田勲 有川美亀男 長谷章久 荻原浅男 桜井祐三

### 中 部 地 区

渡辺綱也 手崎政男 室木弥太郎 青木紀元 清水茂夫 東明雅 鈴木勝忠 岡部政裕 後藤重郎  
西宮一民

### 近 畿 地 区

宮田正信 浜田啓介 信多純一 金井寅之助 植谷元 田林義信

### 中国四国地区

山本嘉将 小原幹雄 赤羽学 稲賀敬二 田中常正 丸山嘉信 松原秀明 土田衛 小関清明

### 九 州 地 区

今井源衛 米倉利昭 西島宏 迫徹朗 田井庄之助 永井哲雄 大内初夫 仲曾根政善

## 収 集 員

伊藤敬 佐々木忠慧 前田富祺 阿蘇瑞枝 池田利夫 遠藤宏 加美宏 神作光一 久保木哲夫  
桑原博史 小町谷照彦 杉谷寿郎 杉本圭三郎 白石悌三 諏訪春雄 谷脇理史 徳江元正 栃木孝惟  
外村南都子 中野幸一 野村純一 前田愛 松野陽一 三木紀人 森川昭 山田昭全 水島義治  
山下一海 瀧澤貞夫 島津忠夫 樋口芳麻呂 山下宏明 岡本勝 北岡四良 伊藤正義 榎坂浩尚  
片桐洋一 北川忠彦 多治比郁夫 笹川祥生 山内潤三 三輪正胤 高橋貢 佐藤恒雄 河野頼人  
中野三敏 荒木尚 金原理 美山靖 岸得蔵

## 昭和49年度

## 調 査 員

### 北海道東北地区

伊藤敬 片野達郎 金沢規雄 野田寿雄 原田貞義 福井貞助 藤田寛海 松野陽一 山木幸一

### 関 東 地 区

浅野晃 阿蘇瑞枝 有川美亀男 池田利夫 遠藤宏 奥田勲 加美宏 神作光一 桑原博史  
小池正胤 桜井祐三 白石悌三 杉谷寿郎 諏訪春雄 谷脇理史 築島裕 栃木孝惟 外村南都子  
島居フミ子 野村純一 原道生 富士昭雄 村瀬敏夫 森川昭 山下一海 山田昭全

### 中 部 地 区

青木紀元 庵途巖 井上敏幸 岡本勝 北岡四良 久保木哲夫 黒川昌享 後藤重郎 佐藤彰  
島津忠夫 鈴木勝忠 滝沢貞夫 田島毓堂 手崎政男 長友千代治 四宮一民 延廣眞治 東明雅  
樋口芳麻呂 水島義治 美山靖 室木弥太郎 村上学 山下宏明 渡辺綱也

### 近 畿 地 区

石原清志 井口洋 伊藤正義 乾裕幸 植谷元 榎坂浩尚 片桐洋一 金光洋三 雲英末雄  
笹川祥生 信太周 信多純一 多治比郁夫 田林義信 浜田啓介 水田紀久 安田富貴子 山内潤三

## 中国四国地区

赤羽学 稻賀敬二 佐藤恒雄 志村有弘 鈴木亨 武久堅 田中常正 田中善信 檀上正孝  
松原秀明 山本嘉将 横井金男

## 九州地区

石川八朗 今井源衛 大内初夫 金原理 棚町知弥 中野三敏 長谷川強 米倉利昭

## 昭和50年度

### 調査員

#### 北海道東北地区

長田貞雄 家郷隆文 菊地靖彦 日下力 高橋伸幸 野田寿雄 松野陽一 山木幸一

#### 関東地区

浅野晃 糸賀きみ江 犬井善寿 遠藤宏 奥野純一 木越隆 小池正胤 新聞進一 杉谷寿郎  
谷脇理史 津本信博 鳥居フミ子 長崎健 野口元大 長谷川強 富士昭雄 増渕勝一 松本寧至  
峯岸明 室伏信助 森川昭 山田昭全 渡辺守邦

#### 中部地区

青木紀元 井上敏幸 大久保広行 岡本勝 久保木哲夫 後藤昭雄 後藤重郎 島津忠夫 太刃川清  
長友千代治 西宮一民 長谷川端 原田行造 樋口芳麻呂 築瀬一雄 山口博

#### 近畿地区

井口洋 伊藤正義 大橋正叔 片桐洋一 金光洋三 雲英未雄 桜井武次郎 信太周 鈴木弘道  
多治比郁夫 野村貴次 福田晃 増田繁夫 水田紀久 安田富貴子

## 中国四国地区

稲田利徳 熊本守雄 志村有弘 鈴木亮 田中善信 檀上正孝 友久武文 松原秀明 三角洋一  
山本嘉将 横井金男 横山邦治

## 九州地区

荒木尚 石川八朗 今井源衛 金原理 田中道雄 棚町知弥 中野三敏 米倉利昭 笠柴治

### 特員調査員

福井迪子 若木太一 田林義信 佐藤恒雄 田島敏堂

## 昭和51年度

### 調査員

#### 北海道東北地区

長田貞雄 家郷隆文 片野達郎 金沢規雄 菊地靖彦 日下力 高橋伸幸 田中隆昭

#### 関東地区

糸賀きみ江 犬井善寿 江本裕 小笠原恭子 岡野道夫 奥野純一 片桐登 木越隆 新聞進一  
津本信博 徳田武 栃木孝惟 長尾高明 長崎健 野口元大 林雅彦 原道生 半田公平  
平田嘉信 増渕勝一 松本寧至 峰岸明 室伏信助 渡辺守邦

#### 中部地区

大久保広行 北岡四良 黒川昌享 後藤昭雄 佐藤彰 沢井耐三 鈴木勝忠 太刃川清 田口和夫  
田中新一 長谷川端 原田行造 築瀬一雄 山口博 山下宏明

#### 近畿地区

池上洵一 今西實 大橋正叔 片山享 加納重文 桜井武次郎 笹川祥生 鈴木弘道 野村貴次  
服部幸造 福田晃 増田繁夫 松平進 村瀬憲夫

#### 中国四国地区

赤羽学 稻田利徳 粕谷宏紀 熊本守雄 曾田文雄 友久武文 原水民樹 三角洋一 美山靖  
湯之上早苗 横井金男 横山邦治 米谷巖

#### 九州地区

荒木尚 大内初夫 小島瓊禮 重松裕己 田中道雄 笠栄治 若木太一 棚町知弥

#### 特別調査員

岡本勝 小泉道 中川芳雄 井上敏幸 坂口弘之 金原理 江口正弘 森川昭 山本幸一

#### 昭和52年度

#### 調査員

#### 北海道東北地区

伊藤敬 井上隆明 片野達郎 金沢規雄 田中隆昭 橋本朝生 原田貞義 松野陽一

#### 関東地区

有川美亀男 江本裕 小笠原恭子 岡野道夫 片桐登 小池正胤 杉谷寿郎 徳田武 栃木孝惟  
外村南都子 長尾高明 中山右尚 林雅彦 原道生 半田公平 平田喜信 森川昭 和田英道

#### 中部地区

上條彰次 北岡四良 久保木哲夫 黒川昌享 佐藤彰 沢井耐三 島津忠夫 鈴木勝忠 田口和夫  
田中新一 西一祥 濱森太郎 増田欣 森正人 山下宏明

#### 近畿地区

池上洵一 今西實 片山享 加納重文 雲英末雄 阪口弘之 笹川祥生 服部幸造 松平進  
松原秀江 真鍋昌弘 水田紀久 村瀬憲夫

#### 中国四国地区

赤羽学 位藤邦生 小泉道 佐藤恒雄 曾田文雄 竹本宏夫 徳満澄雄 原水民樹 美山靖  
湯之上早苗 米谷巖

#### 九州地区

江口正弘 大内初夫 小島瓊禮 重松裕己 中野三敏 米倉利昭 若木太一

#### 特別調査員

岡本勝 小川武彦 松本隆信 新聞進一 名和修 長崎健 土井洋一 横山邦治 安田富貴子  
山本修巳

#### 昭和53年度

#### 調査員

## 北海道東北地区

伊藤敬 井上隆明 高橋伸幸 橋本朝生 原田貞義 松野陽一

## 関東地区

青木賢豪 浅見和彦 有川美亀男 伊藤博 加藤裕一 雲英末雄 小池正胤 佐藤罔久 嶋中通則  
杉谷寿郎 橘りつ 朽尾武 外村南都子 土井洋一 中島尚 中田武司 中山右尚 延廣眞治  
村松友次 和田英道

## 中部地区

岩下武彦 宇野茂彦 岡本勝 上條彰次 久保木哲夫 櫻井治男 島津忠夫 杉浦豊治 高橋亨  
田中喜美春 長友千代治 西一祥 野田千平 長谷川端 濱森太郎 増田欣 森正人 両角倉一  
安田文吉

## 近畿地区

新井栄蔵 大橋正叔 越智美登子 阪口弘之 竹下豊 松原秀江 眞鍋昌弘 水田紀久 宗政五十緒

## 中国四国地区

朝倉尚 位藤邦生 小泉道 佐藤恒雄 竹本宏夫 田村憲治 徳満澄雄 横井金男 横山邦治

## 九州地区

今井正之助 江口正弘 工藤重矩 田中道雄 中野三敏 中本環 米倉利昭

## 特別調査員

井上博嗣 近藤瑞男 下房俊一 徳田武 名和修 宮本瑞夫

## 昭和54年度

## 調査員

## 北海道東北地区

片野達郎 金沢規雄 佐々木久春 新藤協三 高橋伸幸 丸山茂

## 関東地区

青木賢豪 浅見和彦 池田和臣 伊藤博 岩下武彦 岩下紀之 加藤裕一 上参郷祐康 川平均  
近藤瑞男 佐藤罔久 嶋中通則 杉山重行 橘りつ 朽尾武 土井洋一 中嶋尚 中田武司  
成田守 延廣眞治 松尾葦江 三角洋一 宮本瑞夫 村松友次 渡辺秀夫

## 中部地区

宇野茂彦 粕谷興紀 木越治 櫻井治男 杉浦豊治 須田悦生 高橋亨 田中喜美春 田中新一  
長友千代治 長谷川端 服部仁 三保サト子 両角倉一 安田文吉

## 近畿地区

新井栄蔵 井口洋 大橋正叔 越智美登子 加納重文 竹下豊 長坂成行 宗政五十緒 山本登朗

## 中国四国地区

朝倉尚 芦田耕一 熊本守雄 田村憲治 檀上正孝 山崎誠 横井金男 横山邦治

## 九州地区

荒木尚 今井正之助 小川幸三 工藤重矩 白石一美 田中道雄 中本環 原岡秀人 若木太一

## 特別調査員

久保木哲夫 杉谷寿郎 松原秀明 名和修 田中文雅 阪口弘之 菊地仁

## 昭和55年度

### 調 査 員

#### 北海道東北地区

片野達郎 金沢規雄 上岡勇司 菊地仁 佐々木久春 新藤協三 丸山茂

#### 関 東 地 区

池田和臣 石川了 磯水絵 岩下紀之 宇田敏彦 上参郷祐康 川平均 小島孝之 近藤瑞男

杉谷寿郎 杉山重行 鈴木淳 諏訪春雄 徳田武 中野沙恵 中山右尚 成田守 萩原恭男

原道生 牧野和夫 松尾葦江 三角洋一 宮本瑞夫 渡辺秀夫

#### 中 部 地 区

安藤重和 岡本勝 嘉藤久美子 木越治 久保木哲夫 杉戸清彬 須田悦生 田中新一 棚町知弥

西村聡 橋本朝生 服部幸造 服部仁 三保サト子 宮崎荘平 室木弥太郎

#### 近 畿 地 区

大槻修 加納重文 阪口弘之 長坂成行 林省之助 肥田皓三 堀口康生 増田繁夫 松原秀江

三村晃功 山本登朗

#### 中国四国地区

芦田耕一 糸井通浩 稲葉二柄 熊本守雄 小峯和明 檀上正孝 松原秀明 山崎誠 弓削繁

渡邊輝道

#### 九 州 地 区

荒木尚 小川幸三 重松裕己 白石一美 中野三敏 原岡秀人 米倉利昭

#### 特別調査員

小川要一 櫻井治男 高橋伸幸 長友千代治 名和修 野口元大 延廣眞治 長谷川強 横井金男

横山邦治

## 昭和56年度

### 調 査 員

#### 北海道東北地区

上岡勇司 菊地仁 佐藤稔 鈴木則郎 豊島秀範 名子喜久雄 廣瀬朝光 松野陽一

#### 関 東 地 区

石川了 磯水絵 板谷徹 宇田敏彦 小島孝之 佐藤圀久 杉谷寿郎 鈴木淳 諏訪春雄

棚橋正博 千葉義孝 徳田和夫 徳田武 中野沙恵 中山尚夫 中山右尚 延廣眞治 萩原恭男

林雅彦 原道生 牧野和夫

#### 中 部 地 区

安藤重和 岡本勝 嘉藤久美子 久保木哲夫 櫻井治男 佐藤彰 沢井耐三 杉戸清彬 田中喜美春

長友千代治 西村聡 服部幸造 廣岡義隆 宮崎荘平 和田博通

#### 近 畿 地 区

井上博嗣 大槻修 加美宏 阪口弘之 櫻井武次郎 須山章信 関屋俊彦 田中登 林省之介

肥田皓三 廣田哲通 藤田真一 堀口康生 増田繁夫 松原秀江 三村晃功

#### 中国四国地区

糸井通浩 稲葉二柄 小峯和明 佐藤恒雄 松原一義 松原秀明 弓削繁 湯之上早苗 横山邦治  
渡邊輝道

#### 九州地区

今井正之助 江口正弘 河北靖 重松裕己 中野三敏 米倉利昭 笠榮治

#### 特別調査員

小川要一 荒木尚 熊本守雄 黒木祥子 高橋伸幸 檀上正孝 名和修 門清 片野達郎 鈴木勝忠  
阿部泰郎

### 19 客員・外国人研究員(客員教授)

#### 文献資料部第4文献資料室(客員部門)

年度	氏 名	研 究 課 題	期 間
52	小 山 弘 志 (東京大学教養学部教授)	中世文学(主として能・狂言)の研究	52. 6 . 1 ～53. 3 .31
	信 多 純 一 (大阪大学文学部助教授)	元禄期を中心とした近世文学の研究	
53	中 川 徳之助 (広島大学総合科学部教授)	日本漢文学の研究	53. 4 . 1 ～54. 3 .31
	原 道 生 (横浜市立大学文理学部助教授)	近世演劇文学の研究	
54	室 木 弥太郎 (金沢大学教養部教授)	中・近世(特に1600年前後)の芸能史の研究	54. 4 . 1 ～55. 3 .31
	徳 田 武 (明治大学法学部助教授)	近世日本漢文学の研究 近世小説の研究	
55	松 崎 仁 (立教大学文学部教授)	歌舞伎の研究	55. 4 . 1 ～56. 3 .31
	真 鍋 昌 弘 (奈良教育大学助教授)	中世歌謡の研究	
56	伊 藤 正 義 (大阪市立大学文学部教授)	謡曲及び中世神仏説話と注釈書の研究	56. 4 . 1 ～57. 3 .31
	橋 本 朝 生 (山梨大学教育学部助教授)	狂言の研究	

外国人研究員(客員教授)

年度	氏 名	研 究 課 題	期 間
52	Donald Keene (コロンビア大学教授)	日本文学通史の研究	52. 6. 1 ～52.11.30
53	Douglas E. Mills (ケンブリッジ大学東洋学部長)	中世日本の軍記物語 説話文学の研究	53. 9. 1 ～53.12.19
54	Edward G. Seidensticker (コロンビア大学教授)	日本文学通史の研究	54. 4. 16 ～54. 8. 15
55	Bernard Frank (コレージュ・ド・フランス教授)	平安時代文人の研究	55. 8. 15 ～55.12.14
56	Bruno H. Lewin (ルール大学ポッフム教授)	日本文学の発生と展開	56.10.16 ～57. 2. 28

20 共同研究員

(氏名) (年度)  
池田俊郎 (54～56)  
井上宗雄 (52・54)  
尾形 侑 (53～56)  
片桐洋一 (52～53)  
加藤定彦 (52～56)  
川村晃生 (52～53)  
雲英末雄 (54～56)  
久保田 淳 (55～56)  
小町谷 照彦 (52～53)

(氏名) (年度)  
鈴木 淳 (52)  
瀧澤 貞夫 (52～53)  
谷地 快一 (53～56)  
中野 沙恵 (54～56)  
荻原千鶴 (52)  
原岡文子 (53)  
三輪正胤 (54～56)  
森川 昭 (53～56)

※ 各共同研究員の研究班への参加状況および館内研究員については資料—12. 1 共同研究参照

21 旧職員一覧(五十音順)

(氏名)	(当館での最終所属等)	(在任期間)
朝日向 吉 晟	会 計 課	50. 1. 16～54. 3. 31
阿 部 正	会 計 課	48. 4. 16～49. 3. 31
生 永 忠 敏	庶 務 課	50. 4. 1～53. 3. 31
石 塚 忠 雄	会 計 課 長	51. 4. 1～52. 3. 31
石 塚 英 弘	研 究 情 報 部 助 教 授	50. 10. 1～57. 3. 31
石 塚 誠	整 理 閲 覧 部	49. 11. 1～55. 3. 31
市 古 貞 次	館 長	47. 5. 1～57. 4. 1

井上勝生	史料館助手	47. 10. 1~53. 2. 28
岩下武彦	研究情報部助手	49. 4. 1~52. 3. 31
内田保廣	研究情報部助手	49. 4. 1~54. 3. 31
榎本宗次	史料館長・教授	47. 5. 1~57. 3. 11
大久保正	文献資料部長・教授	47. 6. 1~55. 9. 1
小野義信	史料館	48. 4. 1~50. 3. 31
加藤定彦	文献資料部助手	49. 4. 1~52. 3. 31
金坂勲	庶務課長	49. 4. 1~53. 3. 31
鎌田永吉	史料館教授	47. 5. 1~51. 6. 30
河井惟雄	會計課	47. 10. 1~49. 6. 30
川崎仁一郎	庶務課長	47. 5. 1~49. 3. 31
北野幹男	會計課	51. 10. 16~53. 9. 30
草壁貞二	會計課	47. 5. 1~49. 9. 30
久保田紘一	庶務課	52. 7. 1~55. 3. 31
佐竹良夫	庶務課	50. 5. 16~51. 3. 31
柴田一男	會計課長	52. 4. 1~55. 3. 31
清水石照	史料館	47. 5. 1~47. 9. 30
下重孝之	庶務課長	53. 4. 1~55. 3. 31
菅原通夫	會計課	53. 4. 1~56. 3. 31
杉山重行	會計課	47. 10. 1~53. 3. 31
鈴木壽	研究情報部助教授	48. 4. 1~53. 3. 31
高橋きえ	史料館長・教授	47. 5. 1~52. 3. 31
高橋五郎	研究情報部	51. 11. 1~54. 12. 31
高橋内(旧姓清水)とみ	會計課	53. 11. 1~57. 3. 31
竹(旧姓中内)博司	研究情報部	49. 4. 16~50. 12. 31
德田和夫	庶務課	50. 7. 1~53. 3. 31
戸波修司	文献資料部助手	49. 4. 1~55. 3. 31
内藤英雄	庶務課	50. 10. 1~53. 3. 31
長岡篤	整理閲覧部	51. 11. 1~54. 4. 30
永田治樹	會計課	51. 4. 1~56. 4. 30
中村俊亀	整理閲覧部助手	50. 10. 1~56. 3. 31
中村博史	史料館助教授	47. 5. 1~50. 9. 30
西村瑞夫	庶務課	50. 4. 1~53. 3. 31
新田三智也	庶務課	47. 5. 1~56. 3. 31
野田頭勉	庶務課	50. 4. 1~52. 6. 30
馬場伸郎	會計課	48. 5. 1~50. 3. 31
	庶務課	51. 4. 1~55. 3. 31



日 野 龍 夫	文 献 資 料 部 助 教 授	48. 4. 1~52. 3. 31
福 島 壮 敏	会 計 課	48. 6. 16~51. 9. 30
福 田 幸 雄	庶 務 課	48. 11. 1~51. 3. 31
藤 沢 美 智 子 (旧姓 酒井)	整 理 閱 覧 部	51. 4. 1~54. 6. 30
古 川 清 彦	研 究 情 報 部 長 ・ 教 授	47. 5. 1~56. 4. 1
前 田 正 満	庶 務 課	48. 4. 1~50. 5. 15
松 岡 進	庶 務 課	51. 11. 1~53. 6. 4
松 田 修	文 献 資 料 部 教 授	47. 7. 1~56. 3. 31
松 永 義 成	会 計 課	49. 7. 1~51. 10. 19
松 林 聰	会 計 課	51. 3. 1~51. 3. 31
三 国 治	庶 務 課	53. 4. 1~56. 3. 31
宮 崎 久 敬	会 計 課 長	47. 5. 1~51. 3. 31
三 好 明	会 計 課	48. 7. 1~54. 3. 31
村 瀬 庄 蔵	庶 務 課	48. 4. 1~50. 3. 31
森 脇 克 彦	会 計 課	47. 6. 1~51. 6. 30
兩 角 晶 仁	庶 務 課	49. 4. 16~53. 3. 31
矢 口 吉 典	会 計 課	51. 7. 1~56. 3. 31
吉 野 幸 夫	管 理 部 長	47. 5. 1~51. 6. 30
渡 辺 章	管 理 部 長	51. 7. 1~54. 6. 15
和 田 英 道	研 究 情 報 部 助 手	48. 5. 1~51. 3. 31
和 田 博 通	研 究 情 報 部 助 手	52. 4. 1~55. 3. 31

## 22 現 職 員 (昭和57年 7 月 1 日現在)

(所 属)	(氏 名) (着任年月)	(所 属)	(氏 名) (着任年月)
館 長 管 理 部 (庶 務 課) 課 長 課 長 補 佐 庶 務 係 長  人 事 係 長 主 任	小 山 弘 志 (56. 4)	事 業 係 長	黒 瀧 裕 (51. 5)
			河 野 浩 (53. 4)
	小 泉 武 (54. 6)	渉外連絡係長	寄 元 晴 美 (51. 4)
			大 川 雄 司 (55. 4)
	林 昇 (55. 4)	(会 計 課)	
	石 川 純 男 (56. 4)	課 長	内 山 日 出 男 (55. 4)
	吉 原 定 行 (55. 4)	課 長 補 佐	寺 尾 昌 剛 (47. 5)
	日向野 隆 司 (53. 4)	総 務 係 長	葛 西 邦 明 (54. 4)
	我 妻 静 子 (50. 3)	主 任	小 関 仁 志 (56. 4)
	石 川 妙 子 (57. 4)		川 口 安 名 (53. 4)
人 事 係 長 主 任	湯 口 太 多 史 (56. 4)		中 野 路 子 (48. 6)
	立 野 雅 敏 (56. 6)	経 理 係 長	小 川 正 明 (54. 4)
	鈴 木 昭 (54. 1)		植 木 祐 輔 (49. 4)

	鈴木章文 (53.3)		末澤明子 (52.10)
用度係長	竹田哲人 (56.6)	(情報処理室)	
	中村洋一 (49.4)	室長併・助教授	田嶋一夫 (47.5)
	福島慎一 (55.4)	助教授	内藤衛亮 (50.11)
	竹之内重雄 (47.5)	助教授	宮澤彰 (50.4)
	秋山健 (47.5)	助手	平澤龍介 (55.4)
管財係長	和田千幸 (57.4)	電算機取扱主任	星野雅英 (50.4)
	宮浦祐一 (53.11)		岡野恵 (56.6)
<u>文献資料部</u>		<u>整理閲覧部</u>	
部長併・教授	福田秀一 (47.7)	部長併・教授	本田康雄 (47.8)
(第一文献資料室)		(整理閲覧室)	
室長併・助教授	伊井春樹 (48.10)	室長併・教授	本田康雄
助教授	新藤協三 (56.4)	助手	土田節子 (52.5)
助手	高田信敬 (52.4)	助手	浅井直子 (57.4)
	大西純子 (57.4)	受入係長	石井啓豊 (56.4)
	奥村逸子 (57.4)		高島津雪 (49.4)
(第二文献資料室)			山城玲子 (48.4)
室長併・教授	村上學 (49.10)		鈴木康生 (55.4)
教授	福田秀一		椿眞由美 (56.10)
助手	小林健二 (55.4)	整理係長	鈴木一正 (54.5)
(第三文献資料室)		閲覧係長	増井ゆう子 (54.4)
室長併・教授	長谷川強 (57.4)		歌野博 (53.4)
助教授	渡邊守邦 (52.4)		大倉加代子 (51.5)
助手	島原泰雄 (49.4)		中村スミ子 (49.4)
(第四文献資料室)		(参考室)	
室長併・教授	福田秀一併	室長併・助教授	岡雅彦 (48.4)
客員教授(大正大学)	山田昭全 (57.4)	助手	阿部好臣 (53.4)
助教授(広島大学)	米谷巖 (57.4)		大石博昭 (51.4)
<u>研究情報部</u>		(マイクロ室主任)併	土田節子
部長併・教授	棚町知弥 (56.4)	<u>史料館</u>	
(情報室)		館長(事務取扱)	小山弘志
室長併・教授	山中光一 (49.4)	(第一史料室)	
教授	棚町知弥	室長併・教授	大野瑞男 (47.5)
助手	小野尚志 (52.9)	助教授	原島陽一 (47.5)
	常世田光子 (50.10)	助手	笠谷和比古 (53.4)
(編集室)		(第二史料室)	
室長併・助教授	桑野敬仁 (57.4)	室長併・教授	安澤秀一 (53.4)
助手	奥出健 (49.11)	助教授	鶴岡実枝子 (47.5)

助 手 大 藤 修 (50.10)

(第三史料室)

室長(併)・教授 藤 村 潤一郎 (47.5)

助 教 授 浅 井 潤 子 (47.5)

助 手 安 藤 正 人 (52.4)

(情報閲覧室)

室長(併)・教授 大 野 瑞 男

山 田 哲 好 (50.7)

深 川 美枝子 (48.4)

(事 務 室) 林 宏 保 (48.11)

廣 瀬 睦 (56.8)

( )内は当館への着任年月で、現職への就任年月とは必ずしも一致しない。

## 23 現評議員・運営協議員

### 23.1 現評議員 (任期 昭和57年7月1日～昭和59年6月30日)

阿 部 秋 生	久曾神 昇	林 大
石 井 良 助	児 玉 幸 多	古 島 敏 雄
伊地知 鐵 男	小葉田 淳	宝 月 圭 吾
井 上 光 貞	斎 藤 正	松 尾 聰
臼 田 甚五郎	佐 藤 喜代治	松 田 智 雄
小田切 進	谷 山 茂	山 本 達 郎
加 藤 周 一	野 間 光 辰	

### 23.2 運営協議員 (任期 昭和57年8月1日～昭和59年7月31日)

(館 外)

秋 山 虔	佐 竹 昭 廣	尾 藤 正 英
今 井 源 衛	神 保 五 彌	松 本 隆 信
小 林 清 治	秀 村 選 三	水 谷 静 夫

(館 内)

大 野 瑞 男	福 田 秀 一	安 澤 秀 一
小 山 弘 志	藤 村 潤一郎	山 中 光 一
棚 町 知 弥	本 田 康 雄	
長谷川 強	村 上 學	

## 24 国立学校設置法(抄)

〔昭和24年5月31日〕  
〔法律第150号〕

最終改正 昭和56年4月14日 法律第23号

### 第1章 総則

(設置及び所轄)

第1条 この法律により、国立学校を設置する。

2 国立学校は、文部大臣の所轄に属する。

(国立学校)

第2条 この法律で「国立学校」とは、学校教育法(昭和22年法律第26号)第1条に定める学校で国が設置するものをいい、第3章の3及び第3章の4に定める機関を含むものとする。

2 国立の小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校、養護学校及び幼稚園は、この法律に特別の定をするもののほか、政令で定めるところにより、国立大学若しくは国立大学の学部又は国立短期大学に附属して設置するものとする。

### 第3章の3 国立大学共同利用機関

(国立大学共同利用機関)

第9条の2 国立大学における学術研究の発展に資するための国立大学の共同利用の機関として、それぞれその目的たる研究等を行い、かつ、国立大学の教員その他の者で当該機関の目的たる研究と同一の研究に従事するものに利用させるため、次の表に掲げるとおり、研究所等を置く。

国立大学共同利用 機関の名称	目 的
高エネルギー物理学研究所	高エネルギー陽子加速器による素粒子に関する実験的研究及びこれに関連する研究
国文学研究資料館	国文学に関する文献その他の資料の調査研究、収集、整理及び保存
国立極地研究所	極地に関する科学の総合研究及び極地観測
宇宙科学研究所	宇宙理学及び宇宙工学の学理及びその応用の研究

2 前項の表に掲げる機関は、国立大学その他の大学の要請に応じ、当該大学の大学院における教育に協力することができる。

### 第4章 職及び職員

(国立学校の職)

第10条 各国立学校に置かれる職の種類は、文部省令で定める。

(国立学校に置かれる職員の任免等)

第11条 国立学校に置かれる職員の任免、懲戒その他人事管理に関する事項については、国家公務員法(昭和22年法律第120号)及び教育公務員特例法の定めるところによる。

### 第5章 雑則

(命令への委任)

第13条 この法律又は他の法律に別段の定めのあるものを除くほか、国立学校の位置並びに組織及び運営

の細目については、文部省令で定める。

25 文 部 省 令(抄)

25. 1 国立学校設置法施行規則(抄)

〔昭和39年4月1日〕  
〔文部省令第11号〕

最終改正 昭和56年4月14日 文部省令第21号

第4章 国立大学共同利用機関

(位置)

第46条 国立大学共同利用機関の位置は、次の表に掲げるとおりとする。

国 立 大 学 共 同 利 用 機 関 の 名 称	位 置
高エネルギー物理学研究所	茨 城 県
国文学研究資料館	東 京 都
国立極地研究所	東 京 都
宇宙科学研究所	東 京 都
国立民族学博物館	大 阪 府
国立歴史民俗博物館	千 葉 県
岡崎国立共同研究機構	愛 知 県
放送教育開発センター	千 葉 県

(組織及び運営等)

第47条 国立大学共同利用機関に置かれる職の種類並びに国立大学共同利用機関の組織及び運営の細目については、国立大学共同利用機関組織運営規則（昭和52年文部省令第12号）の定めるところによる。

25. 2 国立大学共同利用機関組織運営規則(抄)

〔昭和52年4月18日〕  
〔文部省令第12号〕

最終改正 昭和57年9月13日 文部省令第32号

第1章 総則

(機関の長等)

第1条 国立大学共同利用機関（以下「機関」という。）に、次の各号に掲げる区分に応じ、それぞれ当該各号に掲げる職員を置く。

- (1) 岡崎国立共同研究機構 機構長
- (2) 高エネルギー物理学研究所、国立極地研究所、宇宙科学研究所、岡崎国立共同研究機構に置かれる分子科学研究所、基礎生物学研究所及び生理学研究所並びに放送教育開発センター 所長
- (3) 国文学研究資料館、国立民族学博物館及び国立歴史民俗博物館 館長

2 機構長は、岡崎国立共同研究機構の業務を掌理する。

3 所長又は館長は、それぞれ所務又は館務を掌理する。

(職員の種類)

第2条 前条に掲げるもののほか、機関に次の職員を置く。

- (1) 教授
- (2) 助教授
- (3) 助手
- (4) 事務職員
- (5) 技術職員

2 機関に、前項に掲げるもののほか、講師（非常勤の者に限る。以下同じ。）を置くことができる。

3 教授は、研究に従事し、及び国立大学その他の大学の大学院における教育に協力するための学生の研究指導（以下「研究指導」という。）を行う。

4 助教授は、教授の職務を助ける。

5 講師は、教授又は助教授に準ずる職務に従事する。

6 助手は、教授及び助教授の職務を助ける。

7 事務職員は、庶務、会計等の事務に従事する。

8 技術職員は、技術に関する職務に従事する。

(外国人研究員)

第3条 機関の長は、文部大臣の承認を受けて、国家公務員法（昭和22年法律第120号）第2条第7項に規定する勤務の契約により、外国人を研究に従事させることができる。

2 前項の規定の実施に関し必要な事項については、別に文部大臣が定める。

(評議員)

第4条 機関（岡崎国立共同研究機構（以下本章において「機構」という。）に置かれる研究所を含む。以下この条において同じ。）に、それぞれ評議員20人以内（機構にあつては、15人以内とする。）を置く。

2 評議員は、当該機関の事業計画その他の管理運営に関する重要事項について、当該機関の長に助言する。

3 評議員は、国立大学の学長その他の学識経験のある者（機構にあつては、機構に置かれる各研究所の評議員とする。）のうちから、文部大臣が任命する。

4 評議員は、非常勤とする。

5 評議員の任期その他評議員に関し必要な事項は、別に文部大臣が定める。

(運営協議員)

第5条 機関（機構にあつては、機構に置かれる研究所とする。以下この条において同じ。）に、それぞれ運営協議員21人以内を置く。

2 運営協議員は、当該機関の共同研究計画に関する事項（国立極地研究所にあつては、極地観測の実施とする。）その他の機関の運営に関する重要事項で当該機関の長が必要と認めるものについて、当該機関の長の諮問に応じる。

3 運営協議員は、当該機関の職員及び当該機関の目的たる研究と同一の研究に従事する国立大学の教員その他の者のうちから、文部大臣が任命する。

4 運営協議員は、非常勤とする。

5 運営協議員の任期その他運営協議員に関し必要な事項は、別に文部大臣が定める。

(客員教授)

第6条 機関の長は、常時勤務の者以外の職員で当該機関の研究に従事する者又は第3条第1項の規定により研究に従事する外国人のうち、適当と認められる者に対しては、客員教授を称せしめることができる。

2 前項の規定の実施に関し必要な事項については、別に文部大臣が定める。

(名誉教授)

第6条の2 機関は、当該機関に機関の長(機構に置かれる研究所の長を含む。)、教授又は助教授として勤務した者であって、当該機関の目的達成上特に功績のあった者に対し、当該機関の定めるところにより、名誉教授の称号を授与することができる。

### 第3章 国文学研究資料館

(内部組織)

第11条 国文学研究資料館に、次の4部を置く。

- (1) 管理部
- (2) 文献資料部
- (3) 研究情報部
- (4) 整理閲覧部

2 前項に掲げるもののほか、国文学研究資料館に史料館を置く。

(管理部)

第12条 管理部においては、庶務、会計及び施設等に関する事務を処理する。

2 管理部に、その所掌事務を分掌させるため、文部大臣が別に定めるところにより、課を置く。

3 管理部及び課に、それぞれ部長及び課長を置き、事務職員をもって充てる。

4 部長は、館長の命を受け、部の事務を掌理する。

5 課長は、上司の命を受け、課の事務を処理する。

(文献資料部、研究情報部及び整理閲覧部)

第13条 文献資料部においては、国文学に関する文献その他の資料の調査研究及び収集を行う(研究情報部、整理閲覧部及び史料館の所掌に属するものを除く。)

2 研究情報部においては、国文学に関する研究文献及び研究に必要な情報の調査研究及び収集を行う(史料館の所掌に属するものを除く。)

3 整理閲覧部においては、国文学に関する文献その他の資料の整理、保存及び閲覧を行い、並びにこれらに関し必要な調査研究を行う(史料館の所掌に属するものを除く。)

4 文献資料部、研究情報部及び整理閲覧部に、それぞれの所掌事務を分掌させるため、文部大臣が別に定めるところにより、室を置く。

5 文献資料部、研究情報部及び整理閲覧部並びに室に、それぞれ部長及び室長を置き、部長は教授をもって、室長は教授又は助教授をもって充てる。

6 部長は、館長の命を受け、部の事務を掌理する。

7 室長は、上司の命を受け、室の事務を処理する。

(史料館)

第14条 史料館においては、我が国の史料で主として近世のものの調査研究、収集、整理、保存及び閲覧を行う。

2 史料館に長を置き、教授をもって充てる。

3 前項の長は、史料館の事務を掌理する。

4 史料館に、その所掌事務を分掌させるため、文部大臣が別に定めるところにより、室を置く。

5 室に室長を置き、教授又は助教授をもって充てる。

6 室長は、上司の命を受け、室の事務を処理する。

(各部及び史料館の連携)

第15条 各部及び史料館においては、国文学研究資料館の目的を効果的に達成するため、相互に緊密に連携し、館務の一体的な処理に当たるものとする。

## 26 文部省訓令(抄)

### 国立大学共同利用機関の内部組織に関する訓令(抄)

(昭和52年4月18日)  
文部省訓令第8号

最終改正 昭和56年4月14日 文部省訓令第20号

(管理部等に置かれる部、課及び室)

第1条 国立大学共同利用機関(以下「機関」という。)の管理部等に置かれる部、課及び室は、次の表に掲げるとおりとする。

機 関 の 名 称	部 等 の 名 称	課又は室の名称
国 文 学 研 究 資 料 館	管 理 部	庶務課 会計課
	文 献 資 料 部	第一文献資料室 第二文献資料室 第三文献資料室 第四文献資料室
	研 究 情 報 部	情報室 編集室 情報処理室
	整 理 閲 覧 部	整理閲覧室 参考室
	史 料 館	第一史料室 第二史料室 第三史料室 情報閲覧室

備考 国文学研究資料館文献資料部第四文献資料室は、客員研究室とし、当該研究室の教授又は助教授は、国文学研究資料館の目的たる研究と同一の研究に従事する者のうちから任命する。



- 2 前項に規定する部（管理局に置かれる部に限る。），課及び室の所掌事務に関しては，その機関の長が定め，文部大臣に報告しなければならない。